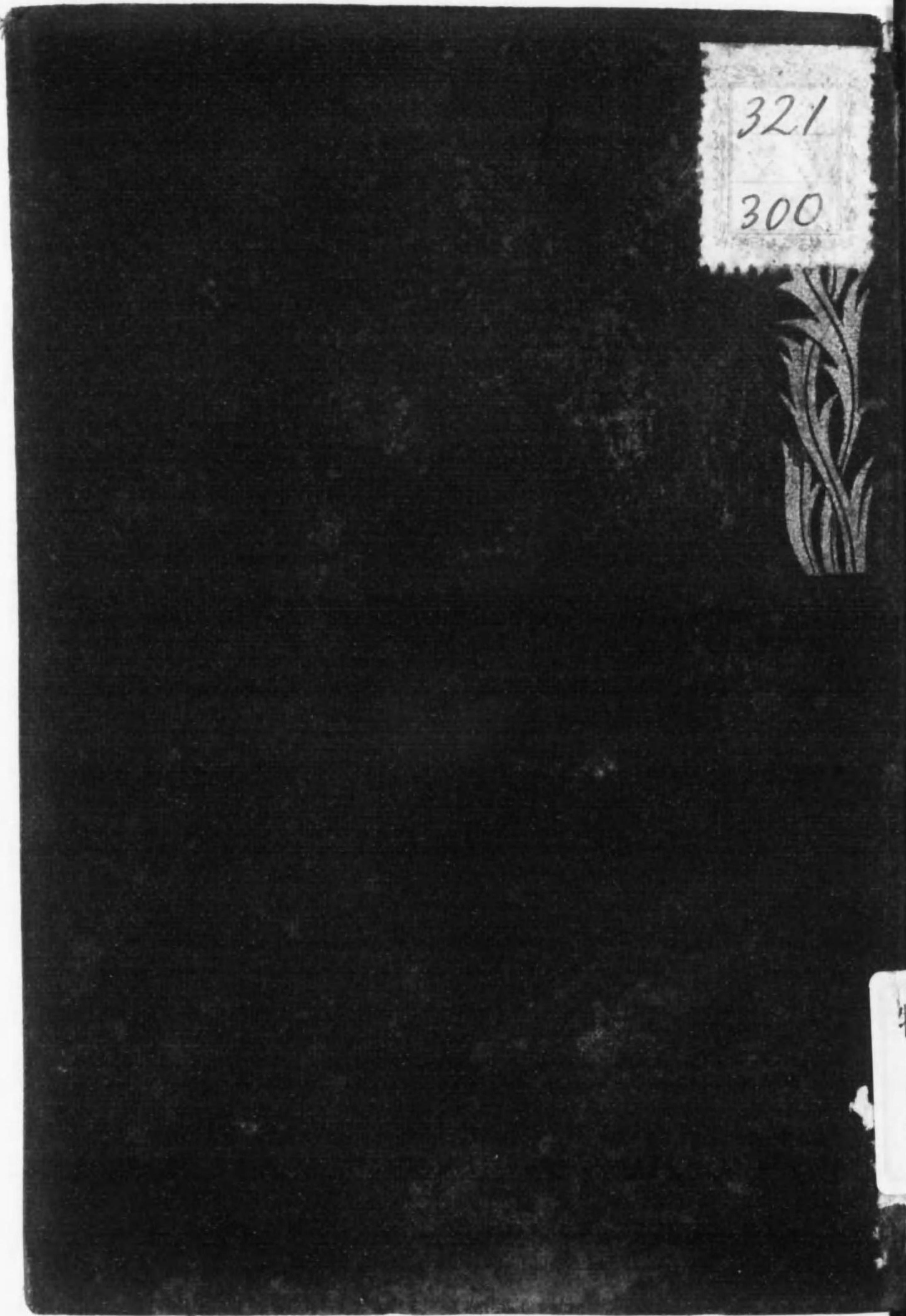
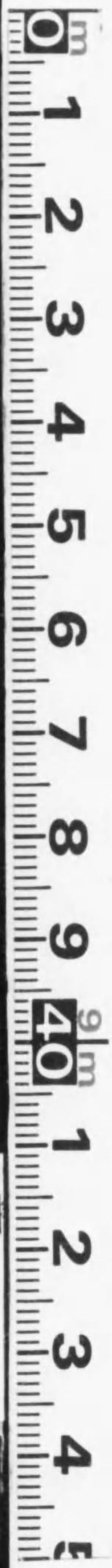


始



321
300



御堂關白日記解題

一、「御堂關白日記」は、平安中期の文藝復興期を政治的に代表し、兼ねて此盛期の中心人物であつた詩人政治家藤原道長（九六六「康保三年」——一〇二七「萬壽四年」）の日記である。世に之を別に「道長公記」、「御堂御記」、「藤原道長日記」等と稱し、また道長の嫡流たる近衛公時家（陽明家）に於ては「御堂御曆日記」とも稱してゐる。

一、近く大正九年（一九二〇）に出版された「陽明世傳」の「解説」に由れば、道長より四代の孫、藤原忠實（知足院關白、一〇七八「承暦二年」——一一六二「應保二年」）の筆と傳へられる永久五年（一一七一）二月十日の文書に「御堂御記三十六卷、在目録」と載せられてゐるから、この三十六卷が「御堂關白日記」のもとの總卷數であらうと云ふ事である。是れは「御堂御曆日記」と云ふ別稱の示す如く、當時の陰陽寮より、半年を一巻とし、國忌日其他陰陽道に於て云ふ吉凶忌諱の日を具注して朝廷に奉り、また官人の間に頒ちたる曆、謂ゆる「具注曆」の毎日の條下に書き、記事多くして書くべき餘白の無い時は裏面に書いたので、半年づつが一つの卷子本を成し、其れが三十六巻と云へば十八九年間の日記が有つた筈である。然るに近衛公時家に現存するものは長徳四年（九九八）秋冬の巻に始まり寛仁四年（一〇二〇）春夏の巻に終る十三巻だけであるが、其れは悉く道長の自筆本である。

一、道長と同世の人の日記で藤原實資（九五七「天徳元年」——一〇四六「永承元年」）の「小右記」、藤原行成（九七二「天祿三年」——一〇二七「萬壽四年」）の「權記」の如き漢文體のものより「紫式部日記」、「和泉式部日記」の如き國文體のものまで一も自筆本を傳へないのに、「御堂關白記」のみは其大半を逸したとは云へ、十三卷の自筆本が現存する事は奇蹟である。近衛直賢氏が我我に語られた所に由れば、近衛家では代代是れを第一の重寶とし、函に收めたるまま何時にても背に負ひて他に移し得る装置を施し、常に寶藏の入口より遠からぬ所に居て、火災其他の事變に備へられて居たが、幸にも近衛家は平安末期以來一度も焼亡の厄に遇はれなかつたと云ふ事である。然かも此自筆本の大半が散逸したと云ふのは種種の理由の有る事であらうが、甚だ遺憾な事である。世間にこの散逸した諸卷の殘缺が折折發見されると聞くが、其等のものを出来るだけ今の間に蒐集して、少しでも原本の遺漏を補つて置きたいものである。

一、近衛家にはまた右の「道長自筆本」十三卷の外に、道長の子頼通（宇治關白、九九二「正曆三年」——一〇七四「承保元年」）が手寫して置いた「御堂關白記」十六卷が現存してゐる。是れは原本が具注體の關係上一年を二卷に分ちたると異なり、一年を一巻に書き、また記事の稀疎なる所は一年以上に亘つて一巻に收めてゐる。この頼通自筆の寫本もまた珍重すべきものたるは云ふまでも無い。是れも道長の自筆本と同じく幾卷か散逸してゐるらしいが、併し自筆本に比べると、前に長徳元年（九九五）の記事が少しばかり有り、後に寛仁五年（二月二日治安と改元、一〇二一）の記事が添つてゐる。また此寫本の有るが爲めに、

現存「道長自筆本」の中の關逸したる部分をも知ることを得るのである。

一、從來「御堂關白記」其他の稱を以て學者の間に傳寫されて居たものは、右の頼通の寫本を更に抄略したものであるらしい。尾崎雅嘉（一七五七「寶曆七年」——一八二七「文政十年」）の「群書二覽」に「道長公記、寫本、五卷。御堂關白道長公の記録なり。一條院の寛弘二年正月より三條院の長和二年までの記なり」と載せてゐるのが其れである。編者の一人與謝野晶子は曾て明治四十年に東京帝國大學の圖書館に有る同種の抄略寫本五卷を讀んだ。其時の記憶に由つて、此「日本古典全集」の一冊分に收める豫定を立てたのであつたが、以上の如く近衛公爵家に現存する道長の自筆本及び頼通の寫本の分量を知るに至つて、遽かに上下二卷に分つて印行する事としたのである。

一、さて近衛公爵家は、特に學問上の資料として、その珍藏の二本を寫すことの快諾を與へられたのであるが、我我は自ら其れを手寫する時の得難きに苦んだ。然るに幸にも宮内省に於て、明治十七年（一八八四）に近衛家の「道長自筆本」に就て寫されたものが一本あり、また明治十八年（一八八五）に同じく近衛家の「頼通本」に就て寫されたものが一本ある事を知つて、宮内大臣の許可を得、先づ其れを彼此對照して淨寫した。我我の意は、この我我の寫本を自ら携へて近衛家に赴き、彼の二本を拜覽して對校する積りであつたが、他書の校異校訂に追はれつつある我我は、同じく其時を得難いが爲めに、今は姑く宮内省圖書寮の二本に由り、其中の「道長自筆寫本」を底本とし、足らざる所を「頼通本寫本」を以て補ふに

留めた。

一、「御堂關白記」には從來版本が無かつた。茲に「日本古典全集」が初めて版本として普及の端を開き、間接ながら、近衛家現存の「道長自筆本」及び「頼通本」を公刊する事を得たのである。

一、「頼通本」に由ると長徳元年七月の日記の一部が傳はつてゐる。其れを我は下巻の末に添へる事にした。想ふに道長は此年あたりから日記の筆を執り初めたのであらう。此四月に兄の關白道隆が薨じ、次いで關白に任ぜられた兄の道兼が在任七日にして五月に薨じたので、姉にして一條天皇の御母に在らせられる東三條女院の思召と一世の信望とに由り、左大將であつた卅歳の道長が六月に右大臣に昇任し、内覽の官旨を受けて、久しき離伏の地より遽かに榮華の第一歩を占め得た年である。

一、道長の傳記は今後大に修正せられねばならない。徳川時代の史家には儒學の人多く、平安中期の生活を當時の藝術、宗教及び經濟事情に就て考察せず、概ね漢意を以て空疎の論を立て、或は道隆派の失脚に同情する餘り、表面に現れたる道長一門の榮華に反感を持つ俗情から、道長の「人」としての批判に甚だしく刻薄なる所がある。

一、道長は關白藤原兼家（九二九「延長七年」——九九〇「永祿二年」）を父とし、攝津守藤原中正の女、贈正一位時姫を母として村上天皇の康保三年（九六六）に生れた。兼家の子としては道隆、道綱、超子、道兼、詮子、道長、綏子と云ふ順である。道綱が「蜻蛉日記」の作者（陸奥守藤原倫寧の女）の出であり、

綏子が大貳藤原國章の女の出である外は悉く母を同じくしてゐる。清少納言は他を評して諱まざる女であるが、道長がまだ廿八九歳にして中宮太夫であつた頃、兄の關白道隆に對し清涼殿の前に於て跪拜したる用意と姿態とを中宮定子に啓して激賞した事を回想して、「大夫殿〔道長〕の居させ給へるを、返す返す聞ゆれば、例の思ふ人、と笑はせ給ふ。況して此後の御有様見奉らせ給はましかば、道理と思召されなまし」と「枕草紙」に書いてゐるのを見ると、女詩人の敏感は早くより道長の英資を看破し、己が仕へた道隆派の失意時代にも猶公平なる批評を爲し得たのである。また同じ頃、道長が左大臣源雅信の女倫子に戀したる初めの事を、赤染衛門が「榮華物語」の「さよさまの悦」に叙して「土御門の源氏の左大臣殿の御女二所、嫡腹に、いみじくかしつき率りて、后かねと思し聞え給ふを、如何なる便りにか、此三位殿〔道長〕、この姫君を如何でと、心深く思ひ聞え給ひて、氣色だち給ひけり。されど大臣、あな物狂ほし、事の外や、誰か只今然様に口側黄ばみたる主達、出だし入りて見んとすると、ゆめに聞し召し入れぬを、母上、例の女に似給はず、いと心賢く、かどかどしくおはして、などてか唯だ此君を婿に見ざらん、時時物見などに出て見るに、此君尋常ならず見ゆる君なり、唯だ我に任せ給はれかし、此事悪しうや有りけると聞え給へど云云」と云ひ、また「只今は此殿〔道長〕こそ今、行末、遙かけなる御有様に頼もしく見えさせ給ふめれ。斯様にこそはおはしまさうめるに、只今御位も有るが申にいと淺く、御年なども萬づの御弟におはすれど、如何なる節をか見奉るらん、世の人、この三位殿を、やんごとなきものにぞ、同

じ家の子の御中にも、人殊に申し思ひたる」と云つたのは、早く公私の信望が青年の道長に歸する大勢にあつたことを述べたものである。

一、兄の關白道隆の晩年は子伊周の愛に溺れ、また妻高階貴子の一族に私恩を加へる事が過ぎた。曾て藤原時平が醍醐天皇の昌泰二年（八九九）に廿九歳にして左大臣に任ぜられた事さへ物議を生じたのに、廿一歳の伊周が内大臣に任じ、岳父成忠に二位を賜り、妻の諸兄弟、明順、信順、道順等が揃つて國司に任ぜられたるが如きは、道長ならずとも、世人の共に平かならざるを得なかつた事であらう。伊周と其弟中納言隆家の配嫡は畏くも華山法皇を射奉ると共に、太元帥法を修して東三條女院を呪咀し奉つた大逆不敬の罪に由るのであるから、もとより道長の救解し得る範圍で無い。しかも道長は一年ならずして特赦の恩典を奏し、伊周の爲め新たに儀同三司の官を設けて之に任じ、其後も優遇至らざる無き事實を示してゐる。道隆の重用したる官人にして、道長の時代に特に貶黜せられたる者を見ない。道長が年の壯なるに及んで、ますます寛厚長者の風を加へ、學問藝術を敬重し、他の才能を愛し、慈仁の情の博大であつた事は、この「御堂關白記」を初め、赤染衛門の「榮華物語」、藤原實資の「小右記」等を讀む者の知り得る著しき事實である。

一、道長は若き日より佛教を信すること篤く、淨妙寺、觀修寺、法性寺其他の大寺を建て、最後に壯麗なる法成寺の七堂を建てて其れに住し、自ら入道して法名を行觀及び行覺と稱した。一生に幾千體の佛像を造らしめ、また屢手づから多くの經を寫し、僧を請じて修善供養を行ひ、論議說經を聞き、行香禮堂の大會を催すこと無數であつた。是れ實に道長の善人たる事を證するものである。是れを以て道長が現世の利福をのみ祈るものとするは當らない。「御堂關白記」寛弘八年三月廿七日の條に、家にて法華經の供養を行ふに當り、博士大江匡衡が道長に代つて作つた願文に現世の事を多く云ふのは本意に非ずと云つて改作させてゐるのを思ふべきである。しかも道長の熱烈なる信仰には、「即身成佛、娑婆即寂光土」の大乗的意味が有り、之に融合するに學問藝術を以てしたから、洪學善辯の高僧を輩出せしめ、建築、音樂、彫刻、繪畫、其他工藝美術一般の進歩を促して多くの名匠を崛起せしめるに至つた。

一、道長はまた小説に短歌に新文學の激勵者であり保護者であつた。紫式部の「源氏物語」は與謝野晶子の考證に由れば道長の全盛期以前に作られたとは云へ、中宮彰子のもとに紫式部を初め赤染衛門其他の文才ある侍女を選び、家の女房に浮名多き和泉式部をさへ招致したる事は、如何に當時の新文學、殊に女流文學の奨励と成つた事であらう。道長自らも幾つかの短篇小説を作つた事は「紫式部日記」及び「赤染衛門家集」に由つて推定せられる。道長は短歌の作者としても、當時の上卿殿上人の何人に對しても遜色の無い技能を持つて居た。道長が漢詩の作者であつた事は「御堂關白記」の隨所に「有作文事、題云云」とある記事を見受ける事に由つて明かであり、其作は一部を「經國集」、「本朝無題詩集」、「本朝麗藻」等に傳へてゐる。また自ら繪をも書き、弓に長じ、音樂舞踏、衣服調度に趣味深く、殊に書を善くして北宋の楊億

の「談苑」に二王の迹を學べるものと驚歎せしめた程であるが、法性寺南門の額を初め、經卷の題簽を屢書いた事は「御堂關白記」に自ら記してゐる。また典籍を愛して内外の書を多く集めた事も「御堂關白記」に散見する。建築、築庭等の意匠にも別才が有り、後世一般に用ひる紙の障子、古名「明り障子」の如きも、道長が案出して法成寺に於ける自らの居間に用ひたのが彙矢である。

一、道長は兄の道隆の如く子の愛に感溺する人で無かつた。屢子の關白頼通の言動に就て叱責した事は「小右記」に書かれ、また女の中宮妍子の浮華なる趣味に對して嚴譴を加へた事は「榮華物語」に書かれてゐる。さうして彼れ自らは公私の事に就て能く先輩と後進とに聞き、細故に至つては他人に委して顧みない快潤の襟度が有つた。されば入省の諸官より定額寺の座主僧綱、各地の國司に至るまで概して適材を配置し、漫りに私恩の爲めに偏頗の登用を爲す如き跡が無かつた。一條天皇が身は不才なれども我が治世に誇るべき事は才能の人を多く得た事であると仰せられたのは、一面に道長の包容力の偉大であつた事を證するものである。

一、道長が一條、三條、後一條の三帝に奉仕して忠良の臣であつた事は、此「御堂關白記」を通讀し、道長の子孫である大僧正慈圓（慈鎮、一一四七「久安三年」——一二二五「嘉祿元年」）の「愚管抄」などを參照すれば明白である。「愚管抄」に「冷泉院の御後、ひしと天下は執政臣に附きたりと見ゆ。其れにとりて御堂〔道長〕までは攝籙の御心の、時の君を思ひ悔り參らする心の、さわさわと無くて、君の惡しくお

はします事をば、めでたく申し直し、直しておはしますを、君の惡しく御心得て、圓融、一條院などより、我を悔るか、世を我心に任せぬこそ、など思召しけるは、皆君の御憐事と見ゆ、「宇治殿〔頼通〕の、後冷泉院の御時、世をひしと執らせ給ひし後に、少しは君を悔り參らせて、世を我世に思はれける方の混りにけるよなど見ゆ」と云つて、道長までは天皇の御爲めを思ひ參らせて何事も善きやうにと計らひ、時には大御心に違ふやうな事もしたのであつたが、關白が我意を振うて皇室を輕んじ奉るやうな形跡の生じたのは頼通の時からであると述べたのは論であらう。勿論道長とても三條天皇の御讓位の事情などに多少の非難は免れず、其他の事にも稀に專權の嫌を認めないわけでは無いが、其れにしても人は決して善能で無いから誰にも共通の過誤として恕し得る程度の事である。試みに道長の一生を後の源頼朝（一一四七「久安三年」——一一九九「正治元年」）の一生に比べるならば、時代の變化とは云へ、何たる性格の相違する事であらう。此れは淨土の人であり、彼れは地獄の人である。佛事法樂と、學問藝術と、宴遊儀禮とに終始したる平安中期の光明時代に對して、鎌倉期の武人專權時代は餘りに血腥く、餘りに陰慘である。京の獄に繋がる者纒かに卅人に足らず、固より一人の死刑囚をも出だす事の無かつた道長時代の平和現象は、天下を猜疑と殺戮との中に置いて、天皇をさへ糧の浦に沈め奉つた頼朝時代の惡逆無道の生活に之を認め得べくも無い。如此きは實に兩時代の中心人物たる道長頼朝兩者の性格の反映と云ふべきである。我我は「御堂關白記」、「榮華物語」、「吾妻鏡」の三書を偶ま同時に校訂しつつ、今更特に此事の感を

切實にした。蓋し徳川時代の史家の批評は頼朝に餘りに寛にして道長に餘りに酷である。「この世をば我世とぞ思ふ望月の缺けたる事も有らじと思へば」の一首を取つて僧上驕恣の語と爲すが如きは、詩を解せず、詩人の心境を解せざる腐儒の見である。

一、道長は久しく左大臣を以て内覽を兼ね、次いで攝政に上り、晩年に太政大臣に任せられても纔かに二箇月にして辭した。關白に至つては屢内命を拜しながら終に固辭して一たびも受けなかつた。彼れは三帝の外戚、藤氏の長者として得意の絶頂に在りながら猶如此く謙讓の用意が有つた。後の野人豊臣秀吉が關白以上のものをも強要した僧上沙汰とは同日の比で無い。しかも世に「御堂關白」と稱せられた所以は、内覽及び攝政の位地に在つて實際に關白の事を行ひ、特に關白中の偉大なる者として天下の輿望を負うて居たからであつた。要するに道長の如く博識多能にして忠愛の徳を備へ、自ら一代の文化の儀表と成り、世人の創造力を刺激して平安朝藝術の鑄成に集中せしめたる天才政治家は、三千年の國史上、聖徳太子の外に更に幾人を數へ得るであらうか。道長が「御堂關白記」に書いた「現身ゲンシ後生ゴシヤウ満足マンゾク」の言葉通り、彼れは自らの人格の完備を求めて殆ど其志を果した。我我は繰返して云ふ、道長の傳記は今後大に修正せられねばならない。さうして道長の批評は武士道と宋學ソウガクとに累ツラはされない以前の詩人の言に聞くべきである。「榮華物語」、「大鏡」に聞くべきである。

一、さて、此「御堂關白記」に（ ）此印シムシを附した所は底本に有る道長自身の割注である。「頼通注」または單に「注」として挿んだものは、「頼通本」に有る頼通の注である。此頼通の注に由つて思ふと、「道長自筆本」に道長自らの誤字、脱字が有り、また子の頼通にさへ讀み難い文字の有る事が想像される。猶我我編者に於て、圖書寮の二本に由り對校しながら、明かに誤寫と思はれるもの、及び誤寫の疑あるもの、其他讀者の便宜の爲めに補注を要するものは「シムシ」此印の中に私見を加へて置いた。また讀點をも施したが、恐らく淺學なる我我が讀み違へてゐる所も混マシつてゐるであらう。すべては他日機會を得て、近衛公爵家の原本を拜覽し、訂正表を作りたいと考へてゐる。

一、猶底本にした圖書寮の二本には、同字重複の場合に「く」此字を用ひてあり、其れが原本の書き振に違ひないが、特に必要なるものを保存する外、「日本古典全集」の用字例として同じ字を重ねる事にした。

一、是れは専門家以外の讀者の爲めに云ふ事であるが、此「御堂關白記」と同時の著作である一條天皇の「宸記」、「續本朝文粹」、「後拾遺和歌集」、「公任歌集」、「和泉式部歌集」、前述の「枕草紙」、「榮華物語」、「大鏡」、「經國集」、「本朝麗藻」、「小右記」、「權記」、「紫式部日記」等を讀み、それに「日本紀略」、「扶桑略記」、「公卿補任」等を對照すれば、道長時代の世態人情を知るに於て興味甚だ深いものが有る。

一、卷頭にコロタイプ版として挿んだのは、近衛家に有る「道長自筆本」の一部である。道長の遒麗なる筆蹟は之に由つても髣髴する事が出来る。猶下巻にも別の一部を挿むであらう。

一、また下巻には道長の短歌「御堂關白歌集」を添へる。是れは新たに我我の編纂したものである。

一、最後に、我我の「日本古典全集」の爲め、底本として「御堂關白記」二本の筆寫を許された宮内省の御厚意、また此書の編纂の爲めに近衛直鷹氏の我我に寄せられた御厚意、また圖書寮の秋山光夫氏が屢我我の校訂を助成せられたる御厚意を、併せて拜謝する。

御堂關白記上卷目次

長徳四年（九九八。一條天皇）……………三
 道長卅三歳。内覽。左大臣。正二位。

長保元年（九九九。一條天皇。長徳五年、一月十三日改元）…四
 道長卅四歳。内覽。左大臣。正二位。十一月女彰子、一條天皇の女御と
 なる。

長保二年（一〇〇〇。一條天皇）……………一五
 道長卅五歳。内覽。左大臣。正二位。二月女彰子、中宮となる。

長保六年（一〇〇四。一條天皇。七月廿日寛弘と改元）……………二四
 道長卅九歳。内覽。左大臣。正二位。

寛弘二年（一〇〇五。一條天皇）……………七一
 道長四十歳。内覽。左大臣。正二位。

寛弘三年（一〇〇六。一條天皇）……………一〇一
 道長四十一歳。内覽。左大臣。正二位。

寛弘四年（一〇〇七。一條天皇）……………一三一

道長四十二歳。内覽。左大臣。正二位。

寛弘五年（一〇〇八。一條天皇）……………一六〇

道長四十三歳。内覽。左大臣。正二位。九月十一日、中宮彰子、敦成親王を生む。

寛弘六年（一〇〇九。一條天皇）……………一七九

道長四十四歳。内覽。左大臣。正二位。十一月廿五日、中宮彰子、敦良親王を生む。

寛弘七年（一〇一〇。一條天皇）……………二〇〇

道長四十五歳。内覽。左大臣。正二位。

寛弘八年（一〇一一。一條天皇、三條天皇）……………二三一

道長四十六歳。内覽。左大臣。正二位。六月十三日、一條天皇讓位、三條天皇即位。同廿一日、一條天皇崩御。十一月廿四日、冷泉天皇崩御。

特265
844

御堂關白記

上卷



御堂關白記 上卷

長德四年

七月大

五日。辛酉。相撲止事仰有。諸寺仁王經轉讀事。即頭辨□三所大祓事。

七日。癸亥。說孝朝臣來云。宣旨云。內大臣行奉幣使。而有病申障。無他上卿可行。件事者即申承由了。史守永爲外記代。仰使等事了。

九日。乙丑。諸社奉幣今日可立。而上卿一人不參。又加伊勢使王依病不參。依無他王延引。上達部使不候有。以四位可被奉定。

十日。丙寅。仁王會來廿一日也。件事定了。件仁王會於大極殿可有百講。但清涼殿諸寺諸社如常。□□奏下施米目錄。左大辨一人候。

長保元年

二月小

九日。癸巳。比女御著裳子時。戌時許早雨下。而即晴了。從東三條院給裝束二具。從大皇太后宮給未額。從中宮給香壺宮一雙。從東宮給御馬一疋。使者□給白重褂。一重袴。申時許諸卿來間。右府內府著給。

十一日。乙未。右大辨爲勅使來。仰云。叙從三位者。賜女裝束。即出東河。立春日奉幣神馬等。參大內。於弓場殿奏慶賀由。

廿日。甲辰。天晴。有諸社奉幣事。而依夢相。不□□。不參。此日土御門新馬初馳馬。上達部多來。是依參春日競馬事也。

廿五日。己酉。天晴。競馬裝束新調令著。乘尻等馳馬。次競馬。上達部多來。

廿六日。庚戌。競馬乘尻馬前立。令宿木津。

廿七日。辛亥。卯時。有雨氣。是從夜部有氣也。同時參日。女車同道。上達部。民部卿。中宮大夫。藤宰相。右衛門督。宰相中將。修理大夫等。舞人陪從等如常。戌時許著佐保殿。沐浴。此間女車等著社頭。而參著。通夜神樂。自餘如常。六位神主賜從五位下。是先日宣旨也。給位袍笏等。於宇治朝變。

廿八日。壬子。卯時許。著馬場。例假屋東又作假屋。爲女方住所。自餘事如常。還城樂間。從頭辨許。持來書狀。聞見。□別當明久任權律師宣旨也。此由示僧正明久。立座著僧綱座。次競馬。次勝負樂。次□入夜著佐保殿。

廿九日。癸丑。早朝立。著宇治。皆還。祿。上達部皆引出物。入夜著京。亥時許。丑時許深雨下。此間上達部多來間。只大皇太后宮大夫一人不間來。

三月大

一日。甲寅。雨降。

二日。乙卯。民部卿依有病。不著宇治。仍中尹送馬。

五日。戊午。以左衛門有仰。

七日。庚申。參內。申所充文御覽。從太宰所獻雨〔兩力〕半涌出油等。

九日。壬戌。著左丈座。定御讀經事。並大宰諸國申請事。候宿所。十六日可有行幸由。仰道方朝臣。善言朝臣等。御讀經來月七日。

十日。癸亥。從內參院。午上雨降。院御備尚有氣。退出後。以則忠朝臣。進行幸上達部祿。大掛料絹卅疋。

十一日。甲子。依物忌重。不他行。

十二日。乙丑。雖物忌。外人來。

十六日。己巳。有一條院行幸。午一刻御出。從昨夜有咳病氣。然而依殊事不御座。御出著院。以齊信朝臣。被申事由後。於中門。從御輿下給。御西對後渡御。申時召公卿等。於御前有御遊樂。所者兩三候。事了後。諸卿退立後。召御前院判官代等。賜榮爵四人。女一人。下官又如本賜隨身。即申慶。亥時還御。從內出後參院。爲出此曉參比也。其後又參內。候宿。

十七日。庚午。午後。從內參院。判官代藏人等定申了。

廿日。癸酉。候仁王會。依御物忌。他公卿不候。外宿上達部候南殿。行事上。右大將依有障。中宮大夫行之。事了退出。有御前如常。但內大臣前立出。陽明門下留立。仍先掛大臣。次掛上達部等。參院退出。戌時許有御書。有內御惱氣者。即馳參。殊事不御。御咳病耳。

廿四日。丁丑。少納言統理來云。廿七日上多武峰。可出家。是本意云云。召前。賜木蓮子念數。

廿六日。己卯。春宮有弓事。女一宮御著袴。給左右。依臨時祭御馬不候。加馬二疋進。

廿七日。庚辰。試樂。舞人少納言伊賴朝臣。申障不參。依御物忌。舞人陪從宿候。

廿八日。辛巳。御馬御覽云云。從家先後。奉御馬。合八疋入。

廿九日。壬午。巳一刻。事初。時時雨下。大道渡間雨下。見物。

卅日。癸未。天晴。見物。

閏三月小

二日。乙酉。季讀經。并修善初。權僧正爲闍梨。

四日。丁亥。直物。召御前。有小除書。

五日。戊子。雨下。讀經結願。上達部多來。彈正宮被奉仕弓。負事有御前物。殿上所所有儲。依深雨。無弓射。懸物宮給。從宮以大夫被奉。宮大夫給御衣。依彈正宮御消息。參東院。同車參宮。公卿等同候。入夜退出。

七日。庚寅。御讀經發願。依御物忌。籠候公卿。余。民部卿。大皇太后宮大夫。中宮大夫。宰相中將。源宰相相等也。

九日。壬辰。明日依御物忌參內。右大將。宰相中將。源宰相。同道參入。春宮有弓事。

十日。癸巳。御讀經結願。籠候上達部。余。內府。右大將。左兵衛督。左大辨。宰相中將。源宰相。陳申文如常。事了。參春宮奉仕。先日弓負。熊鷹御前物。殿上饗。女房屯食。刀帶陣屯食。弓場衝重等。懸物女裝束一具。事了後。御懸物奉御馬一匹。

廿九日。壬子。下戒狀。并後唐院封司慶圓等文。午後參內。有除目。任右馬頭。

四月小

廿八日。庚辰。官奏初奉仕。今夜院參內給。經書初。

五月大

五日。丙戌。深雨。著陣。定維衛。致賴等事。并諸國申請事。

六日。丁亥。於東對。召作文人人。作文。中納言。右衛門督。宰相中將等。可然殿上人等來。

七日。戊子。早朝講文。題水樹多佳趣。齊名朝臣所出也。韻深字。以言朝臣。序匡衡朝臣。此後掩韻。

八日。己丑。於馬場。見陸奧交易御馬。是參內。次從南門引入也。

九日。庚寅。參內。著陣座。道方朝臣下交易御馬解文。可出御南殿者。御裝束了。御出。引馬後。召左近中將。經房朝臣。馬頭相尹朝臣。右近中將實成朝臣。馬助孝義。令取御馬。無取。後左右各置鞍馳。入夜入御。御馬廿匹。

廿日。辛丑。奉仕官奏。此間心神不宜。退出。前後不覺惱。

廿三日。甲辰。從今夜初修善。繼僧正。番僧十口。

廿五日。丙午。心地宜。出西方。

廿九日。庚戌。初參院。夕方降雨。

卅日。辛亥。今日修善結願也。而今七箇日延。夕方大雨降。

六月小

一日。壬午。雨下。山科寺并春日祈。卷數持來。

三日。甲寅。仁和寺故大僧正法事也。仍送僧前。依夢想不宜。不他行。以道方朝臣。令奏御馬交易。使右屬允公憲申。

九日。庚申。內有御庚申。有作文管絃。女方入菓子紙等。

七月大

十八日。戊戌。依田〔鶴字ヲ略ス〕惱事。渡道貞家。依無宜日。用夜半時。

廿七日。丁未。田〔鶴字ヲ略ス〕丸參清水寺。女方同之。去年立願所。奉御燈明。

廿九日。己酉。依故一條殿御忌日。女方渡仁和寺。是依當五卷日也。佛經。私圖書。自同參。右大將。源大納言。藤宰相。源宰相等。殿上人多來。有所捧物。今日雨下。

卅日。庚戌。依昨事。出自清水。人人此夕又返。從大貳許并伊與守許。有消息。

八月小

一日。辛亥。清水參白〔宿ノ草體ノ誤寫カ〕。

二日。壬子。從清水參內。依藥勢也。殿上參無。
三日。癸丑。出從內。參院。至慈德寺。定行雜事。宿清水。
四日。甲寅。曉出從清水。宿維親宅。一夜。
五日。乙卯。從惟親家。今朝渡。
十八日。戊辰。見慈德寺造作。
十九日。己巳。承官旨。召大外記善言於宿所。仰云。明日以巳時。可有東三條院御幸慈德寺。依大上天皇御幸例。令參諸衛。□勅使右衛門督藤原朝臣可仰。
廿日。庚午。院渡慈德寺給。參院。右衛門督。六府將曹。以下各一人。率近衛十人。爲勅使參入。被奉返。勅使大褂一重。官人疋絹。舍人布。渡給。候御寺。
廿一日。辛未。天晴。辰時。給十僧法服。即打鐘。巳時事初。入夜事了。亥時許還御本院。
廿三日。癸酉。院參內給。
廿五日。乙亥。院上上御宿所給。獻菓子等。
廿七日。丁丑。日來爲參長谷寺齋。而依有犬穢留了。
廿八日。戊寅。自越後介。料馬二疋率。

九月大

二日。辛巳。上野守賴信。奉馬五疋。一疋田料駒也。
五日。甲申。前駿河守濟家。奉馬二疋。
七日。丙戌。承香殿如御「女御ノ借字」參入。西對東北角爲宿所。入夜從道方許。右大辨。頭辭書持來。即返送。早可奏者。美作守輔親。獻牛一頭。
八日。丁亥。門外右大辨來云。昨日所獻辭書。今日返給者。道方朝臣云。內有穢。定家宿所下有死人。八九歲許童也。所所犬喰者。右府被申云。可爲五躰不具者。令申云。有身難。爲五躰不具。被定世穢了。云云。
十日。己丑。於御前有作文事。
十二日。辛卯。出西山邊。見紅葉。返參院。馬場殿有和歌事。
十四日。癸巳。著左仗座。定季御讀經事。
十八日。丁酉。召大外記善定。令勘申。季御讀經觸穢。內被行例。并延引例。觸穢內不宜例。延引例。多依之。以道方朝臣。令奏事由。有可延引仰。仍延引。
十九日。戊戌。候內宿間。丑時許。從家有書。開見。只今有產者。
廿日。己亥。今朝霰降。

廿三日。壬寅。除目讞初。

廿四日。癸卯。除目了。此間依淡路國百姓。愁守扶掖。於官問日記。令諸卿定申替人可被任者。此定了間。夜深丑二刻事了。

廿五日。甲辰。奉仕。奏一條院件。度初。今日院說經御讀經初也。僧五口。又定初入內事。

卅日。己酉。以權僧正。於長谷。三七日初修善。又以慶圓律師。七箇日修初。

十月大

三日。壬子。爲承定事。召諸卿。不參。

四日。癸丑。有長德三年口。不堪奏。

七日。丙辰。慶圓律師修善了。結願。而今二日延。

九日。戊午。修善結願。

十一日。庚申。美濃守爲口獻馬二疋。

十九日。戊辰。武藏守寧親朝臣。獻馬六疋。此間太皇太后宮大夫來。仍志一匹。

廿一日。庚午。四尺屏風和歌。令人人讀〔詠ノ借字〕。

廿五日。甲戌。以戌時。渡西京大藏屬秦連理宅。

廿七日。丙子。屏風歌人人持來。自內有御使。藏人則藤。右衛門督。藤宰相。左兵衛督。宰相中將等進盃。

十一月大

一日。庚辰。以西時入內。上達部。殿上人多來。家人十八九參。右大辨道方持來御書。參著。轎車官旨。藏人泰通仰。無上達部。多道方朝臣有被物。

二日。辛巳。藏人頭大藏卿正光。御使來。上達部多來。進盃。給如〔女ノ借字〕裝束。有袷。

三日。壬午。此夜半三位出。免轎車。

七日。丙戌。女御宣旨下。右大將。民部卿。大皇太后宮大夫。藤中納言。藤宰相。左衛門督。右衛門督。左大辨。宰相中將。殿上人等。於西廊。以正光朝臣。奏慶賀之由了。即渡御。上達部皆候。他姓人人參會。

九日。戊子。越後守尙賢。進馬二疋。又武藏守寧親進一疋。安波守安藤進牛一頭。

十三日。壬辰。出南殿。有旬事。

十四日。癸巳。有御渡事。

十六日。乙未。雨下。可有陣定。而納言皆不參。仍留了。

十二月小

廿六日。乙亥。滿正朝臣進馬十疋。

長保二年

正月

一日。己卯。節會停。是舊年依諸卿定申也。右府。內府。源大納言。右大將。民部卿。藤中納言。平中納言。藤宰相。左衛門督。右衛門督。左大辨。宰相中將。并殿上人等來。無拜禮。事了。兩府有引出物。各馬一疋。但家司等。早朝爲拜禮。從此參院。有拜禮。於御前兩三獻後。參內。以行成朝臣奏云。小朝拜有不非可奉仕者。即御前還出間。兩府。女御御方被坐。二獻後。立座。次著陣。奏見參。是如旬平座。諸卿御出了。於陣有事。不候。是不知公事歟。若行人非其人歟。爲奇爲奇。

二日。庚辰。無他行。諸稱物忌無參云云。殿上人等來云。右府。左大辨一人參云云。殿上人等參內。後女御御方來。

三日。辛巳。參東宮。冷泉院。東三條院。并內候。內宿。

四日。壬午。從大內參院。修正月。於新作被初修。午後至一條。入夜又參內候。修正月。御菓子獻。今朝右大將許。人人來云云。是昨一昨日依物忌也。彼家田鶴至。得馬一疋。返來修正月間。人人定云。明日夜。一種隨身參者。半夜後各還出。戌時許西京有火事。

五日。癸未。參院。入夜人人同參。一種物隨身。僧俗進之。半夜後。人人出了。留候。
六日。甲申。朝間雪下。從院出。
七日。乙酉。參內。著右仗座。以右大辨行成朝臣奏云。左右白馬可覽由。先日諸卿定申。依仰殿者。被仰云。早召者。召大外記善言。可召御馬由仰了。申御馬引由。奏聞事由。上達部召後殿。御前御簾垂廂。如御體經座敷座。御馬數如常。備裝束又同。近衛陣不候。頭以下如常。但右馬頭。佐。獨不候。仍可召問由。仰外記了。不取代官。
九日。丁亥。參院。夜部有北廊放火事。召別當仰。彈正宮。帥宮。修正月。參會給上達部多。後大藏卿。右大辨兩人。調僧俗食物。從亥時許大雨降。
十日。戊子。雪大降。一尺二三寸許。入夜參院。修正月結願。後參大內。候宿。
十一日。己丑。候大內。
十二日。庚寅。從內參東宮。退出。
十三日。辛卯。依有大觸穢。立簡。夕暮參院。乍立。後入夜出。月明如鏡。
十四日。壬辰。無殊事。
十五日。癸巳。外記政初。召善言朝臣。明日可有定由仰。右大辨。人人申文令讀文者。
十六日。甲午。有陣定。

十七日。乙未。有陣定。
十八日。丙申。從內退出。
十九日。丁酉。土御門立馬場未門。巳時行向見之。太皇太后宮御法事。冷泉院并宮宮有誦誦。東三條院同之。
廿日。戊戌。參內。召善言朝臣。除目召仰。又仰右大辨。入夜罷出。
廿一日。己亥。忌日依例。以珍饗申經。法華經一部。齋食僧權僧正。
廿二日。庚子。除月初。
廿四日。壬寅。內記所賜酒肴。入夜有叙位。
廿五日。癸卯。辰時除目了。申時許還出。人人賀。
廿六日。甲辰。右府。爲加階賀。被立賴佑。無案內。無其用意。早早經營。夕方參內。右府有引出物。
廿七日。乙巳。被定藏人殿上人等。
廿八日。丙午。以巳時。大藏卿正光。爲勅使來宿所。仰云。以女御可爲皇后。定申宜日。勅使賜祿物。(女裝束加綾細長)即參殿上方。令奏慶賀由。又參院御方。同申。還出。定雜事。召晴明朝臣。日時勘申。申可出給日。宣命日時。并入御同勘。源大納言。民部卿。中納言。左衛門督。左大辨。宰相中將來問。依可土御門立敷。被渡雜事等見仰。又參內。候院。御出。

卅日。戊申。參院。立中嶋石。

二月

二日。庚戌。於御前。定所充事。

三日。辛亥。宇佐使宣孝朝臣。獻馬二疋。東宮有弓鞬事。

四日。壬子。服呵嚶勒。

五日。癸丑。昨日今日。無參內并院。

七日。乙卯。出東河。立大原野神馬。爲敦兼使。

十日。戊午。女御〔出脫力〕給。源大納言。右大將。平納言。左衛門督。左大辨。宰相中將。源宰相等來問。

從昨日夜。小雨時時下。殿上人。四位五位廿四人。六位二人。依勅供奉。殿上人有祿如常。內女房。典侍。

命歸等七人來。各有祿。

十一日。己未。小雨如昨日。出東河。出立神馬。以伊祐朝臣爲使。從內有御使。成房朝臣。有酒肴。給女裝。

東。加掛。院渡法興院給。又中宮參內給。神事日如何。事與每相違。彼宮進藤原惟通。右近將監藤原永家。

爵給云云。惟通彼臨給。永家祭使功云云。祭使許送袴。

十三日。辛酉。法興院有五牀不具穢。又內有同穢。

十四日。壬戌。參內。即退出。參中宮御方。來月可有行幸由被仰。

十五日。癸亥。雨下。

十六日。甲子。可有院行幸由仰。官外記晴明勘申日時。來月十四日。

廿一日。己巳。故齊名妻奉扶桑集。諸社奉幣使被定云云。右府是依申障也。

廿二日。庚午。參內。定仁王會。其次可被免美濃守爲憲由。諸卿定申。仍免給。

廿五日。癸酉。以寅時。女御土御門渡給間。糸毛金作車等人給。自西門御入。從南門入給車入殿。御裝束等

昨了。源大納言。平中納言。宰相中將。源宰相等候。以午時參入內。酉時宣命。右府行之。御前殿御本殿。

後於御前。有宮司除目。右大將奉仕。自余雜事右大臣行之。事了參宮。依前例不立列。則忠朝臣。上卿參由

申。後列立。著東對。自西有列。自余如常。於御前遊有。

廿七日。乙亥。如官〔女官ノ借字。以下同〕等被物給。今日有奉幣事。云云。勸學院步拜禮。著座給祿。

廿八日。丙子。參內宿候。院參。

廿九日。丁丑。從內還出。

三月

二日。己卯。出東河。入夜作文。渡二條。

三日。庚辰。上達部相共見花。

四日。辛巳。直物。依召參御前。受領治國叙位。次有小除書。宮有諸社奉幣。

五日。壬午。院渡給土御門仁王會也。宮不被行。依事初。於二條請七口僧。有御讀經。是依不被行仁王會。

六日。癸未。馬十番馳。有一兩上卿。

七日。甲申。參內。出。

八日。乙酉。院參內給。

十二日。己丑。山座主奉仕內御修善。結願日也。僧正給。度者同給。云云。

十三日。庚寅。曉院出給。

十四日。辛卯。官奏。初御讀。御前僧并辨請定。宮印請申文等奏聞。右大辨辭退頭狀奏聞。可給返。云云。院宮對面給。

十六日。癸巳。季御讀經初。申二點發願。補辨請僧正。有宣命事。諸司不具。仍不行。宮御封宣旨下。

十七日。甲午。於宿所。早朝補辨請。以律師定澄。任興福寺別當。以行成朝臣奏聞。宣旨下。申時。興福寺僧等。慶參。宮立後也。

廿日。丁酉。院參石清水井住吉給。今夜石清水宿給。於賀河尻御舟。從午時深雨通夜。今朝定教講師宣旨

下。是依夢想也。參勅使右近權中將成信朝臣。

廿一日。戊戌。雨則下。從石清水於御舟返給。

廿二日。己亥。攝津。

廿三日。庚子。參住吉給。同日御天王寺。所所有音樂。又被供養法華經。

廿四日。辛丑。御舟有勅使。右近中將賴定朝臣。

廿五日。壬寅。還院。子時。此遊女等被物給。米同之。

廿七日。甲辰。法性寺僧參宮。三綱阿闍梨等也。又仁和寺等參。僧綱四人。賜祿。臨時祭試樂。

廿八日。乙巳。宮參。大內事定。參內。

廿九日。丙午。臨時祭。源宰相候。依御物忌。又見物。

四月

一日。戊申。著陣座。定御讓。御前補次侍從。左大辨出之。下中務源藤原公則。旬平產事依無他上行之。平野臨時祭宣命。賜使宣孝朝臣。

五日。壬子。奏聞來七日中宮可入給由。大夫定之。

七日。甲寅。未時白雨。雷音大也。豐樂院外。并西昭俊堂神落。有神火灰也。此後大雨。戌時天晴月明。亥

時宮入給。依御物忌。御所上給。男女可然人人。被加一階。

八日。乙卯。宮。女官給絹。供奉給被物。

九日。丙辰。內女使從賜布。

十一日。戊午。爲見物。

十三日。庚申。例參賀茂。而依有身假。不參。

十四日。辛酉。依有東宮召參。一小君。奉物見者御車。右府同之。宮御方。東細殿渡御。御覽物。殿上人

候。云云。

十五日。壬戌。與女同車見物。

廿日。丁卯。宮季御讀經初。

廿三日。庚午。宮御讀經結願。家讀初。候內間有惱氣。

廿五日。壬申。殿上人。土御門馬場來。競馬。上卿多來。

廿七日。甲戌。從內有仰。東宮又同。

廿八日。乙亥。從內有仰。雨下。

廿九日。丙子。日來尙依惱。僧正並明救圍梨。兩壇修善。

五月

一日。丁丑。從內有仰。東宮又同。

二日。戊寅。從東宮有仰。

三日。己卯。從內有仰。

長保六年 [七月廿日寬弘下改元]

正月小

一日。丙戌。節會如常。申一點。小朝拜。三點御出。
二日。丁亥。右府。內府。諸卿等皆來。酉時許參。二「コノ所」二字蝕ス」靈一人。有引出物。
三日。戊子。參冷泉院。內府諸卿等皆來。有拜禮。
五日。庚寅。早朝渡土御門。即參內。叙位議。申時初如常。內府被申云。爲式部丞賴明道成等。付故重文宅倉。代封關者在子細。仍賴明當省爵。而依件事停了。人人加階讓事被停。而陳政朝臣讓季隨。奏聞事由。被免難可他人例云。六日。辛卯。人人奏中宮御給名簿。即下給。下名上卿。帥子松也。奏賴明愁文。夜部事不知由也。即預時。
七日。壬辰。午二點參入。三點御出之後。立標「標カ」召名。賜式部丞。遲未刻賜之。依不候內舍人。御弓奏付內侍所。內記進宣命。申時召群臣叙位。宣命使藤中納言。(時光)宣制了。取笏間。抽帶垂如平緒。賴「通ヲ略セルナリ。以下同シ」叙四位。而平絹裝束。知可明日聞「賴通注、用敷」女功。遲出。依之兼綱朝臣。替用宿所。上達部。殿上人多來。依奉仕。內辨彼所不行。申春宮賀間。被免殿上。

八日。癸巳。依有愼所。不參御齋會。人夢想耳。仰修理職。令御齋講師(眞興)房中雜物等送。
九日。甲午。承大藏卿。少將被免昇殿。小舍人來。依日宜。初候內宿所。
十日。乙未。被定藏人雜色。藏人量能。雜色木工助藤原爲濟。申時定了。巳時許。頭中將宿所來云。賴「通」被禁色者。祭事四位後。於經營有憚。而今承可留少將由。如御尊子。叙從四位上。臨時。
十一日。御齋會講師眞興法橋來。感悅不少。以沉香念數。爲志。右衛門督來。昨日參大內。而大外記善言。申引御馬由。仍待諸司間。候問案內處。不申左右。善言還出。仍直還出。是非常事。以少納言。令召問如何者。答云。有意。早可被召問者也。女御尊子。可作位記由。仰少內記宣規。
十三日。戊戌。召外記五倫。可初外記政日令勘申。參內。候宿。
十四日。己亥。從宿所參入省。賴中納言。宰相中將同道。此前春宮大夫。左大辨參。時時雨雪降。式彈以嘯儀。布施堂雨儀。戌時參內。講師直興。依有腰所勞。未僧入前。參入頭中將宿所。右近陣事。御前儀如常。但講師論議了。立座。召座上。仰被任權少僧都由。承仰。就案下拜佛。依禰次。就僧綱座。召藏人隆光。彼允子儀「議カ」論間。瀧口者發音爲鬪亂。依之下手二人賜獄。所上勞者被召問。外記五倫。申明日可初政勘文。即返給。令初。
十五日。庚子。賜備中守生昌朝臣。賜大宰俸料官符。去年晦夜。入殿內盜。爲職爲時等捕。其失物等。依數所出。

十六日。辛丑。不參節會。右大臣內辨。云云。
十七日。壬寅。渡東三條。見造作。一宮參內給。藤壺東面御座。御共參入。女方參。
十八日。癸卯。射弓如常。不參右大臣。左勝三度。小數兩三勝。
十九日。甲辰。候內。從戌時雨降。深雨。亥時許雷。雷聲兩三度鳴。
廿日。乙巳。自內還出。從明後日。可有除書由仰。奏云。明日忌日也。明後日御物忌。奏可爲如何。被仰云。又無日。忌日入夜參入有何事者。
廿一日。丙午。雖忌日。依明日除書事。參內。承昨日仰。今日召仰。以院源僧都。供奉經。仰權左中辨。勘解使勘文。神社佛事條。可奉仕目錄由。
廿二日。丁未。除書如常。但於左仗承。召民部少輔廣業。依御物忌。諸卿宿候。早朝候。諸卿宿所來。儲少變。申時讀初。亥時了。
廿三日。戊申。未時讀初。陣座承召。亥時了。同時深雨。
廿四日。己酉。未時讀初。子時了。午上時雨降。陣座承召。雨儀奏。大間後返給。加權中納言受領。四人有治國叙位。權中納言下簾。志宿所來。次里第。取遣相待出。
廿五日。庚戌。從內還出。外記善言。兼資。牛一頭給。二頭。越前守教忠馬二疋獻。
廿六日。辛亥。爲理牛四頭獻。右大辨。勘解由長官。大夫史奉親。律師慶命。各一頭志。隨身胡籬等奉。

廿七日。壬子。女一宮御對面。參午上內間。依祭使事。批把殿。參內。次下見間。有犬死。依之參陣外。令申此由。大原野祭來月一日也。依之不能參入。入夜頭中將來。仰云。今夜雜事。被仰案內。又被宮御乳母一賜時。右衛門尉紀文忠。依請申應官旨。即申云。他上候即可被仰。不參間。於承可無便言。御對面。戌時。春宮宮參給云云。昌生朝臣。從藏人所。賜金三百兩。唐物交易料。
廿八日。癸丑。雪下三寸許。渡東三條。見作造。

二月大

一日。乙卯。依觸穢。出東河。不奉幣祓。即渡批把殿。
四日。戊午。參大內。
五日。己未。祭使賴□□通□從批把殿寢殿。□□□□□□□□□□西著編履裝束所。午時饗座定給。裝束。此間。以道貞朝臣。示案內。大將使等還著。後大將來。此間近衛等座。候砌下。大將著座後。依仰著座。大將取盃間。一座六人。部仲信立座。大將進後。依召。從南寶子。至階間。賜著座後。中將公信。召仲信。仰任府生由。公信。取大將瓶。其次承之。仲信出庭中拜。左近尉發時授笏。次從簾中。列上卿。有物。取盃置一二座。召在三座。下毛野公賴。大將隨身也。如仲信。遣從南來。賜盃。次賜衣。從東階下拜。著座後。給夾頭花。來上卿。春〔宮ヲ略セリ〕大夫道綱。右大將寶資。民部卿慎忠。中納言時光。左衛門督公

任。右衛門督齊信。中宮禰大夫俊賢。侍從中納言隆家。勘解由長官有國。春宮禰大夫愷平。左大辨忠輔。修理大夫親信。三位中將兼隆。殿上人等皆來。樂間。在簀子。有看物。右衛門督爲別當。人先賜公助衣。初之衆人。皆應遊。了。飾馬并引馬等引出。童四人手振等。如賀茂祭度。南祭夫飾馬引出。此初事也。次陪從。諸大夫。若小男共等。布衣。渡庭。雜叙從在此中。郎等十人同渡。武者馬十疋又渡。見物也。少將從東階下。渡西中門。大藏卿。頭中將相從。頭如此事。可恐可恐。數酌之後。授大將小鏡。入夜事了。使。陪從。雲頭中將經房。上達部。殿上人。左衛門督。諸大夫。明順朝臣渡殿。少將濟政加陪從。官人本座十二人。見參者。依數左十人。□□□□□□□□□□皇太后宮一腰。中宮二腰。唐綾。青摺文縷。內府女御二腰。上達部皆以送務。甚以神妙。返爲恐爲恐。參內間。依御忘月。無辨。召入女房使云。參中宮御方云云。袴卅七出來。

六日。庚申。從曉雪下。深七八寸許。左衛門督。送消息。有和歌。有返。以道貞朝臣。右大將昨日事。恐由示送。□□雪深。早朝。左衛門督許。かくいひやる。わかなつむかすがのはらにゆきふればころづかひをけふさへぞやる。

かへし

みをつみておぼつかたきはゆきやらぬかすがのはらのわかななりけり

從華山院賜仰。以女房。

われすらにおもひこそやれかすがののをちのゆきまをいかでわくらん

御返

みかさやまゆきやつもらんとおもふまにそらにころのかよひけるかな

七日。辛酉。使。戌時許還來。從酉時。諸卿著座。數度巡行。此間殿上人等遊。濟政朝臣笛。使等著座。殿上人番飲。立座間賜衣。上達部取給還。祿白單衣。例祿對代有。南階下還。出賜之。陪從官人等。祿如常。但賜袴十人許。立明官人等。賜疋絹。事了。子時許。大和守景濟朝臣來云。尙侍□時許了由示。數月病。從去三日不覺。有如無是。希有事也。春宮大夫少童見物來。少將自野氣受〔竊通注、授職〕。

九日。癸亥。土御門渡。致書朝臣申云。列見可著無上卿。著座上藤中納言。右衛門督。服身假。左衛門督。穢假。不參者。延可行由仰了。未定其日。從帥中納言許。付重忠朝臣。有消息。付藏規朝臣返事。有雜物。

十日。甲子。尙侍葬送料。絹。雜布。□等送。

十三日。丁卯。問尙侍母著服。小將同。

十六日。庚午。不奉假文。而藏人兵部亟定輔來。仰云。久不參。可參者。即參入內。依飛香舍御參入。候御前。退出。與內大臣。從出西近衛御門。參圓融院御八講結願。事了。觀音院見中宮御堂造作。

十七日。辛未。雨下終日。

十九日。癸酉。爲定木幡三昧堂可立所。到山邊。從鳥居北方。河出。其北方有平所。道東。晴明朝臣。光榮

朝臣等定也。還來。次入法性寺。往見所所修理。當時可能治云。春宮大夫堂。有木工等。還家。從入南門。人人馳馬。右大將候大內。定奉幣使。云云。

廿二日。丙子。參左仗座。定仁王會事。右大將參入。示云。來廿八日。奉幣。彼日受領等下向日也。到五月又無日。同勘文。以廿九日被立如何。被奏。案內可隨仰。即示云。以頭中將令奏。仰云。以廿九日可立者。以頭中將被仰云。新任諸司官人等。本司。本府。變祿有。甚以太由聞。就中。右衛門尉佐親。連遠等。有其聞。令勘罪名如何者。令奏。至罪名。主咎。共可有罪。先新任者。預祿官人等令奉意狀後。可被行輕重。仰云。令奉意狀者。又仰。大辨官中。有聞此事。可被能戒。若有事聞。大夫。史官。掌廳預。史生。文殿史部等。可重召勘者。今夜候內。入夜雲。

廿三日。丁丑。以經房朝臣。令聞所被昨日仰。右衛門尉等意狀。就本府奉。尤可有便。可被仰府督賦。仰云。可仰督。藤原朝臣。皇太宮返上御給。京官二人。被申爵。氣色宜。可奉年付由。示左衛門督。

廿四日。戊寅。今日物忌。霞推輕。依召參大內。明日物忌重。明後日內御物忌重。依明日可有直物也。

廿五日。己卯。候宿所。不他行。

廿六日。庚辰。今朝住吉社爲愁。彌津守說孝參陽明門。說孝參入間。打迫。說孝仍仰別當。下手者三人。人候獄所。〔著左仗。奏直物。賜公卿給等任之。此間依召參御前。後依仰。召圓座。召內府。從夜部。被〕以正光任參謫。其次一兩被定任。其後補藏人頭實成。昇殿者二人。資平。朝任等也。直物下名。授右衛門

督。子刻許了。大藏卿志車。借帶。

廿七日。辛巳。從內退出。高雅朝臣。依食物調。上達部。殿上人等多來。共射弓。

廿八日。壬午。到法興院。定方燈會雜事。大藏卿帶持來。又加帶返權。木幡堂所爲。貞中使。□□□□□□
列見者上卿。藤中納言。右衛門督。左大辨。云云。

廿九日。癸未。史爲孝。餅談持來。見防河。

三月

二日。丙戌。見木幡堂所。即到宇治。入夜還。

三日。丁亥。廣業朝臣來云。仰云。只今可參者。有作文事。即與左衛門督同車參入。早朝出。東河祓。

四日。戊子。從內退出。賜少內記惟規。可作位記請文四枚。皇太后宮御內官。御給二人。一品宮同之。豐原御莊司。西寺綱所作料等。讚岐守高雅朝臣。見上米千二百石。以車百六十兩運上。出見。三四上卿同道。米遺有淀。云云。

六日。庚寅。未時許參內。候宿。

七日。辛卯。著左仗座。定諸國申請條條難事。又定季御禮經僧名。依僧綱。多停安祥寺。淨福寺等。奏聞此由。又前紀伊守景□。去年定功過所。有過。依有後後儀。懷見物□削過。西大寺別當仁宗替。依諸卿定申。

以輔被任。此次以林懷。任法華寺別當。蓮聖替任。參候上達部。右大臣。內大臣。春宮大夫。左衛門督。源大納言。左大辨。右大辨。大藏卿也。有內文事。云云。左衛門督行之。

九日。癸巳。以巳時。出中御門。未成。女方具還來。參大內。著左仗座。奉仕官奏。左右大辨。大藏卿候。史忠國奏了。賜文了。不申成文。大辨依式取文。申云。可候上。是甚奇事也。以申時。一宮出御。祓給。北陣廻車。御給奉仕。□「光力」榮入夜歸參。春宮昇殿事被定。經朝。伊豫守明順。伊賀爲義等也。

十日。甲午。依物忌重。忠國門外進奏夜。入夜信行朝臣來。令申云。鴨河新堀。方以申時移水。如瀧落。舊流不水行者。

十二日。丙申。見防河新水落。并見珍光寺。清水寺等修治。又見靈山寺。到法興院。定明日方燈會事。上達部。春宮大夫。源中納言。權中納言。春宮權大夫。大藏卿。修理大夫。三位中將等來。

十三日。丁酉。早朝渡法興院。方燈會雜事。當所人人。未時許具了。申時打鐘。法僧著堂。上達部著座。居響。日入後。舉燈導師。咒願。登高座。菩薩戒。行道。有堂中。法開後。讚十人。梵音十人。錫杖十人。子時許。事了。燈尙盛如晝。依輕服。無音樂。僧立間。僧綱被物。凡僧疋見。布施文等授。依無便。無誦諷。

十四日。戊戌。參大內。奉「吉ノ誤力」平天文奏持來。巳時居響。

十五日。己亥。從內出。於仁和寺。定供養大般若定僧名。僧五十。僧行請印。高雅朝臣。所進堀河邊家。賜三位中將乳母左衛門。先日奉帶代也。酉時許。申左衛門志。爲時云。南僧房。度籠盜犯致害者。大國安方

侍。爲之如何。早可捕者也。(召可然人人。令候前。暫申捕由。)入夜參內。

十六日。庚子。雨時時下。仁王會初午時。未時行事。上卿源中納言參入。此間。御前并南殿事初。依御物忌。籠候上卿。右衛門督。權中納言等也。事了。入夜退出。微雨下。右衛門督申云。夜部盜人。東宮御領。柴島御莊司本親子也。仍遣御彼莊同類侍。可遣官人云云。以陳政朝臣。令啓事由。可遣者。遣信行朝臣等。云云。

十八日。壬寅。陸奥守道貞。申刻任由。賜盃。次有和歌事。賜直裝束。野劍。胡籥。弓。馬。鞍等。上卿四人被座。靈山寺會。云云。雨時時下。

十九日。癸卯。賜雅通。帶。平緒。劍。賜帶。

廿一日。乙巳。遣貞朝臣許。平緒一條。色革百枚送之。朝經朝臣。借帶。鞞。下鞍等。朝任朝「臣ノ字ヲ略ス」帶持來。賜雅通平緒。

廿二日。丙午。從夜雨下。信行朝臣。從柴島御莊歸來。申本親等不候。三河守輔公。申赴任由。次補隨身所別當。賜馬安房守秀俊。同申。此別當還成。又賜馬。

廿三日。丁未。天晴。於法興院。修尙侍法事。行誦誦。淡州僧布施料。見木幡堂立垣等。還來。到法性寺。有小食。前大僧正。仁和寺僧都。法性寺座主等同道。

廿四日。戊申。參內。陽明門。有數百人宇佐宮愁人。或見物者也。彼宮男子。僧多參。又是許。利方。師

方。彼權司致海又參。其裝甚奇。赤烏帽子者等候。如左近府門龍頭幡。有其下三人。參著。依仰。令收申文等。奏聞御讀經闕書補。酉時罷出。愁人少少罷出。入夜遠伊祐家方。

廿五日。己酉。雨下。早朝從伊祐宅。辰時渡仁和寺。依女方供養大般若也。從午時許雨下。人人來集後。初近中將賴親取授之。講了。立行香。其後入簾中。上達部取十僧祿。殿上人。諸大夫。取五十僧物。從講間。雨止。事了還來。講師前大僧正觀覺。顯僧正雅慶。三禮權大僧都定澄。讀師殿久。唄權少僧都明救。院源。散花權律師慶命。法橋扶公。堂達莊命。定湛。此外五十僧。入禮上卿。春宮大夫。藤中納言。左衛門督。右衛門督。源中納言。權中納言。春宮權大夫。左大辨。右大辨。修理大夫。大藏卿等也。右大將。民部卿。有障由。殿上人初。兩頭。可然人人悉來。顯文早朝以言持來。即遣右大辨許。書持來。從中宮賜名香。

廿六日。庚戌。入夜參入大內。

廿七日。辛亥。御讀經初。早朝於宿所。補闕講。未時散顯。候御物忌。上達部。右衛門督。權中納言。右大辨。大藏卿。事了。著陣座。右府被命云。可有宇佐宮定者。依輕服。不能候者。而諸命云。可候者。非可忌者。仍候。其定。或遣使。或兩方者任後。可被對問。而後可遣使者。定了。退出。參入上達部。右府。內府。右大將。民部卿。藤中納言。左衛門督。春宮權大夫等也。著陣後。一獻。後撤大盤。

廿八日。壬子。惟風朝臣。□御馬四疋。可奉內如何令申。仰早可進由。即惟風隨身來。有令見事。家馬四疋奉。從華山院。右近中將公信朝臣來云。仰事。可花御覽參者。只今申參由。即參入。從兼有此聞。仍非無其意間。召余車御。即候御車。覺白河殿。後從山邊。御御馬。御觀音院。勝算房。余所儲御前物。并破子。於彼房供。仰左衛門督。令和歌題二首料。歸院後奉歌。有御製。賜之。後退出間。賜御馬。依乘車後。無拜。即參入內。未御出前。有共兩頭。濟政朝臣。經通。雅通。忠經等。被聽昇殿。

廿九日。癸丑。御論議如常。有七番。而遍救。依申障。被免不入。經久依出憐。因入件經久。經久觀印尤美也。戌時事了。即出。宇佐宮女官。尙候左近府南。

四月

一日。甲寅。左頭中將門外來。宇佐宮愁。先可對問由。被仰右大臣者。

二日。乙卯。夜部。惟風籠馬三疋。今朝見付。法橋扶公送。眞興許消息。定御入講雜事。

三日。丙辰。惟風貢馬。并本馬。馳見八番。

四日。丁巳。見東三條。批把殿等。以善言朝臣。示送右府。御被御前可申定由。即被命參。明日參可申行者。是依輕服。

五日。戊午。右府定御前。云云。

六日。己未。雨下。參內。即罷出。宇佐宮愁人。元命。宗海。對問。云云。官松本曹司。

八日。辛酉。出東河祓。不奉幣梅宮由。即渡批把殿。入夜被參內。

九日。壬戌。晚景參內。元命等問。云云。

十日。癸卯。候宿所問。輔尹朝臣云。元命。宗海等。召問處。宗海無所避。申進意狀。其案文持來。夕方罷出。左頭中將。被奏右府對問文。宗海意狀持來。即令奏。

十三日。丙寅。今朝右衛門陣許。庶人來者。

十四日。丁卯。雨下。參內。著左丈。入夜罷出。是依可明日愼也。

十六日。己巳。入夜參內。

十七日。庚午。午上。從內罷出。後。右衛門督來云。仰事。祭間。調重雜色人等。奉供者數多。隨身可制止者。早召官人。可被仰者。又見物有新新。同可制也。申家馬者。左衛門佐兼貞。右衛門佐孝忠。左衛門尉賴信。右衛門尉守親。左兵衛佐朝任。所御前。木工允俊孝。平明範等也。爲見物。

十九日。壬申。從早朝雨下。申時許。出東河祓。不參賀茂由。

廿日。癸酉。近衛府使許。舞人下襲送。中宮被奉齋院扇。云云。典侍許。金作車。并一車料牛。及渡。春宮大夫一條見物。有棧木。一宮物御覽。是女方車。參北陣。其車御座。同門下立御車申。馬人人。左近中將顯定。春宮大進賴光。各一疋。內藏助師言引馬。雜色爲濟。木工允俊孝。輔清。

廿四日。丁丑。帥宮御方遠御座。

廿五日。戊寅。乘帥宮御車。參冷泉院華山院。若宮達二所御名字。可被爲院宮也。即被奏內。可親王官旨下由。

廿六日。己卯。遠方。

廿七日。庚辰。參內。著陣。中宮御讀經初。南渡殿爲座。被參內大臣。內大臣著。定奉幣事。其後著陣。定卍口御讀經僧名。

廿八日。辛巳。右大臣。催上卿。定宇佐宮事。是宗海進意狀。并帥平朝臣付御殿封由也。可使遣定了。奏聞後。依有召參上。被仰云。定申事雖有。方方可使遣也。如何。云申遣使宣侍。記令定申使者。後可給仰也者。即以實成朝臣。定申使者。云諸卿定申云云。長官。右衛門權佐孝忠。左衛門尉平仲方。右衛門志縣大爲爲政等也。即遣之。亥時即出。

廿九日。壬午。季讀經初。春宮大夫。右大將。右衛門督。中宮權大夫。權中納言。勘解由長官。春宮權大夫。右大辨。三位中將。大藏卿等寺來。

卅日。癸未。中宮御讀經結願。從宮上達五六許。酩酊來。有和歌。進兩三盃。

五月

一日。甲申。依例以請僧可然。令論議。定競馬事。依可華山院渡御也。

二日。乙酉。華山院宮達。可爲親王官旨。實成朝臣來仰云。依有被院申。雖不宜。被下官旨。冷泉院五六宮者。

三日。丙戌。以舉直朝臣。令申事由彼宮。有祿。

四日。丁亥。女方參內。

五日。戊子。批把殿所所一鶯居。渡土御門。從未時許雨下。

六日。己丑。從昨日雨通夜下。雖甘露。

七日。庚寅。參大內。著左仗座。奏位祿。并有官奏。是去年不堪奏也。右府被奏云。賜太宰官符。拜利殺害事可入者。候宿。

八日。辛卯。從內出。寅時。叩時除服。

九日。壬辰。參內。入夜還出。女方同出。以西。弓場并清涼殿上。犬上。

十一日。甲午。鴨河上方。從一條至近衛御門。未落水。入夜參內。

十二日。乙未。令右中辨朝經。奏十七日御讀經可候僧等。入八講十四人可被免由。以他人召補。於宿所行之。未時退出。從此間雨下。

十三日。丙申。通夜微雨下下。少納言記惟規。土師朝兼。內給藤原延高。法性寺禮堂作料。可作位記。皆國用。

十四日。丁酉。早手自所書。入講料。法華經八卷。并開結阿彌陀心經等書了。但開結經。有其遺。依期日近也。過此間。可書了也。天陰。微雨時時下。有南風氣。〔頭書ニ物忌ノ二字アリ〕

十五日。戊戌。從夜雨下。三日從夕方。舌下有小物。召重雅令見。申重舌。仍加療治。雅通從內來云。候宮侍從。於登華殿產云云。只今從內被尋問。爲之如何者。即仰。早參依實可奏事由者。右頭中將實成來云。仰事有產穢。七日御讀經。仁王經也。依穢改法華經如何者。令奏云。尤宜事。奏可奉仕法華經由了。入夜。件出產女。日來申八月。件女候也。希有事也。

十七日。庚子。內御讀經。依有勞所。申障不參。以卅二口僧。於清涼殿。被修不斷。

十八日。辛丑。以知章朝臣。中書王御許。奉自書寫經。是依外題也。參內。入夜退出。

十九日。壬寅。天晴。知章朝臣。經持來。以言願文章持來。賜祿物。即送右大辨許清書持來。賜一品宮。賜名香。使奉職朝臣。賜祿物。以諸大夫并隨身等。送法服。證義者二人加四位。西對座殿。上達部。殿上人等著。三四巡後。打鐘入堂。入夜事了。故院女方。大內女方多來。〔請僧證義者。座主覺慶。前大僧正〔一字脫カ〕觀。講師大僧都定澄。殿久。少僧都眞興。覺運。院源。律師澄心。慶命。已講林懷。聽衆朝晴。春繼。雅靜。日助。覺超。遍救。融碩。妙愈。懷壽。實誓。寬印。義慶。定基。澄圓。經救等也。是皆初僧也。眞興。覺運。所公請三十餘年。此度出來。是衆人所感耳。

入禮諸卿。春宮大夫。右大將。民部卿。右衛門督。源中納言。權中納言。勘解由長官。春宮權大夫。右大

辨。修理大夫。三位中將。大藏卿。

廿日。癸卯。天晴。講說如常。春宮大夫。右衛門督。源中納言。權中納言。勘解由長官。春宮權大夫。式部大輔。右大辨。三位中將。大藏卿等也。入禮殿上人多來。

廿一日。甲辰。天晴。從華山院。俸〔捧〕物十種。中清朝臣爲使。賜祿物。是山臥具。皆以銀作。從大內。白合掛卅領。從中宮。給入琉璃金百。生絹單衣。合袴廿六給。使等有祿物。午時。帥宮。右府。內府。春宮大夫。右大將。民部卿。右衛門督。源中納言。權中納言。勘解由長官。春宮權大夫。式部大輔。右大辨。三位中將。修理大夫。大藏卿等來。

即打鐘。入堂。講師登高座後。立俸物。僧下自階。王卿下從西對。列立之間。音聲舟。於堂南散物階。從同廊下。融舟。二菩薩打一跡。出從行道。廻中嶋三匝。後從南階。上達部。殿上人。佛前置捧物。諸大夫置庭中。此間樂舟來在松。二舟間。舞臺〔童ノ誤力〕來入中。〔賴通注、舞臺來入中如何〕此間舞童八人。取供畢。至階下。僧八人受之供佛。此童等。退爲鳥舞了。舞青海波廻了。後行舟。東相分。尙有聲。舞童入綾不止。馬場邊見物入來。從初立。朝座了後。就西對座。進數盃。入夜。親王。大臣達。有引物。各一疋。隨身返見此。初夕座。醖甚盛。

廿二日。乙巳。從去夜子時許。通夜大雨下。從早朝天晴。無雲氣。午刻。初朝座。藏寮御誦誦。皇太后宮。中宮。春宮等使。使給祿物。院司御傍。親上卿等奉仕。御誦誦了。西對就座。入夜。夕座了。即參大內。并

華山院。令申事。

廿三日。丙午。物忌重。

廿四日。丁未。物忌。依覆推輕。參內。御讀經結願。事了後。召御前。有僧綱召事。權少僧都源信。大僧都嚴久。辭退所。權律師如源。權少僧都明救。辭退所。大威儀延源。

廿五日。戊申。天晴。巳時許從內罷出。

廿七日。庚戌。天陰。從華山院。以中清朝臣。可奉御車去。〔者ノ誤力〕即參入。巳時渡御。從馬場未門御入。從塔門寄御車。次供御膳。僧侶下箸。馬渡南庭下。其。奏馳奏。近衛少將。將監。持來馬場殿。受南階〔賴通注、受南階如何〕奏聞了。左右馬上。仰勅使馬出。中清朝臣。則光標。孝信名奏。算刺等在塔門南北。一番左保信。右武文。左勝。十番了。算持。勝負樂各奏。次〔左右二疋了。上騎射。左三人。右三人。次立的射了。次東遊。左近少將重尹。將監兼時。將曹武吉。右少將雅道。將監能武。將曹仲重。遊了。駒形二人舞。此王卿。僧綱。殿上。僧并俗。有祿物。親王。大臣。女裝束。納言。綾掛。袴。僧綱。參議綾掛。僧白單重。殿上人疋見。御送物。菩提子合數入銀宮。叢物有枝。銀水瓶。同手洗。御馬三疋。諸衛佐。同尉取之。駒形至此間尙舞。御車出給間。終日天陰。風吹。時時細雨下。從還御間。雨下。深雨。候御車如朝。就院後。賜銜。有文丸柄帶。御卷物。紫壇地螺鈿懸蓋六。土器形。鼓馬間。端出給。有御半疊。御書〔講力〕御臺一雙。有銀器。此間。候王卿。寶子數。有數盃。勝方佐等賜物。

廿八日。辛亥。通夜雨下。終日深雨。
廿九日。終日深雨。問右衛督惱氣。
卅日。癸丑。雨不停。候內。

六月

一日。甲寅。深雨。入夜從內罷出。爲奉幣。
二日。乙卯。雨不停。見鴨河新堤所所破。
三日。丙辰。雨氣尙盛也。
四日。丁巳。不天晴。右大辨許送紙。令書本賴料所。
五日。戊子。巳時以前雨降。午後天晴。從前僧正許。以圓觀消息。只今參間。一條橋下覆車。而所所有損所。及未到。密〔奇力〕思不少。依夢想不開不能。明日參。事事可聞。
六日。己未。從夜雨又下。到世尊。問前僧正。面所所有疵。見難無極。思恐不少。
七日。庚申。天陰。參內。定賑給使。去月依有障也。候宿所。此夜女方參宮。有御庚申事。作文耳。
八日。辛酉。右府參陣。推問使孝忠。申請申文。并元命申文等。雨下。深雨。右府。右大將。勘解由長官。春宮權大夫。右大辨候。雖人少。可參人人。雖後日。又又如此。事了退出。令鬼氣祭。

九日。壬戌。天晴。從七日。頭頗打。今日從午後重惱。廣業朝臣。從內有仰。又從東宮。以業直朝臣有仰。從內女方出。帥來。

十日。癸亥。天晴。定冊講僧名。

十一日。甲子。天晴。入夜參入內。卽出中宮給。無奉行啓退出。候宿所。是依有惱氣也。

十二日。乙丑。天晴。從內罷出。到批把殿。還來。

十三日。丙寅。天晴。有所慎。籠居。

十四日。丁卯。天晴。

十五日。戊辰。天晴。巳時詣感神院。於東河祓。十列神馬。御幣等。隨身別當盛秀。申上事由。著大門。有亂聲。盛秀賜祿。又三綱給。盛秀又同。同道上卿。源中納言。勘解由長官。春宮權大夫。右大辨。修理大夫等也。

十六日。己巳。天晴。參內。候宿。被仰云。關國有數。日次不宣。明日有小除目如何云。奏被行。

十七日。庚午。有政云云。參。源中納言著陣。右頭中將實成朝臣。舊史並史申文等下給。櫻奉八枚。卽有召參上。議定後。所所別當定。源中納言依越前成。退出。

十八日。辛未。天晴。來廿日可參賀茂。而小將乳母中將。昨日死去。是產次也。而下女等。往問間。雖非指事。依有不淨。恐召晴明。光榮等。令占。申云。有不淨氣云。仍延引。

十九日。壬申。天晴。午後暮立。

廿日。癸酉。天晴。參內。入夜退出。爲奉作佛。晴明申云。今日滅心也。不宜者。留了。

廿一日。甲戌。天晴。夕方出。中門未解除。昨日有參賀茂事。而依有不淨疑。不參。仍所爲也。右衛門督日來有惱所不來。初來。

廿二日。乙亥。天晴。參內。入夜行長谷寺。與女方同。明日依有慎事也。以正世。遣源信僧都許。

廿三日。丙子。天晴。正世歸來。

廿四日。丁丑。天晴。從長谷寺還來。早朝人人來。入夜參內。女方參。

廿五日。戊寅。天晴。晚景退出。右大辨同車。至東三條。

廿六日。乙卯。天晴。以正世。送源信僧都。依有惱所也。

廿七日。庚辰。天晴。參內。奏施米文書。即詣法興院。例御入講初也。參上卿。右大將。民部卿。源中納言。勘解由長官。春宮權大夫。左大辨。右大辨。大藏卿。此後。內大臣官奏。右大辨候。云云。著陣間。被

命云。今日吉日也。奉仕官奏參給爲云。如何。早罷立。早可被候者。

廿八日。辛巳。史秀隨奏。夜持來。渡法興院。

廿九日。壬午。御入講五卷日也。詣上卿。源中納言。勘解由長官。春宮權大夫。左大辨。修理大夫。三位中將。大藏卿。夜入。於寺解除。

七月

一日。癸未。天晴。從法興院歸來。春宮不斷御讀經結願云云。晚景參內。入夜罷出。令書百部金泥仁王。被行仁王會如何。其事可行者。承。

二日。甲申。入講結願。并忌日也。仍渡法興院。齋食。後還。亥時許忽霍亂。心神不覺。通夜辛苦。

三日。乙酉。寅時許僧正來。夜明。從所所問。終日尙惱。從今夜。以僧正初修善。從今日又初三講。雖有惱氣重。渡堂初之。

四日。丙戌。心地頗宜。

五日。丁亥。奉職朝臣爲僧非時。

六日。戊子。高雅朝臣非時。

七日。己丑。能通朝臣非時。

八日。庚寅。從今日住堂。文句遺卷讀。覺運僧都。僧非時播磨守。

十日。壬辰。日來不雨下。參內。主上於庭中。有御祈。候宿。

十一日。癸巳。今朝。被御夢飲酒。御覽世行者。即奏云。雨下賊。酉時許奏天氣宜。退出後。午後小雨下。有事感。有雷聲。

十二日。甲午。有雷聲。微雨下。中宮。并家女方。賜節料下文。

十三日。乙未。有雷聲。夕立。

十四日。丙申。終日陰。時時微雨下。入夜有大雨。右頭中將仰云。晴明朝臣奉仕五龍祭。有感。賜被物云。早可賜。雷聲小也。

十五日。丁酉。天晴。三十講。提婆品日也。仍有捧物事。有酒肴。業遠朝臣。

十六日。戊戌。天晴。召大外記善言朝臣。明日有定申事。申諸卿事由。入夜參內。候宿。仰說孝朝臣。龍穴御讀經。又令奉仕。

十七日。己亥。天晴。午時著陣。相撲有樂如何。諸卿定申。不雨下。數日有其愁。非可有者。其次定兩三國申請事。定後。五六人上達部。無出聞讀。知章朝臣供非時。

十八日。庚子。天晴。濟政朝臣調備非時。仰善言朝臣。

廿日。有可定申事。申上達部事由。

廿日。壬寅。天晴。午後夕立。午時參內。於東大寺。於大佛殿。二百口僧。從廿五日。祈雨御讀經宣旨下。其後。改元詔書。改元爲寬弘。有諸卿定申。寬仁宜者。而左大辨申云。仁字是請字也。爲之如何。用之詔書。有地動文。又免者。留所無犯。入唐文仍令入。即著弓場殿。令奏清書。又書十日。極奇事。令摺奏之。內記所爲。太至愚也。參諸卿。右府。內府。左衛門督。右衛門督。中宮權大夫。侍從中納言。勘解由長官。

左大辨。右大辨等也。右府輕服也。然其裝束極奇。香染下重。同色唐平緒。所未見裝束也。於小松。以一人僧。令讀經。於關梨觀助許。爲中宮御令供養壽命經。是等長日也。

廿一日。癸卯。右大辨僧非時。

廿二日。甲辰。左頭中將非時。

廿三日。乙巳。左中辨說孝僧非時。

廿四日。丙午。奉幣諸社行幸留是。改元後初有行幸。依日不宜也。入夜小雨下。

廿五日。丁未。公行朝臣僧非時。君葉丸奏名薄。

廿六日。戊申。御前內記如常。

廿七日。爲夕立。

廿八日。庚戌。相撲召宮如常。右府候御前。帥親王候簾中。十四番停是。依入夜也。右勝者只四人也。君葉丸初參內。今三人同之。

廿九日。辛亥。御南殿如常。召五番。自余如昨日。君葉丸東宮昇殿。東宮。一宮。參南殿物見給。御直〔裝力〕束。以僧三口初。

卅日。壬子。卅講結願。來問上卿。春宮大夫。右大將。權中納言。藤中納言。右衛門督。源中納言。權中納言。勘解由長官。春宮權大夫。左大辨。右大辨。修理大夫。三位中將等也。僧被物。僧綱三疋。凡僧二疋。

八月

一日。癸丑。右府定大極殿御讀經事。右府早行御占。軒廊。
二日。甲寅。所謂華句文十卷。點了。覺運僧都送布施。絹十疋。米二十石。爲夕立。解靜時。〔賴通注、解靜時如何〕
四日。丙辰。參內。候。
五日。丁巳。從內罷出。令奏事由。召輔親。令中宮御祈。以朝經朝臣。遣宣旨山座主許。諸院供僧。可奉仕祈雨由。北野立神馬十列。從今年可永奉也。政所所充。
六日。戊午。於大極殿。以百口僧。有御讀經。仁王。參入省。事了後。諸卿同所。及豐樂院。見修理事了。參內。退出。
七日。己未。道貞朝臣返事。相撲長嶋給。天陰。小雨夕方下。
八日。庚申。爲夕立。入夜參內。女方同之。
九日。辛酉。早朝。以左頭中將。令奏大極殿御讀經可被延由。即被下宣旨。入夜雨少下。右大辨申云。御讀

經被延。十一日當結願。彼日考定可延也云。仰可延由了。
十日。壬戌。天晴。從內罷。

十一日。癸亥。參入省。著廊座。其後打鐘。昇殿。事了間。右近頭中將實成。仰度者由。從西著導師下。仰云。從殿下口門北廊內。西面大臣立。納言以下。北廊南面東云。此間。史。外記。辨。少納言。門外列立。從下廊出。北行就下。外記。史。北上。西面立。少納言。辨。門內北上。西面立。件立所不宜。可立門外也。上達部。右兵衛陣屏。從北當第三間。下廊參議立。辨。少納言。史。外記。從上卿立兩方。上卿但行。上廳相對掛之。入門。經月華門。著左仗。件等事。應和元年例云云。依行事。右府奏卷數事了。後推問使申請三箇條事。定了。候內。參入諸卿。右府。內府。右大將。藤中納言。左衛門督。右衛門督。中宮權大夫。侍從中納言。勘解由長官。春宮權大夫。左大辨。右大辨等耳。御讀經間。雖雨下。非大雨。諸國如〔此ノ字脫力〕云云。有下所云云。從六月一日。未大雨下。時時如形爲夕立。

十二日。甲子。候內。
十三日。乙丑。從內罷出。
十四日。丙寅。令光榮朝臣。祭本命元神。理義朝臣申云。明日奉神馬使。而有犬死穢者。以使令見間。參入。申云。給使令見者。仰云。遣使了。使歸參。申不侍。理義所申。似非眞。然留理義改定。理義無使者也。

十五日。丁卯。依例石清水立神馬使。工匠頭維通。

十六日。戊辰。諸〔賴通注、社賦〕御奉幣。八省有幸。宇佐宮使立。依御占方也。致事叙四位。是依造宮行事申給也。渡世尊寺宿。

十七日。己巳。早朝登山。爲會不斷念佛也。至院源僧都房。午時許入堂。其次見勝蓮華院。座主有悅氣。候堂間。從京人來。有中宮御惱由書持來。以頭中將令參。又又隨案內。同可下也。申時許渡東塔。候堂間。又人來。無殊事御者。如本意不下。伶人兩三。物聲合事了。覺運僧都房著。夜宿。兩所有儲。同道上卿。春宮大夫。源中納言。侍從中納言。右大辨。三位中將。

十八日。庚午。座主食。隨身來。從東坂下向。午時許來。申時許參內。候宿。

十九日。辛未。以權僧正。修中宮御修善。

廿日。壬申。奉群書十帖五十卷。罷出。

廿一日。癸酉。依考定。參內。著左丈。召外記行利仰。見參上達部。仰可入見參由。參官上達部。左衛門督。右衛門督。源中納言。勘解由長官。左大辨。右大辨。云云。參陣人人。內府。侍從中納言。春宮權大夫等也。晚景罷出。人夜間。從中宮人來。申云。有御惱。即參入宜御座。參人後。成平常給。仍罷出。生昌朝臣從銅西來。

廿二日。甲戌。右衛門督示云。中宮參大原野給事如何。或者夢想者。云云。而今年有旱魃事。仍於參給。

大事也。故停給也。令占筮。可一定者。即召晴明光□〔榮ノ字脫カ〕等。令占筮。被申事由。被延吉也者。仍延引。大宰推問使等下向。

廿三日。乙亥。天陰。有雨氣。早朝。宿衣參內。春宮女一宮。御著袴。御裝束事等行。後就陣。去年不堪細事。申時許。諸卿共參春宮。酉時有著袴事。依召參御前。大夫召之。御袴奉結後。出殿上。此以前兩三巡。召御前。人人兩三獻後。大夫取盃。有和歌。取宮再拜。事了。賜祿物。大褂。大臣御衣。余本宮二合。入道風手跡。御馬一疋給。後退出。參上達部。右府。內府。大夫。右大將。民部卿。藤中納言。右衛門督。中宮權大夫。侍從中納言。勘解由長官。權大夫。左大辨。右大辨。修理大夫。三位中將。大藏卿。

廿四日。丙子。終日雨降。從去六月十日。不雨下。七十余日。兩三度雖夕立。非可充物用。

廿五日。丁丑。通夜雨降。從朝天晴。廣業朝臣門外來。令申云。仰事。從明日可有除書由。先日奏聞。而明日國忌日。爲之如何者。令奏云。來廿八日可被始行也。召仰。明日。明後日。〔案內可仰也。〕

廿六日。戊寅。天晴。於宿衣參內。退出。渡一條。遠方。

廿七日。己卯。參內。著陣座。奉仕官奏。去年不堪文定。并諸國申請文等四五枚許。從明日可有除目。召仰。候宿。

廿八日。未時。儀始如常。但不著議所。候御物忌。諸卿。春宮大夫。左衛門督。右衛門督。中宮權大夫。侍從中納言。勘解由長官。春宮權大夫。左大辨。大藏卿等也。宿所來進饌。春宮大夫。依有惱氣儀。已前被罷

出。□□一宮出土御門給。有御修法事。前大僧正奉仕。女方次其御燈出給。殿上人候。
廿九日。辛巳。如昨日儀。戌二點罷了。右府。內府。右大將。民部卿。藤中納言。右大辨。加參。昨。今日。御物忌也。儀了。罷出。

九月

一日。壬午。出東河。解除。午上天□。其後微雨下。
二日。癸未。通夜微雨下。終微雨下。濟信僧都修善結願。此月番。令度圓修。下除目。召名。云云。上右衛門督。
三日。甲申。天晴。維叙朝臣進馬一疋。參華山院。奉問二宮御心地。候御前。參內。候宿。
四日。乙酉。從內罷出。殿上人料望。云云。
七日。戊子。天陰。不雨下。至辛崎。解除。與源中納言同車。一兩上達部被座。從京隨身破子等。國司作借屋。賜隨身等物。云云。是等非本意也。晚景還來。右大辨。樂府上卷新書持來。
八日。己丑。天晴。入夜。覺運僧都。四教義六卷持來。
九日。庚寅。參內。陽明門許。雨下。未一刻著陣。以廣□〔業カ〕朝臣。令奏案內。無御出。無節會。依例可行者。仰廣業。令奉仕裝束。同四刻。著宜陽座。三獻後。召侍從。不候。四獻奏見參。此間深雨。奏雨

儀見參。賜少納言兼親目錄。賜右少辨輔尹。兼親進立宜陽殿砌。雖有此例。不御出時。可立軒廊也。仍軒廊。從東第二間西而立。唱之上卿。一一立座。立宜陽殿砌。從南第二三間。拜舞退出。辨少納言立後。參入上卿。右大臣。左衛門督。右衛門督。勘解由長官。春宮權大夫。右大辨。大藏卿等也。於清涼殿。有作文事。候宿衣。左衛門督。右衛門督。勘解由長官。式部大輔。右大辨。同候。式部大輔。獻詩題。菊爲九日花。左大辨。付讀芳字。給御書所題。子時許雨止。宿所儲食物。人來。

十日。辛卯。早朝。講作文。御書所著達。作不獻文。可甚奇。人人宿所來。進粥等。著座上卿達。皆東帶著。應。云云。巳時許退出。善言朝臣持來。明日王大夫御占串。皇〔誤寫ナラン〕季願已下。合同之。

十一日。壬辰。天晴。就左丈。奏宣命。未二點。有幸如常。賜使王宣命。就南廊間。官外記。史部。幕外候。無拜。仍候幕上廳外記。史等。不知物由。以右大辨。令問大外記善言。史忠國無所申。

十二日。癸巳。天晴。馬場。殿上人會合。有作文事。水清似晴漢。以秋爲韻。上達部五六人。殿上人。備者。經文章生者廿許。未時事始。子丑時許事了。

十四日。乙未。天晴。就左丈。令申不堪田文。左小史伴季行申之。不候庭。只依膝突。依之返。以右大史內藏爲親令申。其後奉仕官奏文十枚。候右大辨。被參右大臣。內大臣。右衛門督。大藏卿等。候宿。殿上人作文。

十五日。丙申。天陰。有應政。云云。夜部文。右大辨樂府下卷持來。覺運僧都四教義遺卷持來。被帥座。入

夜通夜雨下。

十八日。己亥。天陰。微雨下。入夜參內。候宿。

十九日。庚子。通夜下雨。午上同之。午後天晴。召僧都覺運。四教義。於清涼殿。令讀給。候桂芳坊。依前日仰。具文。候御前奉之。七枚許令點給了。後罷出。覺運今朝裝束一具。以保昌朝臣送之。

廿日。辛丑。天晴。早朝參內。候御文讀給。著左丈。改定上達部分配。依遺本貫。放免京戶者。爲之如何。可定申者。該卿定申。尋前例後。可被行者。御讀經事可定申。入夜仍仰後日可定出。候宿。

廿二日。癸卯。從曉雨下。時時下。一宮參內。其次有御祓事。女方同參。此間小雨下。宿候。

廿三日。甲辰。著陣。定申季御讀經僧名。不參祈雨御讀經僧等。留軸請。

廿四日。乙巳。所令讀給御書。今日四卷了。被初五卷。從內罷出。道貞朝臣所奉馬四疋。見之。從內女方出。件馬三疋。令飼業遠。一疋公則。

廿五日。丙午。天晴。早朝參大內。未時許。從內罷出。多武峰申。去廿三日。御裏鳴。惟異事。召晴明朝臣。令卜。當年上達部許。送卜方。賜大內記宣朝臣。華山院正曆三年。長德元。內官御代被申。伊祐朝臣。

加階官旨。普門寺申造料時。弓削爲信。又如「女」一宮御著袴日。給乳爵。而女子藤弘子讓之。召理義朝臣。仰云。來廿八日。修理大夫供養佛經云云。僧前之人人云云。送僧前。一前如何。仰了。隨重義朝臣參上。申。

廿六日。丁未。候內。被作仰。松尾。平野。北野等。行幸行事。右衛門督。大藏卿。權左中辨道方。左大史

美乃伊遠。左衛門志藤原爲時等也。勘申日時。十月十四日松尾。廿一日平野。北野也。今日即初行事所。宮內省。女二宮有惱給事。初御讀經。渡供養。

廿七日。戊申。從內罷出。上野守重義。獻馬三疋。又小將一疋。入夜參內。不斷讀經僧等皆請。

廿八日。己酉。天陰。雨下。從內罷出。出河原爲祓。定可參賀茂。有禪事。依不參。解除耳。入夜參清水。初修善。余明救僧都。女方前大僧正。雨通夜下。

廿九日。庚戌。天晴。被寺來人人。權中納言。大藏卿。

卅日。辛亥。人人被會合。人人示云。大和國立花陵鳴。其聲極長大也。是澄心。林懷等所示也。多武峰申去。卅三日惟是懸。云云。春宮大夫。右衛門督。勘解由長官。人人作文。入夜深更還。

閏九月

一日。壬子。大藏卿來。

二日。癸丑。天晴。左大辨來。太宰府文持來。府實帳。銀解文。并堀銀者等申賞申文。門司關司被害解文等也。修理大夫。備食物持來。權中納言。春宮權大夫。左大辨來。

三日。甲寅。右衛門督。源中納言。勘解由長官來。有作文事。其題四望遠情多。以通爲韻。

四日。乙卯。天陰。早朝人人還。從華山院。賜御歌。以戒秀爲御使。奉御返。并戒秀賜薄色織物掛。

五日。丙辰。晴。後參內。天陰雨下。就左丈。定太宰申府解一枚。殺害門司一枚。擧銀者可賞解。丹波守業遠申。以移進羅城門。可被重任由。定申云。任申請。可被免重任者。是大功云云。候宿。

六日。丁巳。早朝還寺。春宮大夫。權大夫。權中納言。修理大夫。大藏卿等被來。

七日。戊午。天晴。後夜出清水寺。見木幡堂。春宮大夫。權大夫同道。

八日。己未。覺運僧都所送戒壇房文書。尋圓持來。利安許可領〔預力〕由仰。以國學之文書。即領〔賴通注、預賦〕僧都。參內。奉仕官奏。不堪田。并安房不堪田文二枚。入夜罷出。

九日。庚申。依物忌重。籠居。籠物忌人人。守庚申。賦詩。讀和歌。

十日。辛酉。右頭中將。門外持來內作文。殿上人參中宮御方。賜被物。云云。

十一日。壬戌。天晴。物忌輕。出羽守秀信獻馬十疋。馳見。一疋定仲給。送一疋仁和寺。一疋左頭中將。一疋高雅。二疋預光遠。四疋預業遠。二疋立。上〔達ノ字脫ス〕部四五人來。作文。風高霜葉落。以寒爲韻。序爲政。

十二日。癸亥。天晴。早朝讀作文。孝道。講師時貞朝臣。野美材手跡抄物也。左衛門督來。語雜事。被帥來。入夜參內。候宿。

十三日。甲子。通夜雨下。巳時許止。召外記五倫。可有明日定。令申該卿其由。晚景罷出。給廣業朝臣。可造。業遠造羅城門。可重任賜官旨。故東三條院。從美濃庄。奉地子絹八十疋。加他絹二十疋。御願千袈裟

內。令縫遣。今三百可縫也。

十四日。乙丑。天晴。召善言朝臣。賜公卿給。參內。著左丈。大安寺五師等。愁申。別當平超不治由。遣史伊遠三綱寺。五師對問。定文書處。平超有功。無殊怠。五師等申事。多無實。仍可被召問五師由定申。於前被定。可奉五節人人。勘解由長官。大藏卿。明順朝臣。知章朝臣等。而讚岐守高□申不能作進由。仍知章可作由定申。仍停知章令被造美福門官旨下了。五節可奉仕。說孝云。參入右大臣。春宮大夫。彈正尹。右衛門督。中宮權大夫。勘解由長官。春宮權大夫。右大辨等也。入夜罷出。又被定行幸舞人陪從。

十五日。丙寅。爲文獻馬四疋。又小將一疋。參內。御讀經補闕請。依不候。大辨。勘解由長官書之。光榮朝臣奉仕。本命祭。從中宮被送。前大僧正申。常行堂料幡廿四料縫。云云。

十六日。丁卯。微雨降。陸奥守道貞朝臣妾子下向。自裝束。并女騎裝束。馬鞍等。以安隆朝臣送遣。有和歌。安隆返來。賜被物。良佐朝臣。依陸奥下向。給馬。一宮。爲文朝臣獻小馬二疋。即宣旨給。賴〔通ヲ略ス〕字治遣馬二令飼。

十七日。戊辰。天晴。至永多尼〔長谷ナリ〕不斷念佛。同道上達部。春宮大夫。中宮權大夫。勘解由長官。春宮權大夫。右大辨。大藏卿。有女方車。家調誦。信布百端。女方絹二十四匹諸僧賜。袈裟度者賜。見參僧等。子時許還來。春宮大夫奉黑牛。

十八日。己巳。天晴。爲綱朝臣從出雲還。手筥一合進。入雜物等。著左仗。定闕請并御前僧。從今日有內裏

犬死。從明日御讀經雖有。穢中例有可延仰。仍仰下了。
十九日。庚午。天晴。依物忌。固籠。申時女方有惱氣。是風病也。
廿日。辛未。物忌也。知章朝臣從國來。於門外。令申事由。
廿一日。壬申。天晴。早行宇治。乘舟。同道右衛門督。勘解由長官。右大辨。於舟中有連句。著家有題。於宇治別業即事。以言作序。近江守知章。牽牛二頭。一頭送仁和寺僧都。一令飼。
廿二日。癸酉。午時許。讀文。乘舟。還宇治。水極少。依之則忠許乘也。古老云。未有如此事。云云。渡馬不及下腹。見奇事不少。亥刻許到京。女房參宮。伊與守明順。淡路守能通。從國參上。
廿三日。甲戌。召門外左京大夫。和到入唐寂上人舊房之作詩。及帥御許。
廿五日。丙子。參內。東宮霍亂惱給。依有方忌。入夜罷出。從中務宮。賜右大辨許。宇治作文余詩和。
廿六日。丁丑。參內。先日御覽帥寂昭房作。和賜御製。感懷內。不能御和。思入夜。從帥許。以中納言。又及和。依明日御物忌。候宿。
廿七日。戊寅。季御讀經初。
廿九日。庚辰。中宮季御讀經初。參內。奉和先日所給寂昭房奉和御製。有大內作文事。右衛門督。中宮權大夫。勘解由長官。左大辨。右大辨等也。題秋過如流水。戌二點初。子四點了。

十月

一日。辛巳。內御讀經結願。參內。著左丈。參諸卿多。陣相定。可御前行香。餘上達部可被候南殿。相示令候。事早了。可有旬御出。而日晚。仍無御出。左大將奉之。右衛門督定行幸。奉幣使。
二日。壬午。右衛門督定行幸。定御讀經事。云云。
三日。癸未。此月修善。權僧正初。勘解由長官。五節料送絹少少。院源僧都絹綿少少。圓澄又送同。乘方朝臣。集注文選。并元白集持來。感悅無極。是有聞書等也。
六日。丙戌。天晴。欲參內間。人夢想不宜者。不參。
七日。丁亥。天晴。參內。候宿。
八日。戊子。從內罷出。參華山院。入夜民部丞公則來云。大炊門南。宮小道邊。人爲被頭打破云。乍驚遺隨身。修理屬家兼宅。春宮權大夫在間所致也。彼大夫下人二人捕候。云云。
九日。己丑。天晴。惟風朝臣獻馬一疋。以右大辨。奉中書王。先日奉御作文和。輔尹朝臣。依維摩會。下給文書等。又年立義。運年給。詮秀。融頌。是等皆依才學所給。
十日。庚寅。天晴。早朝東宮大夫來云。可奉仕內羹。次可參者。同道參入。奉仕其事。候女方渡殿。南北障子并葺等取放。爲上達部座。後涼殿鑿子。候殿上人。火爐等新造。女方御障子。南大床子御就。御其下終

日。事了。出弓場殿給。場初。召懸物。內府一度片矢射。取後勝。事了。召額〔通ヲ略ス〕。弓師爲國。右大臣。內大臣。有祿物事。額〔通ヲ略ス〕。依射的也。內府隨身季忠。余賜衣。參入上卿。右府。內府。春宮大夫。右衛門督。中宮權大夫。侍從中納言。右大辨。三位大藏卿等也。

十一日。辛卯。內府奉下鞍。
十二日。壬辰。春宮大夫。右衛門督。三位中將。借鞍。三位中將。平胡錄。箭。并九輛帶。頭中將巡方帶。箭等。參內。候宿。

十三日。癸巳。右兵衛督。九輛帶。雅通巡方帶。依明日物忌。廿一箇寺誦誦。右衛門督。行幸次第持來。奉御馬四疋。依御物忌。夜部籙宿。寮馬御覽。買馬三疋。一二賜左。三四賜右。卽入十列。

十四日。甲午。松尾行幸。從子時許。深雨下。至巳時。午時。人人參入。未時御出。出承明門。藻壁門。著社頭進。神祇官進大廳。就御在所。後。王卿著座。奏宣命。依有作違事。令直。御前立御幣。并寶神〔神寶ノ額倒カ〕等。舞人等引馬。御禊了。發笛音。使右衛門督。賜挿頭花。右大辨取之。舞人。陪從等。殿上人賜之。乍立。次神祇官。并諸司等賜神寶。依及晚景。先馳御馬。其後至宿所。春宮大夫以下。上卿皆來。亥一點。還著宮事。同四剋。

十五日。乙未。依物忌籙居。從頭中將許。送北野行幸舞人陪從定文。昨日人人皆同候。留信讓。
十六日。丙申。右兵衛督帶持還來。

十七日。丁酉。天晴。從內大臣御許。右頭中將來云。今日可奉仕羹。次若可參否者。從兼佑可參。卽參入。事有標如先日。有御樂事。有和歌。賜上達部御衣。殿上人疋。見事了。還出。

十八日。戊戌。右大辨借。借名本七卷。道風二卷。

十九日。己亥。從多木收。駒六疋牽。卽還遣二疋。足踏留云云。入夜濟政從國來。

廿一日。辛丑。天晴。早朝。修理大夫獻。重義獻馬。隨身來。前將軍馬三疋獻。己一點參內。午一刻著平野社。其儀事次第。如松尾。但御馬樂遊後馳使。上達挿頭花。大藏卿取之。不奏見參。酉一刻渡北野給。同時著。後懸燈。著座後。奏宣命。賜使。到休幕。諸卿皆來。亥時還御。宮僧別當是算。賜法橋。還御後。召御前行事。賜賞。右衛門督從二位。大藏卿從三位。權左中辨道方正四位下。從五位下小野五倫外。從五位下藥努伊遠。左衛門尉信行。申後者仍不給。平野社預禱宜賜爵。一宮物見給。女方車參北陣御。云云。

廿二日。壬寅。可季讀經初日也。而朝西面小庭。小犬死。仍延了。依帥宮召牛一頭。奉之。額親朝臣獻馬四疋。年來召瀧口者十人。爲馬副。依兩度奉仕召。各疋絹給。濟政朝臣買馬四疋。

廿三日。癸卯。天晴。見木幡造堂。

廿四日。甲辰。時時小雨下。左大辨天台戒狀持來。依織乍立即下。

廿五日。乙丑。明順朝臣買馬二疋。一疋少將。

廿六日。丙午。右府消息。外記行利申云。明日障無參內。定申太宰事。可在參由。示仰。

廿七日。丁未。天晴。參內。著左丈座。太宰推問使。定期問。文使勘問。極荒涼。定兩端分。又申法隆寺別當十七枚下賜。奏三枚。律師澄心。威儀師觀峰。已講定好等也。加人人申詞。即被任觀峰。是從他領寺。依能次也。女方參內。

廿八日。戊申。從內罷出。

廿九日。己酉。渡批把殿。即秋季讀經初。土御門修理并。仍渡也。式部省文章生試給。云云。少將爲問。定輔至省門。云云。於堂大僧正初修善。

卅日。庚戌。時時小雨下。忠良貢馬二疋。學生等進昨日作文。

十一月

二日。壬子。讀經結願。供養諸請僧。例年多以闕。而今年初日廿口來。是如本意進道。心中願已滿足。夕參內。

三日。癸丑。奉仕美羹。次乃酌酩間。渡御中宮御方。上達部。侍臣候。巡行數度。有歌笛聲時御出。□母屋御簾。上廂御簾。上達部候寶子敷。殿上人候渡殿。管弦侍五六人許。候遣水邊。召御笛數曲後。宮御衣賜。上卿等。主上御衣賜。余。殿上人疋見。事了間。集注文選。內大臣取之。右大臣問內大臣申云。被奉宮集注文選云云。事了還御。

四日。甲寅。從內還出。

五日。乙卯。曉從宮御方。夕渡一條。

六日。丙辰。曉從一條還。後涼殿板敷下。火落下。雜物燃。藏人隆光。中宮侍長正。相消之。

七日。丁巳。渡土御門。日依無井水。渡枇杷殿。掃水出。仍還來。從夏旱猶同。京中井水。四條以北盡。至鴨河邊。同河三條以北盡。上下人。入枇杷殿。水用之。直物。其次有小除目。依信濃濟政辭。以佐光被任。

外記大江時棟。史惟宗。博愛。右衛門尉爲時。使宣。即爲時。左衛門志如春。

八日。戊午。人人申慶。亥時許。細殿北面女來。乃有小女子。百日許也。預女子去。見之非下人。仍預人令養。

九日。己未。祭使許。使下重。并疋見。加馬二疋。唐鞍。引馬鞍。立奉幣使。和泉守脩政參內。雪下一寸許。

十日。庚申。從內罷出。

十一日。辛酉。梅宮立例奉幣使。文章生賴任。今朝雪下一寸許。

十三日。癸亥。從子時許雨下。辰時許天晴。時時雨。參內。令大根申文。

十四日。甲子。雪下三寸許。入夜參內。

十五日。乙丑。午時許從內出。大藏卿五節。賜經國朝臣疋〔賴通注、絹賦〕。令調童女裝束持〔賴通注、來

舞。見之甚殊樣。非可送。思歎無極。是只依無志所至也。聞此由。大藏卿自來。取之持去。以齊朝臣。明順許送舞姬裝束。女方橋三位許送童女裝束。從中宮。賜大藏卿。橋三位勘解由長官室家。源典侍說孝室等。舞姬裝。人人相共參內間。月虧初。十五分十三許。虧殘事長四寸。廣一寸許也。若是曆數。若虧。重恐思不少。因之不參大內。

十六日。丙寅。今夜參內。途中內方有火筋。非他所。依馳參西京也。御前試如常。女方相共參。右大臣。內大臣。春宮大夫。右大將。右衛門督。中宮權大夫。侍從中納言。右大辨。三位中將等。依火事參。

十七日。丁卯。可出中院。而從夜雨降。及亥時。仍停止。御覽童女。

十八日。戊辰。申時御出。式部立廳。遲立。令後召外記善言。問諸司見否申候由。仍事初如常。召後少納言。久不進。小忌少納言未參者。奇驚無極。以天慶五年例。以他少納言。可令參由仰間。小忌少納言伊賴參進。良久也。大奇。別當右衛門督不候。仍以中宮權大夫爲代。

十九日。己巳。從內罷出。

廿日。庚午。巖。峇等加冠事定。大般若供養事定。初樂所。各爲舞三。參內。

廿一日。辛未。臨時祭。試樂。并御覽御馬。晚景事了。

廿二日。壬申。從內罷出。終日天陰。吉田立奉幣使。時時雪下。

廿三日。癸酉。參內。午二點御被後。御前事如常。於殿上。賜宣命。使相尹。晚景事了。依內府催。出見

物。後孫小童戰車。內府。右衛門督同車。立枇杷雨車。入夜御前承仰候。御神樂參間。右府相陽明〔門ヲ略ス〕取手。相伴參還。參候殿上。從中宮御方。菓子給。右府。內府。右大將。右衛門督。右大辨。權中納言。三位中將等也。子一點還參。御前事如常。御樂。近衛者五六人許令召。候中宮上。御事了。罷出。女方同之。終日通風吹。

廿四日。甲戌。天晴。故御匣殿尼。日來重病。送小物。大藏卿。五節舞姬裝束持來。

廿五日。乙亥。大藏卿。以五節。遺物。調食來。右衛門督。勘解由長官。右大辨。三位中將。殿上人十餘人來。有作文。又樂所召男伴。有管絃事。通夜。題爐邊命飲。勘解由長官作序。

廿六日。丙子。神祭物賜所。晚景參內。右府官奏。入夜。式部少輔紀爲基。試文判持。十四枚。并判文二枚。仰可奏由返。從內出後耳。

廿七日。丁丑。參內。著左文。依召參御前。任尙侍。典侍。著陣。以右大辨。令清書。奏之。賜中務丞藤周道。又有召。參御前。有作文。題雪是遠山花。右衛門督。中宮權大夫。勘解由長官。左大辨。右大辨等候。丑時事了。即罷出。御書所同之。

廿八日。戊寅。參內。定仁王會事。於大極殿百講。南殿。清涼殿。院。宮。諸社。如常。昨日定擬文章文人等云云。昨日行文章生判。今日補職事。極奇事又不知。文章得業生等爲問此由。弘道不參。

廿九日。己卯。文章博士弘道朝臣參。補職事。勸學院分。并學頭等不補由也。所申極無使者。右仰〔賴通

注。右仰如何〕後。書大般若外題。

十二月

一日。庚辰。從朝天陰。雨下。午時少晴。日蝕見。
三日。壬午。天晴。供養大般若。并觀音。於土御門。請僧三十口。以定澄大僧都爲講師。事了。施僧疋〔絹通注。絹賦〕。有各差。從今日三日可讀也。晴明。光榮。昌平等。爲祭。入拜上卿。春宮大夫。右大將。右衛門督。中宮權大夫。勘解由長官。春宮權大夫。左大辨。右大辨。大藏卿。修理大夫。三位中將等也。殿上人廿人許來。僧布施。取殿上人等。
四日。癸未。曉景參大內。
五日。甲申。從內體出。到東三條。
七日。丙戌。依右府備。參陣。依參入諸卿不定事。是推問使孝忠等申文云云。尙侍必可叙三位。仍三位有叙位。右府承之。參弓場殿。奏賀由。右府此間奏是。依示也。退出。
八日。丁亥。定大饗。入夜。從內有小契給物者。即參入。殊事不仰。
九日。戊子。從內罷出。
十日。己丑。可參尙侍慶事定。

十一日。庚寅。春日小道。與高陽院有火。入夜參內。女方同之。
十二日。辛卯。從內出。修理大夫食物持來。上達部。春宮大夫。源中納言。權中納言。勘解由長官。春宮權大夫。右大辨。修理大夫。三位中將。殿上人廿人許。此間伊勢前守時貞氣上。侍所不聞。
十三日。壬辰。雪下。有陣定。推問使申文。定朝拜。并荷前使等。奉仕官奏。仁王會定闕請。定前大僧正。石山御修善結願。遣少進弘道。令請御衣。送馬一疋。
十五日。甲午。天晴。巳二刻參內。依御物忌。不參御前。以藏人定輔。仁王會諸僧。可賜度者由令奏。被仰云。無候御前。上達部有御物忌。覆推如何者。奏可宜由。著入省東廊。春宮大夫。右大辨同參。一昨日十四人外。同四刻打鐘。此間人人參。午四刻事初。遲參僧二人。此借法用僧。令登高座。今朝依仰。獻勅旨四編。百五十疋。是僧布施料也。僧綱二疋。凡僧一疋。少納言。辨。外記。史等賜之。朝座了。僧并上達部等退下。打鐘後。又著座。酉時事了。此間經通。仰賜度者由。著講師許。參內。依雨儀。無御前事。參入之間。立廊外。陸奧交易御馬廿疋。入自月華門。著御前座後。事了。南殿又問。南殿右府候。依仰候入省。上卿許行香。參內。道方朝臣御馬解文持來。即奏聞。明日御物忌。復推若輕。可出南殿給者。退出給。經通朝臣持來左衛門督辭書。即令奏。中納言。左衛門督等也。辭心兩度。行幸行事。右衛門督奉仕。加階爲上臈。仍其後不參內。其心也。書紺泥仁王經百二部。爲講經。是舊御願也。日來書紺泥觀音。□只以大僧正供養返來。願之。

十六日。乙未。天陰。御出南殿。以信濃馬儀。依召參上。召左近少將經通。馬頭相尹。右近中將公信。馬助孝義等。令取御馬。此前依仰。以六葦毛。爲令奉東宮。令引出御馬。各三疋取後。依仰賜御馬九鶴毛。又各取了。置鞍馳殿庭。著陣。召外記。仰東宮使經通朝臣。罷出後。馳給御馬見。

十七日。丙申。從夜部雨下。公家荷前。午後有晴色。

十八日。丁酉。雪下。萬物白。奉荷前。晚景參大內。罷出。此間雪下。亥時許。右頭中將持來典忠則過狀。即令奏。

十九日。戊戌。參慈德寺御入講初。從寺參內。候御佛名初。事初。罷□。今夜。勘解由長官子家業。常院飯命。勘解由長官召菓子。并盃。御導師慶算不參。召替人。不依參。御導師一人不候。

廿日。己亥。左衛門督辭狀返給。入夜參御佛名。御導師尙一人不候。依明日依「依ノ字、誤リテ重複スルカ」物忌。子二廻罷出。枇杷殿西廊等新作。渡見之。

廿一日。庚子。例講經。於西對初之。雖物忌外宿。人來。上達部六人被座。右近少將雅通。賜尙侍位記。有被物。女裝束奉。明日可令用給。奉御帶。文佐朝臣獻。慈德寺獻南昌書文。三位中將來。依物忌不參內。依御物忌。上達部。丑時參上者。以戒秀被補權御導師。是淨藏例。戒秀其「甚ノ誤寫カ」劣。而是久名僧。依枕□「賴通注。屈歟」所被用也。非常事。經房朝臣仰之。云云。

廿二日。辛丑。依物忌。不參慈德寺。以齊朝臣送文佐地文書。嚴久許。千袈裟內百條。同送之。上卿九人

參。云云。齋食如常。僧穆算大僧都。

廿四日。癸卯。以季隨朝臣。春宮大夫。右大將。明後日可被座由。是爲童等元服加冠也。讀經結願如常。參內。中宮御佛名也。被來上達部九人。參即罷出。

廿五日。甲辰。到東三條。枇杷殿等。見之。

廿六日。乙巳。從朝天陰。時時雨下。終日此如。酉時。嚴。苔等。加冠。右頭中將實成來。仰賜旨由。即右大將。依當座上禱。以兼綱。忠經等。衣令著。加冠春宮大夫。右大將等也。理髮道方。朝經等也。上達部。殿上人。祿有各差。事了。引出物。馬二疋。各一疋。賜上官祿。大將隨身。立明者等。又同尙侍參賀。依雨氣。定明日。

廿七日。丙午。滿正朝臣夜部入京。馬十疋獻。酉時尙侍參賀來問。上達十人皆參。湖平門內。立胡牀座。同門外。當門立章。以廣業。示內侍出由。即掌侍橋□子。出著帳下。主殿女官二人。當前取燈。相從女官有數。令奏賀由。中宮同之。返書。仰聞食由。從內衣篋一合。入白綾細長。各一重青織物。唐。各踏二疋。〔賴通注、二疋如何〕付五葉枝。中宮紫織物踏。香靈宮付銀枝。子四刻罷出。陣裝束仰奉親令奉仕。當朔平門。立東西妻。七條帳。東西妻二間。章東五間爲陪女座。付柱引平帳。其外引西北東帳。車前。大夫廿人擧燭。內侍出間。出帳外。縫殿寮門內。立條帳。爲御前座。中宮儲衛重六十前。賜諸大夫常侍。歸參間。賜女裝束一襲。加綾細長。是等皆前例。掌侍廿人。女官卅余人。賜疋見。髮上四人二疋賜。是無前例。尙侍

欲參聞。召典侍源□子。令髮上。賜女裝束一襲。有宮。絹十五疋。髮上。掛。袴。絹四疋。典侍乘二車。陣下。繖殿兩外立。陪女車西上南出。女方車。并十三車。四五車。帳下。今夜賴□「通ヲ略ス」有惱事留。廿八日。丁未。依召參入內。有小除目。是任大貳高遠。任左兵衛督懷平。依宇佐宮事。停任帥惟仲。廿九日。戊申。氏高。爲國。各馬一疋貢。是滿正邊物也。卅日。己酉。參內。退出。參華山院。出後。以公信朝臣。賜御馬。賜公信。纓櫻色細長。亥刻追歸。

寬弘二年

正月小

一日。庚戌。家拜禮。上達部六人。殿上人。地下四。并卅余人。諸大夫六十七人。事了。參內間。雪甚。大雪也。右府申云。射座有膝惱事。難列者。以此奏聞。被免了。余有勞事。不奉仕內。並退出。

二日。辛亥。

上達部來。內府座。數獻後。有引出物。參二宮。大饗。中宮大饗著。樂間無。多正方。吉茂男。秦清國。樂贖子。余并右府。內府。一兩上卿。有祿物。雖例。無上手子。仍□□□□如常有定。乘□「醉ノ略書」不著靴。

三日。壬子。參冷泉院。拜禮後參內。

四日。癸丑。非可參叙位儀由。令奏聞。以左頭中將。被仰云。不參。非可被行者。從去月廿七日。有少將惱事。仍以勝算。初修善。高快獻馬二疋。

五日。甲寅。□□□□儀延明日。云云。以廣業朝臣有召。即參。被仰。今年改元。後年必可有叙位。不參□無便者。可參由奏聞。即罷出。

六日。乙卯。叙位儀。參未時。酉一點儀。著儀所。三獻後。吉「召カ」廣業朝臣由。戌一刻儀了。叙人卅五

人。

七日。丙辰。□□□節會。

八日。丁巳。依物忌。不參八省。從右大辨。被手跡一卷反。是先日綴紙二遺內也。於門外。人人申慶。

九日。戊午。以左頭中將經房。仰云。今年可有女叙位年也。可被行日申定。□□□□藏。令慶後。參入內。可有明日仰了。入□□□□光朝臣申。下向任國由。直佐志奴木〔サシヌキ（指貫）カ〕。馬一疋給。

十日。己未。天晴。可參中宮大原野給。定雜事。大夫。權大夫。他上達部兩三來。定了。參內。有女叙位事。如御義子正三位。尊子從三位。申內府慶由。叙人并十六人。此次被定藏人。右近少將雅通。文章生藤賴任。雜色源賴國等也。事了。退出後。經房朝臣。文生〔章ノ借音字カ〕得業生藤資業。被聽昇殿如何。云云。只隨仰云。件□冊人。諸事極無便事。未其例。度度申其由。有重仰。如何申哉。

〔裏〕戌時許。右頭中將經房來云。有仰來。物忌固。以人非可示者。雖物忌當相會。被仰云。右大臣參入。令奏云。弘徽殿女御。賜加階。可賜承香殿女御。有各申所。□位爲之如何者。令奏云。叙位日。賜弘徽殿正三位。承香殿又賜同階。宣侍哉。只有敬慮。他人何奏哉。令奏。從頭中將許。消息持來。披見。賜兩女御從二位者。右府申賀退出。云云。今思。賜始正三位宜□□□。

十一日。庚申。從丑時許雨下。深雨也。後天晴。依物忌。□□□□內外來云。賴任□□□業慶。

十二日。辛酉。重物忌。

十三日。壬戌。人人被來。行枇杷殿并東〔三脫カ〕條。

十四日。癸亥。著御齋會結願如常。香行後。不著廊座。參內。右府□□雜事。戌時初御前事如常。陸奧臨時交易。渡行事所。例布施外。賜僧各有差。待僧等列間。良久立。依之仰行事。召諸司。床子立軒廊內方爲座。候宿。

十五日。甲子。從內罷出。有皇太后宮內藏。云云。是永光藏也。昨日未時許頓減云云。所惱胸。

十六日。乙丑。參內。未時。□□□列。亥刻事了。不賜三獻。是大矢也。余及他人人。不思出爲奇不少。踏歌間。主殿寮退出。依不候。內教坊別當左衛門督。余奏之。賜雜袍禁色宣旨左頭中將。

十七日。丙寅。依物忌。不他行。權僧正房送食物。少將儀後。初參內。賜雅通。下重上袴。今日著。云云。

十八日。丁卯。依□□□修爲少將。權僧正修善結願了。□□□番僧正見。此中阿闍梨一人二疋。

十九日。戊辰。藏人賴任。初申文。滿正朝臣獻馬翡翠。

廿日。己巳。參左仗。令□□□是初度也。舊吏等有功過。定九箇國。□□□五人。枇杷殿既初立。馬入疋。入夜□□下。右衛門督。中宮行啓令奏。道橋事。當近國等。可奉仕申〔宣脫カ〕旨下。

廿一日。庚午。天陰雨下。依物忌。時物。奉供養法華經。

廿二日。辛未。物忌。右頭中將來。仰云。廿五六日間。可有除目。如何者。令奏云。五日宜獻。但今年參事。有惱給憚事。以他人令行給如何。但明日參。可奏案內。

廿三日。壬申。參內。被仰云。除目必可奉仕。若不參。非可行者。依恐仰。奏可奉仕由。候宿。申障事。是今年滿卅算。并大臣後十一年。不肖身有數年奉仕。仍所申也。

廿四日。癸酉。從內罷出。

廿五日。甲戌。參內。長能勘出。官旨下。後有召。不參講所。此間善言朝臣申云。內豎勞帳未判。是下別當等。取名間〔簡力〕也。即仰召陣座加名。頭等三人。勞帳。簡。硯等參。其後參上。亥時事了。退出。

廿六日。乙亥。參未時。子時事了。候宿。

廿七日。丙子。未時事初。丑時了。今年除目初。自京官至於受領被行。道理治國者三人加階。自戌時雨下甚。

廿八日。丁丑。從內出。至東三條。還來。

廿九日。戊寅。從東三條參內。道雅申賀。次被免殿上。入夜罷出。依參大原野給。宮女方等。給絹米等。所入絹六百疋。

二月大

一日。己卯。□□□依例。大原野立神馬使。入夜帥被來。是道雅賀也。

二日。庚辰。依物忌籠居。初東三條修善。慶圓大都僧。〔僧都ノ轉倒〕

三日。辛巳。

四日。壬午。到東三條。召獄等令掃。各賜布。參內。入夜罷出。女方同之。

五日。癸未。從東對。立□□□代官右衛門權佐孝忠朝臣。上卿六人來。其後到東三條。□□□賜遣。從等給布。

六日。甲申。

七日。乙酉。

八日。丙戌。參內。候宿。□□□□□□□□□□參內。大寺所。大□□□□□□□□所。爲野火。被定女一宮御著裳。□□□□對面事。

九日。丁亥。

十日。戊子。從夜部雨下。午時許有晴氣。從申時許又下。酉許晴了。戌時渡東三條。上卿十人許被來。著西門。後陰陽師晴明運來。以隨身召。時刻內來。有新宅作法。其後與達部五六獻。後召紙。打攤。

十一日。己丑。

十二日。庚寅。所立黃牛放。相求得之。如本立。上〔達略力〕部十余人來。

十三日。辛卯。以成□□□□□。右大辨也。牛童賜祿還。

十四日。壬辰。參內。候宿。明順朝臣所借玉篇。□□時來。

十五日。癸巳。

十六日。甲午。參圓融寺。次參入內。有不靜疑。依後齋。從左衛門陣退還。參御寺。事了。罷出。入夜令申。隨身云。番長保友。只今□懸門下。爲盜人。被射及死聞者。卽遣人。左衛門尉忠道。右衛門尉爲時等又遣。各還來申。爲友。公忠。保友。從殿出。渡西間。□□爲者。保友已死了。云云。歎憐無極。

十七日。乙未。中宮權大夫。如舊□□。院別當官旨。仰廣業朝臣。

十八日。丙申。參內。候宿。

十九日。丁酉。著左丈座。定仁王會事。於大極殿。百□春宮大夫。校檢一條院新。召諸國檜皮。

廿日。戊戌。參內。有小除目事。中宮職進以下。侍從等也。戌時中宮出土御門給。共〔供〕奉上卿八人。

廿一日。己亥。從內有御使。經道有酒肴。賜祿。

廿二日。庚子。

廿三日。辛丑。於馬場殿。初調樂。

廿四日。壬寅。從昨日酉時。雨降。通夜深雨也。從今朝晴。參內。候宿。

廿五日。癸卯。女一宮惱給事加治。仁王會。從內著入省。初午時事。申時參內。奉仕內行香。兼日仰諸司。

東西軒廊。令立床子。僧集會爲座。前帥藤原朝臣。座次。可列大臣下。大納言上由。仰外記行利。

廿六日。甲辰。調樂。

廿七日。乙巳。依參大原野給事。奉幣諸社。石清水則忠。賀茂大藏卿。松尾修理大夫。平野輔親朝□〔臣略力〕依障申。三位中將也。稻荷。春日。大原野。梅宮。吉田等。諸大夫。權大夫行之。初有內文事。同行行之。云云。

廿八日。丙午。

廿九日。丁未。天陰。朝間雨下。宣義朝〔臣略力〕賜行平申文。是叙四位。令作位記。駿河常陸等。治國加階也。女方行長谷。

卅日。戊申。調樂。

三月小

一日。己酉。出東河被。參內。卽退出。

二日。庚戌。

三日。辛亥。內有作文事。云云。

四日。壬子。日來有惱事。不參內調樂。

五日。癸丑。夜部從戌時。雨通夜降。

六日。甲寅。天陰。不降雨。試樂召上達部。御前參。音聲發。於馬場殿北。渡橋。遣水。候東。啓五曲。其

東遊。右大將隨身給正見。

七日。乙卯。

八日。丙辰。從寅時。女方乘車。共奉諸司參入。卯二點寄御輿。從西門。午刻著社頭給。申時初事。此間微雨下。右大臣以下著上達座。參社前奉幣。著休幕。大臣以下來。事了。使大夫啓。後在御前舞事。余事雜如行幸儀式。從內有御使。左近中將賴定。賜祿物。頭中將經房。仰神人可有賞。依行幸例可行者。神殿領茂木賜一階。余四人頒榮爵。酉時還御。亥時參入大內。尚侍著土御門。右大臣馬二疋。右大將一疋。右大將御前令賜祿物。余。人人隨身。馬副等。賜正見。此間尙微雨降。御出間不降。感悅感悅。內大臣。權律〔師略力〕。河邊有勞事。申障還了。

九日。丁巳。通夜終日大雨下。

十一日。己未。參內。候宿。

十二日。庚申。有御庚申事。

十三日。辛酉。曉女方從內出。巳時罷出。從亥時許雨下。

十六日。甲午。爲作文。召人人。而春〔宮ヲ略ス〕大夫惱事尙重。仍停了。從未時雨下。

十七日。乙丑。通夜雨下。權僧正修善結願了。雨申時許晴。

十八日。丙寅。參內。入夜罷出。賜直物。月內仰可有直物由。

十九日。丁卯。入夜參。候宿。

廿日。戊辰。臨時祭式〔試ノ略字〕樂。籠御物忌。舞人五人。申自余障。候宿。上達。中宮權大夫。權中納言。右大辨。大藏卿。大藏卿有惱事。未前退出。

廿一日。己巳。參內。候宿。

廿二日。臨時祭如常。使權左中辨道方。四五獻之間。小雨下。早給重盃。舞間。雨猶下。候宿。不見物。

廿三日。辛未。天晴。從內。與右衛門督。中宮權大夫。同車見物。

廿四日。壬申。參內。候宿。

廿五日。癸酉。從內罷出。於眞言院。以雅慶僧正。初御修善。中宮御修善。明兼律師修之。初季讀經。

廿六日。甲戌。早且參內。前帥。大貳等。被免殿上。依明宮宮御事也。豐直朝臣。春宮御經。令作位記。仰

大內記宣義。左右獄囚。從今日付使官人等。賜食。只今左右合六十九人。

廿七日。乙亥。終日深雨下。一宮御對面。女一宮御裳著。其間記有別。內親王叙品。承仰。內記令作位記。申外內印。諸司不具由。奏事由不行。今夜前帥參。初列公卿座。

廿八日。丙子。讀經結願。事了。參內。請印位記。令奉。

廿九日。丁丑。巳時許帥來。於弓場殿射弓。從未時作文。顯花落春歸路。

四月大

一日。戊寅。辰時許人人散。帥有引物。馬一疋。
二日。己卯。天陰。小雨下。
三日。庚辰。暴雨大風。
四日。辛巳。人人來。射了。帥於殿□〔上力〕被座。
五日。壬午。參內。著左仗。定前駟奏。位祿。目錄。
八日。乙酉。直物。有召物。小雨降。
十七日。甲午。御禊見物。
十九日。丙申。右府參賀茂。賴通被共。是宮參大原野給。被共奉。依此恐恐奉也。馬二疋。野劍一腰。於是大夫送物也。
廿日。丁酉。從枇杷殿西對。立使雅通。上達八人被被來。事了。帥被來。同車上達同到。棧屋見物。入夜參內。退出。令申生昌朝臣云。帥中納言去月十四日薨。□廿二付。今夜來者。依神事間。不申子細者。
廿一日。戊戌。出見物間。被來右府。是賴通被命悅也。同車見物。返來。爲牛一頭引物。上卿七人被來。還豐如常。

廿二日。己亥。參內。候宿。

廿四日。辛丑。從內罷出。初大般若不斷讀經。十二口。依舍利會事。僧等遲來。初晚景。

廿五日。壬寅。參內。定春季御讀經事。定以慶圓。有內御修善事。

廿七日。甲辰。女方從內罷出。

廿八日。乙巳。內從罷出。

廿九日。丙午。著左丈。補闕請。

卅日。丁未。御讀經發願。未時打鐘。(吉時)同時事初。事初如常。從內罷出。來月四日。可供養仁王經定僧名。可初同日三十講定僧名。巳時。藏人量能宿所。入盜人。取雜物間。人見付。仍入自月華門。渡南庭。出自日華□〔門力〕去。依之。左右近官者。兵衛官人召問。

五月小

一日。戊申。大般若讀經結願。

二日。己酉。參內。臨時御讀經定僧名。御論義間。候御前。亥時還出。令申別當云。入量能宿所盜人。□□常侍近家承宣旨。可左右者。可檢者。右近令用云。不候盜人。□尙尋求得之。檢非違使等。參藏人所。令申此由。賜勅祿。

三日。庚戌。季御讀結願如常。雖物忌參內。
四日。辛亥。供養仁王經千部。請僧卅口。此中有七僧。施絹四疋。爲上二疋。爲下八木八石。爲上二石。爲下共養料有此外。入禮變。在堂北舍。北舍西廂。事了就之。仍內御讀經初。參入諸卿。又還來。後初卅講。自依物忌不參。讀初玄義。
五日。壬子。參所者。藥生持來。賜祿。從中宮。齋院被奉藥生。云云。帥被來。與人作文。絕韻耳。
六日。癸丑。雨下。
七日。甲寅。通夜雨下。
八日。乙卯。天漸漸晴。午後雨下。
九日。丙辰。參內。入夜罷出。時時雨下。
十日。丁巳。雨下。
十一日。戊午。雨下。
十二日。己未。雨下。
十三日。庚申。雨下。講說後。依僧等命。召左右騎射。有庚申事。僧同之。作文。殿上人一種物持來。早朝知章朝臣非時。
十五日。壬戌。雨下。深雨。五卷目。有捧物事。依雨廻堂中。業遠非時。

十六日。癸亥。(月蝕皆既) 深雨。不見蝕。

十七日。甲子。雨下。國平朝〔臣ヲ略ス〕非時。

十八日。乙丑。天晴。中將賴親非時。

十九日。丙寅。天晴。從夜部。一宮惱給。參內。後宿一宮。被修不斷經。

廿日。丁卯。天晴。入夜雨下。參冷泉院。是依有御惱也。參內。候宿。

廿一日。戊辰。天晴。從內罷出。

廿二日。己巳。

廿四日。辛未。以僧二人。令立義例。講後。興福寺經久。登高座。覺運僧都所作五枚。天台僧五人。問之一枚。落一枚。未判三枚得之。天台僧教圓。次登高座。澄心律師作□五枚。南京僧五。同之。□□□□一枚。未判四得之。南京住記。妙玄山住記。懷命義□各相分。

(裏) 右府。內府。春宮。大夫。右大將。民部卿。右衛門督。彈正尹。中宮權大夫。勘解由長官。左兵衛督。左大辨。大藏卿。修理大夫。三位中將等來。殿上人有其數。兩相府被修諷誦。是希有事也。事了。有僧結。非時。七八獻後。兩相府獻念數。右府除〔沈ノ誤寫カ〕。內府紫壇。皆有裝束。是等尤上品也。
廿八日。乙亥。卅講了。儲西對酒希。(賴通注。看賦)

六月大

一日。丁丑。朝間雨小下。
十三日。己丑。五六日許雨下。天晴。
十六日。壬辰。從去朔日。有惱事。久不參內。昨日依召參入。即退出。
十八日。甲午。於感神院。侍人人。修百講。云云。□□參內。候御物忌籠。經料紙賜。經師令備。
十九日。乙未。有小除書事。著左丈座。申時依召參上御前。召紙筆。書大問。□□中納言忠輔。參議
經房。召等傳。任右中辨經通。少將忠經。兵衛佐賴宗。內藏頭賴親。民部大輔方理。攝津守方正。此間
被□。藏人頭賴定。從御前。頭定文賜實成。著陣。奏請書。民部卿表。退出。
(裏)宰相中將。車牛。御前等。送帶劍平〔緒ノ字ヲ略スルカ〕等。同之。
廿一日。丁酉。初木囉三昧經書。至彼寺。入夜歸。參內女方。
廿三日。己亥。從內罷出。
廿四日。庚子。小雨下。物忌重。
廿七日。癸卯。上表。以賴通爲使。午刻上之。未時以左近中將賴親返給。其儀如常。入夜雨降。
廿八日。甲辰。天晴。初法興院御入講。依物忌不參。

廿九日。乙巳。天晴。左近少將忠經。右兵衛佐賴宗等。府者□祿給。土御門西廊。備饗卅前。爲兩府官人
座。對座東。左近庭北上座。備二列物節。以下座左近西。賜饗祿如常。
卅日。丙午。時時雨下。依法興院御入講五卷日。參彼寺。事了。參內。入夜罷出。女方同之。東宮殿上。
被聽左少辨佐尹朝臣。

七月大

一日。丁未。時時雨下。有雷聲小。
二日。戊申。時時雨下。法興院御入講結願。有障事不參。
三日。己酉。雨下。
四日。庚戌。物忌重。
五日。辛亥。物忌重。
六日。壬子。雖物忌。依輕。人人來。賴光朝臣申云。去三日。北邊故滿季家地。有數母牛。而馬來遊牝。其
牛即斃。一者奇思間。儀懷朝臣。去月二日候國之間。馬欲遊牝牛者。上達部九人來。
七日。癸丑。雖物忌。依召參內。有作文。題之佳會風爲使。(以知爲韻)
八日。甲寅。通夜雨下。晚景從內罷出。此間雨止。

十日。丙辰。早朝參內。望御書所學生等。召弓場殿。被試。參者九人。其座北上。而監守近衛亞將座。北廳下。西上。南面文臺立戶西間。御題賜賴定朝臣。賴定朝臣召學生上臈。賜之。學生。從右近。陣二人闕。四人獻文。依文宣。乍四人補寄。□□□□就左仗。奏施米文。去月可行也。而朝間有惱事。不參內。次獻書。仍及于今晚景。退出。

十一日。丁巳。有相撲召仰。右大將承之。依永延元年例。有音樂。

十二日。戊午。召外記行秋。仰明日可催上達部由。

十三日。己未。參內。著左仗座間。上達部參否。外記申。多不參。仍定事了。退出。

十六日。壬戌。召大外記善言。仰明日可催上達部由。

十七日。癸亥。參內。著左仗。參公卿。□內府。春宮大夫。右大將。民部卿。右衛門督。尹中納言。源中納言。新中納言。左兵衛督。左大辨。大藏卿。宰相中將等也。大安寺別當律師。平超替。定申可然僧等者。諸卿定申云。法橋扶公。是爲元興寺別當。尤能治者也。以後可被兼補。又大威師延元。阿闍梨定滿等。可奉仕者也者。以廣業奏聞此由。被仰云。七大寺別當兼任何如何。諸卿申云。諸國受領。有其例。以能治者被兼補。無可難者。即被仰云。以扶公可兼補者。定了退出。

廿日。丙寅。參內。候宿。

廿一日。丁卯。早朝罷出。前帥被免勅授宣下。以午時參陣被來。左衛門督上表返給。賜一階。仰詞云。去年

十月以後。不參內。定有所思。仍賜一階。早參可隨事。□去。是雖非朝義〔讓ノ略字〕。有採用人也。仍被行之。入夜參賀。又被來。雨下通夜。以時申。牛登西對北渡殿。所令卜申。重由。

廿四日。庚午。物忌重。

廿五日。辛未。天晴。少將召相撲等。賜食物。

廿六日。壬申。依物忌固。不參內。有內取事。左最手。腋。決勝負間。最手常時。腋時正。時正勝了。云云。

廿七日。癸酉。物忌重。雨下終日。修四卷經。講僧五口。女方又修仁王經。讀經僧三口。

廿八日。甲戌。相撲召合。參內。依有左衛門佐障。以左馬助助信爲代官。午一點御出。次東宮參上給。催御簾內。帥親王被候。依右大將不候。左大將奏。午番右大臣候。御十四番間。日暮。仍止了。數持多。是天判。各奏勝負樂了。還御。候宿。入夜御簾。顯信被許殿上。

廿九日。乙亥。寅時。中宮御南殿時刻。御出。東宮上給。自餘如昨日。召二番。右勝。奏樂各八曲。輪臺間上御簾。上達部給衣。樂了間。賜被物。親王。大臣。御衣。自余大褂。玉卿拜舞退出。還御後。中宮又還御。

卅日。丙子。少兒等違方一條。

八月小

一日。丁丑。時時雨下。參內。著左仗座。定申寂勝講僧名。證義者覺慶。觀修。講師殿久。定澄。覺運。院源。□照。澄心。慶命。春明。林懷。康延。聽衆朝晴。春穩。義慶。融碩。經救。(已上南京)日助。懷壽。妙意。明尊定基。天台。□日時來。

七日。酉時罷出。女方出東河。

二日。戊寅。參內。著左仗座。未時大外記善言申。博士等見參。即返給。御出南殿。藏人頭實成來。仰召由。可候御後由。即參上。後右大臣令奏云。大博士廣澄不入見參。而令候如何。有可候由宣旨。其儀如常。

三日。己卯。行木幡。見造堂。入夜渡東三條。遠方。可候內宿也。女方同之。

四日。庚辰。雨下。早朝還來。入夜參內。女方同之。

五日。辛未。著陣座。令勘申丹生。貴布禰。被奉馬日。來八日。定仁王會事。一度百講。來廿一日。肥後守爲□卒。云云。

七日。癸未。中宮欲御修善之間。夜深從雅通許。有消息。被仰云。明日可立丹生。貴布禰使。御修善事如何。若思忌給職者。即令申云。所是大思給忌也。不動壇以後日可初由。令奏。阿闍梨雅慶僧正許。示送此由。

八日。甲申。示右衛門。立丹生等使。從夜雨下。

十日。丙戌。賴□[通ヲ略ス]方相撲。寂手經世。腋勝岡等賜馬。云云。參內。候宿。

十一日。丁亥。雨下。候內。

十二日。戊子。從內罷出。

十三日。己丑。雨下。曉從內女方出。參內。著左丈。從殿上。下給申肥後守申文十枚。奏四枚。有召參上御前。任伴國藤原保昌。寂勝講僧。證義二人不參。講師春明申障。以日助爲講師。聽衆朝清他行。召遍救寬印等。事了罷出。以戌時渡東三條。

十四日。庚寅。天晴。午時參內。申刻打鐘。御裝束如廿口御讀經。但御帳四角。立四天王座。御北敷講僧座。南立高座。上達部座鋪四間。候宿。女方參內。爲威朝臣貢馬二疋。

十五日。辛卯。天晴。未時打鐘。事初。講師覺運。說法令感。衆人以座了。從中宮賜酒饌。殿上上達部等著之後。初夕座。入夜從內罷出。女方同之。依明日明後日物忌重也。

十七日。癸巳。賦林池秋興詩。□申時許。量[能ノ字ヲ略スルカ]來云。有東宮御惱。

十八日。甲午。參內。候宿。御講結願。賜請僧祿物。并度者。

十九日。乙未。從內罷出。春宮御惱尙重。

廿日。丙申。參內。次至土御門。定可立屋所。堀川邊有齋事。男子。

廿一日。丁酉。土御門立西二對。居右。
廿二日。戊戌。立柱上棟。
廿三日。己亥。上野守忠施參上。

〔以下九月四日ニ至ルマデノ記事逸落セリ。但シ次ニ存スルハ四日ノ記事ノ末文ナラン〕

右衛門督來。示件事承驚由。

五日。庚戌。昨日被問別當。云云。以實成被仰出。〔長并致光從者童申云。於院御不擲。致光家門下擲者。若擲致光從者。有見者奏。〕官旨甚以奇。又別當奏事極奇。所見人。或上卿。或五位已上。下人數多。因茲不令奏證人。

六日。辛亥。至木幡。重親承別當。令擲致光從者。仍於藏人所問之。云云。雖忘落。未上過狀。云云。

七日。壬子。右頭中將來云。重親使官旨去示。可仰他人由。仰春宮大夫。云云。

九日。甲寅。參內。內行平座事。入夜作文。題菊是花座賢。

十日。乙卯。早朝講文。後自內罷出。以業遠可令作豐樂院官旨了。是依先日申請。可作羅城門之由官旨下。而有憚事申返。仍重下給。

十一日。丙辰。八省有幸如常。余賜官旨。事了退出。日來所抄運府秘抄獻內。御氣色宜。

十三日。戊子。物忌。不他行。

十四日。己丑。物忌。不他行。亥時許雨下。

十五日。庚寅。從朝天晴。參內。即退出。上達部七八人許。殿上人會合。守庚申。有作文事。題池水浮明月。韻澄。女方渡一條。夜內歸。

十六日。辛酉。午時許講作文。

廿日。乙丑。從內罷出。內方同之。依方忌。宿批把殿。

廿一日。丙寅。早朝到東三條。辰時許雨下。

廿二日。丁卯。天晴。參賀茂。同道上達部。春宮大夫。中宮權大夫。權中納言。新中納言。勘解由長官。左衛門督。左大辨。大藏卿。修理大夫。三位中將。宰相中將。有舞人陪從等。還祿於社頭給之。還來。春宮大

夫引出馬一疋。

廿六日。辛未。季御讀經。申時初如常。事了。參帥定。是依有八講事也。夜深還。同道上達部五六人許。

廿八日。癸酉。鑄木幡鐘。卯時許出立。同道上達部。帥。春宮大夫。右衛門督。中宮權大夫。權中納言。左

大辨。大藏卿。修理大夫。三位中將。宰相中將。鑄鐘午時。不快。彼寺客殿初食。亥時許還來。即與五人上

達部。參內宿。銅鐘不足不快。仍加。燒銅鐘(加之)。時刻多移。不審無賊。工等賜錄。

御堂關白記 上卷 寬弘二年

九一

廿九日。甲戌。從曉雨下。御讀經結願。申時事了。罷出間。從木幡。貞仲申云。鐘籠頭間。開見成了者。

十月

一日。丙子。出旬御出。申時有御謚奏。并官奏事。事如常。事次第頗有違。無庭立奏。依入夜也。音樂如常。戌時事了退出。

二日。丁丑。以右頭中將令奏。右衛門志林重親。先被倚使官旨。日來夫變真奏。度度申可被免由。

三日。戊寅。至木幡寺。入夜還。頭中將來云。依奏可免重親者。即春宮大夫承之。

四日。己卯。有奉幣事。右府行之入夜。入夜右衛門督進別當辭狀。入夜廣業朝臣持來。

五日。庚辰。不參弓場初。廣業朝臣來門外云。夜部右衛門督辭狀返給者。

六日。辛巳。時時小雨下。兩三人人作文。題雨聲共葉飛。

七日。壬辛。參內。宿。

八日。癸未。中宮御讀經初參。春宮大夫。右大將。右衛門督。尹中納言。權大夫。權中納言。新中納言。左兵衛督。左大辨。大藏卿。三位中將。事了罷出。

九日。甲申。至木幡寺。後行宇治。

十一日。丙戌。中宮御讀經結願。被〔參脫力〕右府。內府。自餘公卿八九人許。女宮御讀經。參大臣。甚以

希有事也。此宮度度有此事云云。參上內府被示云。實成朝臣有奏次事。著殿上者。仍著殿上。雖無便。依有所思也。右府同著。事了。內府。春宮大夫。隨身官人等。賜袍。事了退出。

十二日。丁亥。到長谷不斷念佛。以下作百端諷誦。

十四日。己丑。到木幡寺。造作漸成。山座主。法務僧都。法性寺僧等。到長谷。是爲見籠也云云。引出物。

斷〔衍力〕馬一疋送。雖無消息。愚用意歟。

十五日。庚寅。木幡鐘。從形開出。遣四位少將還來。醍醐北。還來後。於殿。殿被入寺云云。

十七日。壬辰。早朝至木幡寺。定雜事。曉景還來。及額二面左大辨許。淨妙寺。雨下。

十八日。癸巳。式部大輔。咒願文持來。參內。還出。右頭中將來。明日會可准御齋會者。即內府承之云云。

以則友朝臣。中務宮奉經外題書給。

十九日。甲午。淨妙寺供養。天晴。以時寅。出立。月如晝。辰始著寺。女方下借屋。與春宮大夫同。巳時。

吉時打鐘。鐘聲如思。此間。上達部十人許先來。午時人人來具。未時入堂。大會儀如常。無樂。式部彈正。

著南大門內東西帳座。次諸僧入堂。外記行事。證者覺慶。前大僧正。導師前大僧正顯修。咒願大僧〔都脫力〕

定證。頌大僧都濟信。前大僧〔都脫力〕殿久。散花少僧都院源。律師明肇。引頭慶命。尋光等律師。堂達林

懷。莊命等也。在法限納衆卅人。此中綱八人。讚衆廿人。梵音衆廿。錫杖衆廿人。威儀二人。定者二人也。

會指圖在別。入禮上達部。右府。內府。前帥。春宮大夫。右衛門督。左衛門督。中宮權大夫。權中納言。藤

中納言。勘解由長官。左兵衛督。左大辨。大藏卿。修理大夫。三位中將。宰相中將等也。不來入。尹中納言。式部大輔也。內藏寮。冷泉院。華山院。皇太后宮。中宮。一品宮。有御諷誦。一門男如。可然所。有此事使。使有祿物。酉時事了。人人還出。後始三昧。以院源僧都。令申事由。此前打火。可付香者。余取火打。白佛言。此願非爲現世榮耀。壽命。福祿。只座此山先孝〔考ノ衍力〕。先祀。及奉始昭宣公。諸亡靈。爲無上菩提。從今後。來來一門人人。爲引導極樂也。心中清淨願。觀迦大師。普賢菩薩。自證明給。打火是爲用清淨火也。早付爲悅。晚付不爲恨。祈請打火不及二度。一度得火。感淚數行。見聞道俗流淚如雨。付香舉燈明。白事由。推三寶。堂僧時刻吹螺。新螺聲未調不快。余作念言。始吹螺。欲奉三寶。取螺試吹之。螺聲長大也。萬人感悅之笛〔由力〕會之上達部。春宮大夫。右衛門督。中宮權大夫。左大辨。修理大夫。三位中將。宰相中將等也。別當前大僧正觀修。三綱隨彼定。別當堂僧等。送房具。寺名觀修付也。式部權大輔。顯文持來。有祿物。左大辨。顯文咒願等書。從中宮。名香給。使公信朝臣賜祿物。供養三昧經。件經。每卷初只手自書。此外法花經一百部。心經百供養。事了。子時許還來。京雪雨下。寺無此事。還間月明明。還間。預作寺貞仲朝臣賜柏。

廿日。乙未。著左仗。定闕請。依御物忌。不參御前。

廿一日。丙申。參內。候宿。女方同之。

廿二日。丁酉。被供養新書大般若。御讀經申時初。於涼清〔清涼ノ倒置〕有此事。僧座如卍口御讀經。但僧

綱座。後加一列。御導院源僧都賜慶者。入夜事了。賴通以中宮當年御給時。叙一階。罷出。女方同之。女廳三位供養寺。修諷誦。送僧前。

廿三日。戊戌。作木幡作佛康淨。賜祿物。

廿五日。庚子。一宮參石山寺。先從內外土御門。與女方同車參。供奉上卿。春宮大夫。中宮權大夫。權中納言。左大辨。大藏卿。三位中將。宰相中將。與春宮大夫同車。入夜參著給。卽上堂給。

廿六日。辛丑。勅使雅道朝臣參。

廿七日。壬寅。勅使隆光參。與春宮大夫。中宮權大夫。權中納言。左大辨。三位中將等。參志賀寺。別當院源僧都。儲食物。信布百端諷誦。梵釋寺五十端。徒舟往來。春宮大夫。中宮權大夫。三位中將等歸京。少雨時時下。中宮御佛三昧。奉作修慶圓并尋譽。御修善。於東大寺。百口御經初。

廿九日。甲辰。於八島有祓事。舟下。爲宮御。光榮朝臣。余。正邦宿禰。女方。文高宿禰。勅使廣業朝臣。八島邊來。

十一月

一日。乙巳。實成朝臣勅使來。余賜御書中。玄觀音結願卷數持來。授祿物。

二日。丙午。明日依立春日祭使。田上厩舍至宿。亥時許。風雨并水下。雪〔注、雷歟〕鳴數度。高大也。恐

思不少。已時量能來云。仰事。以候近衛府。賜觀修寺度者。候寺。左大辨許。仰遣此由。

三日。丁未。拂曉參石山。奉出。御修善僧并三綱等賜祿。女方修善關梨。別當僧都。宿衣一具。番僧等正見。我滿寺僧。僧供。御向〔迎ノ借字〕人人多參。午時著土御門。入夜參內。給祭使。取使下重。及從田上立間。國守賜馬一疋。又家領千秋賜疋見。於寺。女方國守綾掛。一重袴一具給。

七日。辛亥。從內罷出。至木幡寺。

八日。壬子。夜半許燒亡。維叙朝臣三條宅。

十日。甲寅。小雪下。少內記惟規。賜崇福寺申爵名簿。參內。候宿。

十三日。丁巳。入夜從內出。女方同之。

十五日。己未。參內。著左仗。有定。大宰典代長岑則。罪名勘文。諸卿申云。依勘文可被行。是宇佐宮御殿。依付對事也。從年候弓場者也。又相摸國前司輔政申請。前前司惟親定與不家付官物者。諸卿定申云。與當任司邦忠可定。三人下向宜敷。定了退出。後。月蝕。如付覆。未後一變。後人申云。西方有火。赴見內裏。內裏見馳參。從東至北陣間。御在所。會女藏人。少輔。籙殿寮門下。示御中院由。內從北陣參著。此間火南東燒。中宮同御。大臣以下參著。余〔餘ナリ〕所參人。宰相中將。左近中將賴親也。主上御飛香舍。與中宮御出給。此間人不候云云。六位一兩候云云。火宜後。渡職曹司給。而件曹司破損盛也。仍太政官朝所御座。中宮營造。曹所舍御座。火出所未知。溫明殿與綾給殿間出云云。左近少將重尹。右近少將濟政等。率一貞

〔員カ〕。尊所仰可奉守由。令參。明後。奉求神鏡。破損給。大刀四柄有。小調〔銅ノ柄カ〕魚形。金十枚。銀十五枚。銅卅枚許。求得。即從長殿。渡辛櫃。奉入。松本職曹司奉置。近衛將監以下。左右宿直候。

十七日。辛酉。參諸卿御所。候西廂。定申神鏡事。令進諸道勘文。後知本錄。定申云。又可遷御所。東三條吉方也云。可有行幸日時。勘申依官外記此由。入夜奉神鏡。委下綿。次綿。次絹。敷辛櫃絹參。自以女官小長谷等令奉。左中將實成。右近中將賴通舉燭。

十八日。壬戌。至東三條。可造所所。指行事。人人奉仕。

〔十九日ヨリ廿七日マデヲ闕ク〕

廿七日。辛未。於戌時行幸。女官。可然所所賜餽物。有女方陣殿上。所所諸司儲嬰。中宮亥時行啓。東宮同時。南院東對行啓。同時奉遷內膳御神。上卿權中納言。中宮又同之。

廿八日。壬申。雨下。殿上女方。宮女方。送餽物。

廿九日。癸酉。餽物如昨日。女方加紙。

卅日。甲戌。著陣。伊勢令申勘奉幣日。特使宰相中將。

十二月

一日。乙亥。從內罷出。

二日。丙子。出東河。去月大原野。吉田祭。留不奉幣由秘。
三日。丁丑。參內。
四日。戊寅。候內。風病發。
五日。己卯。候內。惱氣尙有。
六日。庚辰。立臨時祭使。御祓後。無歌音。召御前座如常。依遲細。有兩殿砌座。四五獻後。給使頭花。使近江守知章。宣命有辭別。依穢延由。事了退出。女方入夜出。
七日。辛巳。有惱氣。
八日。壬午。咳病重發動。宰相中將。明日伊勢使。而依有犬產穢申障。今日被依左大辨。
九日。癸未。惱氣尙重。右府行諸社奉幣事。奉置官司尊所。以申奉入新辛櫃間。奉置戶屋內。明光如燭。鏡日景在。塗籠內奉遷掌侍藤原義子。進左近中將賴定等。見奇惟如此。瑞相未曾有。此度火災御躰不全。而此。衆人所感只在之。酉在「二字尊所力」東對奉遷日。者「尊力」所候官吏。并近衛官人。近衛女官等。賜祿物。各有差。
十日。甲申。先日所承。依奉幣事。可參內。而咳病尙重。仍申障由。內府行之。左大辨。伊勢使一人也。
十二日。丙戌。參內。退出。
十三日。丁亥。參內。候宿。

十四日。戊子。有雨氣。候內。額、〔通ノ略〕向御馬。
十五日。己丑。從內還出。入唐寂照上人書持來。可憐萬里往來書。
十六日。庚寅。參內。候宿。
十七日。辛卯。御出南殿。有旬事。其儀如常。以西爲上卿座。有官奏番奏。庭立奏。監物奏等。無音樂。見參厨家御覽等。自余如常。但庭立奏間。堂命欲捺印間。我云可捺少納言。依之捺少納言了。後見尤所思也。
廿日。甲午。初季讀經。被來上達部。右大將。民部卿。右衛門督。左衛門督。尹中納言。中宮權大夫。權中納言。新中納言。勘解由長官。左兵衛督。式部大輔。左大辨。大藏卿。宰相中將。修理大夫。三位中將。殿上人廿人許。入夜參內。中宮有御惱氣云云。法性寺。天台法興院進賀卷數。使僧二人。一人單重。一人正見。廿一日。乙未。候御物忌。著左仗座。定朝拜侍從。次定荷前事使。有召參御前。被仰云。可定作宮事。可召諸卿。而御物忌也。定別當行事國宛。定申陣者。召硯紙。隨依書。別當權中納言俊賢。參議行成。行事左中辨道方。右少辨廣業。左右史。內藏爲親。右大史伴季隨。書了。御覽後返給。著陣座。召文書等。宛定。左大辨執筆。此間從御前。播摩守陳政申文給。文云。以私物。作常寧殿。宣耀兩。賜重任官旨。諸卿或申云。未功了。非可有賞。又申云。有公益。可被免者。余申云。人人所申可然。未功了。領賞事雖不宜。有被免例。依公益可被免。可然所被加如何。由此由奏聞。被仰云。可被宛國。難堪云云。可然所定宛免給者。仍加宿所屋。定了。奏聞。亥時退出。候內。從勸學。賀卷數持來。六位別當行信賜被物。法性寺立五大堂。即初

作佛。各丈六。造新〔料ノ略體〕米五百石送座主房。

廿二日。丙申。早朝從內出。參慈德寺。小雪下。入夜還。

廿三日。丁酉。讀經結願。又初讀經。公家荷前。私行之。極樂寺賀卷數送僧二人。一人單重。一人疋見。御佛名初參。

廿四日。戊戌。從內罷出。

廿五日。己亥。通夜雨下。定不堪田事。從御下結。伊與讀岐以私物作宛。殿與二面廊二箇。二年延任申事。又備前國。申宛殿與襲芳舍。重任。〔諸脫力〕卿申云。有公益可被免者。御佛名了。

廿六日。庚子。奉仕官奏。不堪田。諸國申文十余枚加。入夜罷出。讀經結願。

廿七日。辛丑。召京官除目。當日召仰。即日了。申時儀初。亥時了。子時大間〔簡ノ略〕持來。

廿八日。壬寅。昨日候內間。從興福寺。賀卷數。并經四十卷。莖下机覆等具。使僧一。職掌人五人給祿。僧一人單重。今一人疋見。俗疋見。仕丁信濃布各二端。

廿九日。癸卯。依召參內。檢非違使官旨下。判官爲政。志清淵。府生。右衛門。案主給。奏者利致。右衛門府補正。日來有辨申事。候所試驗。免給。因幡前後司與不事。後司申云。停官對問。令奏可解由給由。件事甚奇性。前司申所有道理賦。重被問。無所申。仍仰可解由〔給脫力〕由。即給之。別功不動。事未定也。固恨〔恨力〕後有實物。可下官旨。付今日迄。雜問定難。

寬弘三年 〔注、于時正二位左大臣內覽〕

正月

一日。甲辰。天晴。家人拜禮如常。立加〔賀ノ略〕上卿六所。四位以下五百〔十ノ誤寫力〕人。次參內。被仰。小朝拜以無宜思如何。奏云。是年首例。事不備。無便賦。猶可或行。出殿上。與上達部相議。令奏云。小朝拜依例可奉仕者。依例可奉仕由有仰。如常小朝拜了。御南殿。節會如常。但侍從列可有庭中。而不立。下中島。立座前是也。又宣命二段。可有舞。只兩段再拜。是遠例也。御曆水機等奏。付內侍所。小朝拜後。左衛門督示云。今日欠日。而二位後未立列。初立如何。予命云。被從他事忌如何。但如□□。有人御思云。命云。小野宮殿。中納言之後被立列。立申日。以此由被申定。貞信被仰云。如命。而右大將示云。從申日。欠日重忌。可忌者。付彼事退出。

二日。乙巳。雨下。可被上達部來由云云。雨下。人人御出入間無便。若猶可然。明日可被座由。可然人人相示。後兩三上達部來。

三日。丙午。時時雨。右府。內府。前帥。自余上達部皆來。只式部大輔一人不來。數不可及酌酌。三人引出物。馬各一疋。參內。又參中宮御方。數數巡。有和歌事。又不參東宮御在所南院。此間小雨下。余還。參

內。候宿。

四日。丁未。從内罷出。内府。人人至。後參法性寺云云。

五日。戊申。通夜雨下。依仰早朝宿衣參内。申時叙位儀初。戌時了。式部不奉省奏。省尉不行罷出。後廣業朝臣來云。奉式部省奏。源道濟入眼〔原可給三字ノ傍注アリ〕。上卿收〔殿ノ誤寫カ〕人廿五人。加式部廿六人。

六日。己酉。通夜今朝雨下。行平與惟宣。所論八千石不動事。行平進申文。多以相違。仍召廣業朝〔臣略カ〕。問案内。

七日。庚戌。參内。節會如常。無大將并坊家別當。仍奏奏等。右馬寮不候頭。忽申此由問。助頭代奉仕事。候宿。

八日。辛亥。被補藏人。候御前了。參八省。入夜罷出。

九日。壬子。行一條院。見初修理。

十五日。戊午。雨下深。

十六日。己未。時時雨。春宮大夫小童昇殿。余調裝束。從此參内。大夫彼來。申時以後有晴氣。用晴儀。余有勞事。不奉内辨。内府行之。帥參入。署外辨。諸卿立座云云。春宮大夫有勞事退出示云。又不候。大納言必一人。有後難敷。今日隨定。後日可左右云。

十七日。庚申。天陰。參内。女方入庚申折物。筆墨紙等。候宿。

十八日。辛酉。從寅時許雨下。午後有晴氣。以左大辨。遣射遺所。申時御出。依召參弓場殿許。棚後并變後參著。左大將新奏。右大將不候。近衛府三度。每度左勝。兵衛二度。停事了。奏勝負樂。此間御簾中召付的將。左近少將忠經遲參。他行良久。與雅通參入。

十九日。壬戌。時時雨下。從内罷出。

廿二日。乙丑。於陣座。定受領功過。初官政。時時雪下。

廿三日。從内罷出。女方參宮。

廿四日。從内罷出。

廿五日。戊辰。參内。

廿六日。己巳。有除目召。仰儲陣座饌。不進内暨籍簡。仍不加署。

廿七日。庚午。雨下。午後晴。内暨所加署。立南殿西廂。

廿八日。辛未。内記所。給酒肴料儀間。有伊勢應狀。守爲度申云。件替不申其人。只不賜維衛者。奏此由。進應書儀間。如案。右府以維衛舉申。被仰如何。我奏云。不宜事也。彼國有事者也。不被用。被任之無奇也。御心御意未知。奇思無極。諸卿家人奇申。希有也。丑時事了。有此事後。雖辨官不申任。奉大間清書立。有他仰者。不申左右。是心以神相違也。

二月

二日。乙亥。天晴。辰時地震。無音振久。可大云。

三日。丙子。從夜雨下。未時天晴。參內。入夜罷出。女方同之。

〔四日ヨリ六日ニ至ル記事ヲ闕ク〕

七日。庚辰。有犬死穢。右大將來。從穢參春日留。有〔後ノ有字ト重複カ〕從內有仰。內又有犬死事。可供奉祭諸司等。可召仰云。

八日。辛巳。參內。被仰云。令勘春日祭延引例。云申有先例由。被仰云。次以申日可奉仕。以成信被許昇殿。參春宮。被定殿上。定右兵衛佐賴宗。右兵衛權佐道雅。文章生平雅康等也。

十日。癸未。行大內記官茂。神祇官少輔千枝從上。伊勢神宮內外禰宜九人位記等官旨。是先年御祈功也。

十二日。乙酉。造入省。文信朝臣給官替。以豐源爲持被寄。

十三日。丙戌。參內。候宿。參東宮。左兵衛佐顯信。可許昇殿。

十四日。丁亥。從內參東宮。有弓事。入夜還出。

十七日。庚寅。雨下。申時下晴。巳時造宮初。史內藏爲親賜爵。替以恩屋爲利。內御書所寄巨勢文任。顯是先日試者內。依文互也。

廿日。癸巳。外記清忠門外來。申云。源中納言消息。今日請印受領任府。伊豫守公行位。速賜官官旨。未賜外記。仍難行者。即仰清忠。可爲請印。則光聞之。陳政兼字事。又仰爲作文。左右衛門督。源中納言。勘解由長官。

廿三日。丙申。物忌。再參內。候宿。從申時許雨下。通夜深雨。於宿所者。中宮權大夫定申。造宮功者七八人許。

廿四日。丁酉。辰時許晴。午時許罷出。

廿五日。戊戌。承香殿女御參白地。夜內退出云云。轡車云云。舉燭者。六位五位並四人許云云。手車後立女方五六人。

〔以下闕ク〕

三月

一日。癸卯。召善言朝臣。仰可有來四日行幸由。又賜彼日可召女人等名簿。擬文章生等同召也。

三日。乙巳。參內。南殿奉仕御裝束。本御帳一條院渡。立新帳。御帷并壁代。御几帳等。皆以新。殿四面懸御簾。母屋六間四ツ懸壁代。階間立御帳。而四間爲御所。御帳。裝束。如清涼殿。其西南面敷御座二枚。其上御茵。北障子邊立五尺書屏。平六間御帳東邊。立六尺兩面御屏風。爲中宮御在所。西二間北障子邊。立五尺二階〔圖ノ脱カ〕子。入色色絹百五十疋。綾二十。其東立四尺書屏風一雙。南北妻。其東爲御座。西邊立

螺鈿二階。其上御冠宮。御火取。硯宮。紙入宮。鷹入宮等居。其南立御唐匣。御□□等。附北爲如方候所。殿內敷長筵。母屋御簾廻。敷高麗端疊。南廂遣二間。南六間。西間上。御簾當。此間立大床子二脚。從南三間。西二間。敷高麗端疊。爲公卿座。坤高欄邊。敷紫端疊一。爲出居座。高渡殿敷座。泉上又敷座。有脇息深〔注、沉敷〕

四日。丙午。從夜雨下。曉。中宮渡於南殿。辰時御渡給。女方料長物。北廂居御臺。懸之。夜御衣。紅打二重。同色張二重。白張二重。御袴二腰。御直一領。巳時人人參入。上達部陣〔注、饜誤〕座。殿上人饜殿上儲。藏人所饜本所。上官本所。侍從東門內南廊。諸陣所賜長物。奉御膳。沉懸盤六。銀土器。香染打敷。殿上人從南面供之。其後召右大臣。賜家女家子家司爵級。大臣召賴〔通ヲ略ス〕。仰叙從三位由。賴〔通ヲ略ス〕從高渡殿西階下。西廊於中間拜舞。從右近陣方出。於宿所著我衣。家子等奏慶。被免殿上家女。奏云。停賜加階。賜右近少將雅通加階者。被仰云。加階有本意給。雅通別賜之。四位奏慶。次被免殿上。召諸卿御前。依次仰。召文人等。雖雨止。西廊內賜座。以勘解由長官。令召之。參著後。承仰。權中納言〔忠輔〕獻題渡水落花舞。〔頭書ニ文奉賜紙筆。後立殿上。近衛下。內藏司。ト有リ〕奏聞後。聞人付韻字輕。召匡衡朝臣。賜題。仰可獻序由。未獻題前。實成。賴定。未獻御硯紙等。內藏權頭爲義。率殿上五位。硯賜公卿召人。次大納言以下獻獻物。於庭中。右大臣問之。申物名。給膳部。次供脇御膳。是所候。如脇御膳。用銀器。次賜公卿御重。兩三獻後。船樂發音。龍頭鷄首。數曲遊浪上。當御前。笙船奏舞。各二曲。此

間上下文人等獻文。中宮并宮宮御方。獻御膳。中宮懸盤六。有打敷。銀土器。取文臺。講文。講書。序宜作出。仍序者男舉周。被補藏人了。召給伶人公卿祿物。上下諸司。諸衛。皆有此事。次獻御馬十疋。近衛馬寮給也。如駒索儀。次獻御浚物。次行幸。後中宮渡給。東宮又渡枇杷殿給。擬文章生依雨不召。五日。丁未。中宮御方初。內府。上達部十餘人參。盃酒數獻。人人酪酏。有祿物。是御渡御間也。還給間。候御無。我賜直。

七日。己酉。從內女方出。

十一日。癸丑。奉宮有弓事。帥先日負態。

十三日。乙卯。舞人事申障。仍忽召賴宗。顯信等。本是依見苦不召。

十五日。丁巳。戊〔以下脫カ〕

十六日。戊午。臨時祭如常。〔以下讀ミ難シ、誤寫ナラン〕入御馬。行幸貳八疋。前貳馬二疋。是依一疋所入賦。

十七日。己未。從夜雨下。依國忌日不召。又雨下。

十八日。庚申。中宮女方參。

十九日。辛酉。直物。

廿八日。庚午。紹明朝臣文二千卷許獻。

四月

一日。壬申。雨下。女方從內出。
二日。癸酉。時時雨下。著左仗座。定御禊前庭。
四日。乙亥。兼澄朝臣文千余卷獻。
五日。丙子。有播磨守家。朝綱文三千五百卷持來。
七日。戊寅。三位中將文千卷許持來。
八日。己卯。有御灌佛事。布施用紙。大臣五帖。納言四帖。宰相三帖。四位五位二帖。六位一帖。其儀如常。中宮御修〔法ヲ略ス〕於世尊寺并保實寺。初之。僧正并明教。
十一日。壬午。御禊如常出立。右兵〔衛佐二字略カ〕。左兵衛佐等見物。
十四日。乙酉。土御門從東對出立。忠經依物忌輕見物。
十五日。丙戌。從朝雨下。深雨。有官旨。參內。一宮物見。奉女方車。於東陣下御之。
十六日。丁亥。依十三日物忌。參賀茂。時時小雨下。入夜還。有神寶東遊等。同道上達部十一人。大納言。春宮大夫。御座恐申不少。
十七日。戊子。天晴。奉春宮大夫馬。參內。候宿。

十八日。己丑。從內罷出。

十九日。庚寅。勝算僧正。奉仕宮御修法。

廿三日。甲午。雨下。初季讀經。參內。有女二宮御對面事。北二對。東面。上達部。殿上人設饌。奉結袈裟。典侍賜女裝束。加掛。上女方賜絹。乳母典侍三疋。命婦二疋。藏人一疋。

廿五日。丙申。有論議事。五雙。

廿六日。丁酉。讀經結願。來上達部進饌。內季御讀經初。仍參大內。初御讀經如常。

廿七日。戊戌。仁王會事。內府定之。於大極殿。一所百講。來月二日。

廿八日。己亥。有御論議事。依仰參入。七雙。

廿九日。庚子。依物忌不參內。

卅日。辛丑。雨下。

五月

一日。壬寅。朝間天陰。日蝕不正現。
二日。癸卯。天晴。午時參入省院。時刻打鐘初堂。權中納言〔忠輔〕宰相中將兩人。令參內。爲令行南殿事也。事了參內。此內事了。召出初三十講。入夜仁王會。檢校右大將。雖日近具〔此四字誤寫アラン〕。僧感

此由。有悅氣。

四日。乙巳。令奏先日所承臨時讀經不定申由。召於御前。被定僧名下給。召給經通朝臣。廿一日也。從來十日不斷〔經ヲ略ス〕。

五日。丙午。今日依當午日。左右御馬候宿。御覽云云。依御物忌穢候也。

六日。丁未。春宮大夫僧等非時。

九日。庚戌。左兵衛督非時。

十日。辛亥。大内不斷御讀經初。丑時許廣業朝臣來云。爲式部丞定佐。面打破者。奇驚。見所上唇大腫。有斑間。案內文章生定輔云。闇打定佐。被打後打彼。事不具。廣業云云。内間通夜不開云云。令奏御所邊濫由。廣業班之由。又令奏可被召戒也。

十一日。壬子。早朝定輔返來云。通夜御所邊不開。奇御間。廣業有班。仍定佐除籍。

十三日。甲寅。播磨守僧等非時。

廿二日。癸亥。有立義。南京興福寺僧眞範。宜〔宣カ〕天台慶勝下。

廿五日。丙寅。卅講結願。爲院〔源略カ〕僧都講師。其說法神妙。仍事了。諸僧立後。引出馬。諸祿如常。日來間非時十余度。日日上達十余被會。

六月

四日。甲戌。入道中納言被來。

五日。乙亥。從上野國守忠範。卒解文持來。去月廿一日解文。

十三日。癸未。有小除目。任上野守平維衡。有陣行除目。式部丞定佐藏人如舊。宣旨下。民部大輔爲任。從去年三月不參内。無殊病云云。仍被除籍。

十四日。甲申。從山階寺。爲馬允爲賴被打。池邊園領被行。有寺解文。召爲賴間。人云。從山階寺。三千人許僧。行爲賴私宅。燒亡數舍云云。路邊田畠二百余町損云云。聞奇不少。

十六日。丙戌。左衛門尉藤原文行來申。依右衛門督召。參法住寺間。爲帶刀正輔被打。申其愁。忽被止正輔。爲免身難。出彼寺間。騎馬者廿余人。追來射打間。檢非違使等侍申。然依堪難。一兩射答矢。參只隨仰者。先文行賜隨身所。良久檢非違使等。不〔脫字アルカ〕其後云云。文行言。使官等聞云云。文行在家。仰遣先可參由。右衛門志重親來申。文行於法住寺。與正輔口論起事。依別當仰捕之處。射矢罷出而間。別當來。仍賜文行賜官文等。別當示云。徒步付糶可遣者。而命云。無便事。乘馬著衣冠。可遣之。遣政所屋云云。

十八日。戊子。奏事由。遷渡文行左弓場道。官人等。令勘文行罪名。

廿日。庚寅。大和國亂。山階寺僧運聖。催數千僧俗。國內已損解文。

廿二日。壬辰。奏文行罪名。其文云。詔使對。憚無人主禮者云云。官位解却云云。而事起無殊事。仍停現務。被免身。

廿三日。癸巳。中宮御讀經初。

廿四日。甲午。大裏四十口御讀經初。僧參列間。行事上。內府取事由。已講運聖。有大和國。私云。可請他人者。仰其由。追返云云。

廿七日。丁酉。右衛門督。年來出別當辭書。而此度奏必可被納由。可留樣奏聞。月來相示。仍奏事由。此度被留。

廿八日。戊戌。參法興院御入講。

廿九日。己亥。內御讀經結願。左兵衛督蒙別當官旨。實成朝臣仰余。余仰左大辨。卅日。庚子。法興院五卷日參。雨下。

七月

一日。辛丑。雨下。深雨。

二日。壬寅。渡法興院齋食。雨下。召仰史善言朝臣。可有明日定。催申諸卿。

三日。癸卯。午時參內。諸卿參會。申時藏人頭實成。召諸卿。參上殿上。候御前座。其座如除日座。但無大臣圓座。當大臣座。置圓座一枚。是讀勘文宰相座。垂御簾。午時召余。賜諸勘文。被仰云。去年燒亡。次御內侍所神鏡損。可改鑄。令申其由。可左右定申者。召左大辨行成朝臣。令讀勘文。從御簾前。著圓座。賜勘文。大辨對御簾讀之。先紀傳。次明經。次明法。次陰陽道。讀了。書授余。著本座。余仰諸卿云。道道勘申。如此定申者。從下聽。一一定申。內大臣。右大將。尹中納言。權中納言。新中納言。勘解由長官。左大辨等。定申云。非可改鑄。雖不全本形。神代物也。尊之。可奉安置。又其靈。於官司。奉入辛櫃日。放光耀給。是其靈也。余。帥。左衛門督等。申云。諸道勘文云。禮諸神祇。龜占筮吉凶云云。雖難申一定。如勘申。禮請筮。依其告。可被一定歟。仰云。所申非一。又又相定。申云。申非可鑄。人人又非可申云。帥。左衛門督等。尙禮請後可一定申。余申。件事難思。若可奉鑄。以他金可奉鑄。本金有其恐。又以他金奉鑄。本金爲之如何哉。損像與全像二像。御禁中如何付尊名。二像御事猶難思。本像加鑄。請可奉安置歟。定間。從御殿上。北降在庭前。從南殿北階上。行西方。是內侍所方。衆驚恐無極。定了。一一立座。候宿。大和國解官旨下。入下手俗。追補僧等。以運聖可令進。運聖停公請。

四日。甲辰。從內罷出。參東宮。

六日。丙午。入夜賴任來云。明日可有作文事。無殊障候御物忌者。雖有惱所。參入。此曉病煩惱。

七日。丁未。從曉病病。心神非例。仍罷出。作文停云云。有興福寺大眾愁狀。前解文相違。仍返送了。

八日。戊申。從朔日。日夕立。雨甚大也。從今停了。

十日。庚戌。物忌。三位中將。宰相中將等詣。

十一日。辛亥。物忌重。大藏卿被籠。日來心神。尙不有例。召業遠朝臣門外。令兩三祭。其次申云。修了暮。而從明日入專也。此間。可令修。光榮朝臣申云。可初明後日者。

十二日。壬子。定證僧都來云。昨日參上。是依明日寺僧綱已講可參也。運聖愁事也。十五六日間。大眾可參者。無事定間。候門下。并大和守賴親。家邊間。案內可致。惡行者聞之。可不入。答云。若有如然僧故。并寺家上禰僧綱已講等。可致用意。於家邊有如然事時者。何吉事有哉。雖僧綱。難在職賦。可能思量者也。右衛門督。勘解由長官等來。相爲奇。入夜。亥時許。寺僧慶理來云。日來候二品。不知事案內間。寺侍法師等。只今來申云。大眾參上。木幡山大谷云所。二千許參著云云。爲申案內參者。我云。案內具聞了。如僧都云。門邊僧來者。若有惡行者。大德違非可恨。爲身。若有無便事時者。可無事恐。於來如何爲哉。仰外記時棟。明日上達部催申。可有定。

十三日。癸丑。午後雨。右大將。右衛門督。左衛門督。尹中納言。權中納言。勘解由長官。左大辨。大藏卿。左兵衛督。宰相中將來云。寺僧等參上云云。爲奇不少者。余有何事。可有定。參內給。同道參內。定諸道進大星勘文。定申云。道道勘文非一同。又被問不同之由。被御筮下。可有御祈者。仰云。可被行事如何者。定申仁王會并寂勝講。付道道。內外御祈也。仁王會可有。承仰事了。又可奉仕御筮者。又昨廣業朝臣。

賜駿河國守高扶。申延任申文。并官勘文等。先日定諸司封家人物。勘申後。可被免者。其勘文如見。進濟已了。可被免延任者。入省候僧等數多云云。遣官使。可追立官旨下。右府承之。以說孝朝臣。僧等參上無所由。早罷還後。有然事僧綱等。可然。若有如此事。可無便賦。今承。追定澄許示。

十四日。甲寅。通夜雨下。及午時晴。夜部示慶理云。僧等參上事。極奇事也。早還。悔先罪。齊心行後。以三綱僧綱等。申可被恩由。自有用意。如此參上間。更非可有恩。早示可還由。宜賦。慶理早朝來云。夜部仰。夜內仰僧等。少少夜內還者。今朝又罷去。如聞皆還去云云。定澄令申云。得業已上法師等卅餘人許留。推參如何者。仰云。得業僧等無用。只僧綱已講許來宜賦。今又不聞。後日來可吉。從朝召勸學院別當已下。雜色已上。定僧等來可然。爲傳仰也。以右頭中將。明日可有御筮由。又去五日。紫野成惡行。右衛門府物著等。候獄所者。可被免由仰。被免了。衛士等仰賴信令免。左大辨昨定駿河文清書持來。凡如常。僧等還事。衆人奇。以爲我能行。

十五日。天晴。興福寺別當。五師。已講等來。於西廊相合。諸僧等罷還。但爲進申文。參入云云。見其申文。有四箇條。一條云。給官使。國司取申。爲寺家僧。燒亡爲賴定事。并踏損田畠信實。不被行追捕事。二件事。我云。件事被行棟。余申也。故申寺解文後。無定前。致惡行。是如無長者所思也。仍所不致用意也。二條。守賴親停任事。是又極奇事。賴親身無罪。所申無便。三條爲賴又停任云云。是又奇事。爲人燒宅。有愁者也。不罪燒人。被罪愁人。極無便事也。三條之運聖被停公請。可被免由也。件條雖有罪名者也。於申有

何事。有罪者被免事。恒例。雖然入件申文內。仍不能奏聞。若可申。以他申文可奏聞。示此等雜事。每事稱道理之由。還去。不注子細。有衆人聞事。

十六日。丙辰。參內。候宿。

十七日。丁巳。從內罷出。參東宮間。一宮御元服日。光榮勸申云。來廿日。

十九日。己未。參內。著左仗。有相撲召仰事。左近中將賴定。右近中將實成。一度仰之。仁王會事。依大辨不候。不定。內府令奉仕大星御卜。軒廊耳。申時罷出。入夜右頭中將占方等持來。卜凶早〔一字缺ス〕。

廿三日。癸亥。雨下。參內。定仁王會事。依明日物忌罷出。

廿四日。甲子。通夜雨下。

廿六日。丙寅。參內。候宿。

廿七日。丁卯。候內。立法性寺五大堂。辰時上棟。午時遣清通朝臣。令行事。匠等賜祿物。各有差。預事僧等同之。

廿八日。戊辰。相撲御前內所。依御物忌。相撲等罷候。左宰相中將候御前。最手。腋不決。右三位少將候御前。雅〔通ヲ略セルカ〕少將依三位候耳。最手。腋。同左了。退出。頼〔通ヲ略ス〕負方相撲人等賜食。上達十余人。殿上人廿餘人來。

廿九日。己巳。從如方。仁和寺齋送捧物。三位少將。宰相中將。殿上人少少到云云。是如方依忌日五卷日

也。尙侍參內。

卅日。庚午。依物忌候內。昨日。一昨日。依御物忌。有召合。午時御出。未一刻初事。著左仗。右頭中將仰候〔衍カ〕可候御罷內由。又右兵衛佐道雅。仰禁色由。御前參上後。內侍召人。內府陣後昇從馬道。著座。是大失禮也。右府以下。經對南砌參上。一番右勝。是大將所爲歟。但天判持。酉時事了如常。張筵取後。上達部候贊子數。

八月

一日。辛未。候內。未時御出。御覺如常。召右腋。勝思召。左二番重茂。勝岡。當時臂力者也。而左勝了。衆人或感。或憐。召三番。酉時事了。

二日。壬申。曉從內罷出。女方同。午後到東三條。

三日。癸酉。從夜雨下。及巳時。有風氣。

六日。丙子。參內。奉文集抄。扶桑集。小葉子〔小宮ナリ〕。是御手宮料也。晚氣罷出。參東宮。入夜罷出。

七日。丁丑。參法性寺新堂。奉渡丈六五大尊。佛師等賜祿物。僧都引出牛。上達部六七許被座。殿上人廿人許。歸後。東宮〔元服饗事定〕。仰初最勝講。七口。

八日。戊寅。從夜部吹風。雨不下。參內。著右丈。定泰幣事。廿一社。是依天變。并日來大星事也。宣命事

仰內記頼任。從申時雨下。深雨。酉時罷出。依御物忌。不參御前。

十日。庚辰。依物忌不行。

十一日。辛巳。同昨。

十二日。壬午。參內。候宿。

十三日。癸未。參內。八省仁王會。午時打鐘。未時初堂。酉時了。參內。罷出。參八省。雨下。後天晴。遣宮行事參議。今被加一階。經房朝臣。右相撲笠正明。候獄所被免。

十四日。甲申。參東宮。

十五日。乙酉。出東河解除。依無石清水奉幣也。小南讀經。晚景左右衛門督被來會。企作文事。而從內一宮備給云云。仍停止。參內間。雨下。深雨。無殊事御召。罷出。□石清水使方理申障。替惟風。廣田使爲信申忌日由。替內成。廣瀨使遠城。外替忠重。石上使正職。替公則。賀茂次官兼澄。

十六日。丙戌。申剋許參內間。右頭中將來云。有御出。而一日承可執申由。未申事由。若令參給哉者。未承案內。只今宿衣參間。爲之如何。令持裝束。右府參候云云。示送解文可奏由。御出。有可候御簾內仰。即參上。此間日入。內侍召出居。上達部參上。內侍召上卿。可取版位。將監不候。召間良久。從此度如常。無牽分。

十七日。丁亥。一宮竇相撲。左右頭中將。左右諸司。頭。佐。各相分。於中宮御在所。南面可有。而爲女一

二宮覽。忽成北面。主上御中宮御方。未時初立合。各二人。相撲長三人著葛衣。一番左勝。凡右勝。小ノ七最手。右勝。初間雨下。即明開對北兩渡。二間長押上中間。敷御座二枚。茵等。下一行敷上達部座。左奏綱定朝臣令持。兼時出從相撲屋。渡御前。至東妻上。從上達部座。未就御座間。御簾下。付如方奉之。返給。右實成朝臣同之。相撲屋北屋。從中分。西爲左。東方爲右。屋上覆平張。彼屋前。并東間內立榜。

十九日。己丑。臨時立奉幣。於八省院。廿一社。午時參奏清書間。雨下雷鳴。於戌時渡。小雨。不用祈罌。〔二字讀ミ如シ、姑ク斯ク定ム〕儀。有基手。〔乎カ〕

廿日。庚寅。有小變。

廿一日。辛卯。有小變。

廿二日。從午時許。大雨下。雲雷有聲高事終日。時時雨下。入夜參內。即退出。

廿三日。從朝雨下。未時以後雨止。一日童相撲十五番。即南東西立屏榜。爲相撲屋。立合相撲等各二人。一番右勝。小數三。最手左勝。勝負樂先左。是依最手勝也。次右本方人。又不入。殿上人。四位。次第相分。來上達部十四。所事與無極。左右兵衛佐等。進交名。

廿四日。甲午。時時雨下。參入大內。退出。

廿五日。乙未。雨下。

廿六日。丙申。右頭中將來仰云。依大星事。申可有免者由。而未被行。今日可行者。申承由。召別當。被成

勘文。被免云云。著飲者九人。(六年者。三年者。遣二年。遣一年。)未斷者九人。
廿七日。丁酉。被仰左衛門督。可立山雨使之由。
廿八日。戊戌。天晴。從小南渡此。參內。候宿。
廿九日。己亥。候御前間。被仰云。昔大臣家行幸垣事。而汝家有馬場。有幸馳御馬覺如何。申云。只可隨仰者。退出。

九月

一日。庚子。雨下。以右頭中將實成。被仰。可有競馬事。定日仰一定者。內內召光榮。廿八日許吉日云云。出東河波。
三日。壬寅。右衛門督。左衛門督。左大辨等。作行幸式。參內。候宿。被仰云。行幸日。可聞參東宮給由者。啓事由。可參給者。宮御氣色極宜。有悅氣。
四日。癸卯。渡一條。從內。
五日。甲辰。所所初修理。破馬出垣。
七日。丙午。歸土御門。
八日。丁未。中宮御出土御門。其儀如常。一宮同之。

十四日。癸丑。有除書。右近衛將曹多武文。任左近將監。美濃椽崇丘高兼將曹。是等任競馬者等也。
廿一日。庚申。天晴。依行幸。御裝束寢殿。(上御)在所。南御簾五間。當階間。立御椅子。廂寶子等。數長筵。西對東宮御在所。南母屋一間。南四間。立迴御屏風。敷錦端御疊二枚。地敷二枚茵等。西廊。中門。北廊。王卿座。其西廊。殿上人座。其北渡殿。東宮殿上人座。
廿二日。辛酉。卯一刻參內。有雨氣。上卿皆參入。同二刻乘輿出宮。著東院東大路間。雨下。右近中將實成。仰笠官旨。入於西門。著寢殿給。此後雨止。東宮參給。貫御馬十疋。左六。右四。給之。此後又雨下。待雨間。御馬場殿。腰輿。此船樂蘇芳非。駒形舞在。庭中樂在。私御馬場。自埒東西下。南著馬場殿間。三的下群立。次東宮。經東西廊。并堂寶子。中島等。馬場殿後廊。著御在所給。召上卿間。雨下。內侍臨南階。左近中將賴定告此由。王卿不著帳下。依深雨。立西廊馬道。余參上著座。次皇太子參上給。次王卿參上。自余事如式。勅使馬出。左中辨道方朝臣。少納言朝任馬駐標下。兵庫頭關供膳。宰相中將經房。東宮右近中將實成。六番了。入夜。不馳遺御馬馬。射出馬等同停之。戌時御寢殿。東宮渡西對給。以賴定朝臣召余。次召王卿。次以實成朝臣。東宮可參上給。有御消息。即參上給。供御膳。置物机二。懸盤四脚有云云。右衛門督陪膳。東宮御膳實成朝臣。銀口高坏二脚。折敷。賜王卿膳。次召伶人。御遊數曲。此間雨止。次諸司。諸衛。女官。賜祿物。次王卿。納言已上。女裝束。參議綾掛。袴。殿上人四位白掛。一重袴一具。五位白掛一重。六位童袴。此間召大臣御座下。有賴(通ヲ略ス)給一階之官旨。賴(通ヲ略ス)出於中庭拜

舞。獻送物。箏御琴春宮大夫。琵琶右衛門督。和琴源中納言。御入。東宮立給。御西對。御送物篋笛等也。左衛門督。權中納言取之。乘輿出西門。中宮大夫承令旨。仰啓陣可令入東宮御車由。而東宮於門外立御車云。東宮殿上人。帶刀等。賜祿。女方典侍。御乳母。女裝束。絹八疋。內侍綾掛。袴。絹五疋。命婦白掛一重。袴。絹四疋。女藏人白掛一重。絹三疋。自余女官等各有差。

廿三日。壬戌。參內。著左仗。依昨恐也。

廿六日。乙丑。著左仗。定季御讀經事。來月四日。令申不堪申文。

廿八日。丁卯。中宮參內。上達部諸陣有祿。女官賜絹布等。□亥時一宮同之。

十月

一日。庚午。天晴。午二刻參內。未一刻御南殿。諸卿遲參。仍遲也。有官奏。無庭立奏。有樂。監物寮開門。右近將曹。率黃衣近衛四人。開門。尤違例也。閉門褙衣近衛二人。可有一人也。戌時事了。候宿。二日。辛未。著左仗。補御讀經辨請。被任備後守。令申〔注、文獻〕卅枚許下。遇上間。六七枚許上內。例上申文少。是所留敷。余云。例上申文少。內枚數甚多。舊更三人許切去。一人許亦可上內。返若數多內。無例物。申文無奏之。有事問者何奏哉。又申文四枚上爲議。(任中檢公文)政職(年來舉上者)。兼澄(其任久者)而內府止兼澄。入兼忠。即以奏聞。被仰云。去七月上野關時無奏。申其人。孝通。兼澄。兼業云云。

右大將以下。民部卿。右衛門督。源中納言。權中納言。新中納言。勘解由長官。左大辨。宰相中將等申。孝道申文。爲義任中濟公事由文章也。候殿上。被申奏狀內。不申上野。仍入爲義。兼澄。申文進上。兼業有城外。聞不進云。內府任中兼。參入申文。兼澄止申文云。有召參御前。治國者數年。上達部入學。被任政職。返下。奏清書。付右衛門督。退出。番奏左近少將重尹五位。右近少將雅通四位。而此度又立府次。以此可爲善歟。前度右近少將上立。兩度相違爲奇。

三日。壬申。故宇親牛五頭引。帥被來間。奉一頭。右衛門督來取一頭。

四日。癸酉。御讀經初。午二刻參。未三刻事初。前度作宮國國申間。度物以新中納言令充。依爲後時宰相也。

五日。甲戌。渡東三條。見作事。次入道中納言被來。入夜歸。亥時許。未申方火見。冷泉院御在所南院。馳入東三條。御西門召。東對御裝束御座。夜深還出。華山院參給。諸□〔卿力〕皆以參入。

六日。乙亥。參冷泉院并內。

九日。戊寅。寅時許。從內輔時來云。有中宮御惱者。召參入。參著後。無殊事御座。不退出候。御覽唐物了。退出。右頭中將仰云。可有掌侍除目。源平子退辭。替可補藤原淑子云。可仰他上卿者。權中納言仰之。十日。己卯。行法性寺。見造佛。覺圓寺座〔主脫力〕等阿闍梨宣旨下。

十一日。庚辰。物忌。辰時許。門外藏人定輔來云。只今御前山鷄入來。滿口丸定輔射得之。仰云。召陰陽師

等。可合占云。借成方朝臣宅。可令冷泉院御座。垣造作事等初行。奉爲一條。夜御讀經初。又女方初百日修善。

十三日。壬午。到成方家。見之。

十六日。乙酉。弓場始。被定臨時祭事。前勝權中納言。射取懸物。加中宮事。退出。通夜殿上人於中宮御方有酒事云。及曉有被物事。

十七日。丙戌。殿上人。立宮御方。行大井云云。參內。宿候。

十八日。丁亥。從內罷出。

十九日。戊子。參內。著左仗座。東宮宮御元服料絹獻。定万僧供事。

廿日。己丑。參內。著左仗座。唐人令文酒及蘇木茶院〔堀力〕等持來。五臣注文選文集等持來。冷泉院御方遣。御少南。

廿一日。庚寅。從公家。被渡種種物。絹二百疋。調布五百端。鐵三百。香木（白五十、黑百五十）。亥時渡成方家給。

廿四日。癸巳。到法性寺。見造作佛。

廿五日。甲午。寅時行法性寺。卯時奉佛開眼。誦誦信布万端〔百力〕。僧都綾掛一重。佛師等賜祿物。并預寺等。奉宮大夫堂供養。上達部五六人許來。退出。參內。大夫諸僧等賜度者。使紹親朝臣。從寺。上達部

參。未時大裏寂勝講初。入夜了。大夫修誦誦。二百端。自堂定五僧。前大僧正。顯修寺座主。院源律師。慶命。兼掾。實誓。

廿六日。乙未。從中宮。賜殿上食物。

廿八日。丁酉。於法恩院。修万燈會。堂中並庭雜事等。勝例年。有樂。丑時許了。請僧。僧綱十三人。几僧四十人。已上有布施。用絹。各有差。池東見物如斗數百來。

廿九日。戊戌。御講結願。賜僧等祿物。各有差。

十一月

四日。癸卯。堂五僧來云慶。大僧正綾掛一重。院源。慶命。白掛一重。兼掾。實誓。單重一領。

八日。丁未。春日使中將實成。舞人下重并疋絹料絹廿疋。及之。立神馬使。伊賀守有家。

十日。己酉。梅宮立神馬使。行眞。

十三日。壬子。大原野立使。公讓。

十四日。癸丑。五節參一條院。以東對爲舞殿。東西對爲五節宿所。舞殿融。依別樣。行事式部丞定佐勘當。忽依部遺戶別樣。以御讓。懸舞殿三面。月蝕無違事。

十五日。甲寅。六位等依美服。有勘當。

十七日。丙辰。依御物忌。不御出。未時依達〔上達部ノ略カ〕出。申時引別。

十八日。丁巳。參法性寺。

十九日。戊午。參內。

廿日。己未。臨時祭試樂。

廿一日。庚申。從子時許雨下。甚雨。午後雨止。參內候宿。

廿二日。辛酉。臨時祭如常。午時初事。申時使立。爲見物。還參。依御神樂舞人等還來。儲食物。事了退出。

廿三日。壬戌。兩三上卿達來。作絕句。

廿四日。癸亥。到東三條。

廿五日。甲子。雨下。參內。著右仗。令勘申還宮日時。來月廿六日亥時。可奉官奏。而大辨遲參。仍止了。退出。

廿六日。乙丑。上表。以顯信爲使。入夜以左近少將重尹返給。拜舞如常。右頭中將來。仰云。從廿八日。可有除目書。明明兩日御物忌也。可簡候者。奏云。此度簡可被行由奏聞。

廿七日。丙寅。頭中將來。仰云。明日除書。尙可奉仕。他人可無便者。奏云。奉仕除目後十二箇年。未申除。而此度上表後即奉仕。有憚。即被仰云。尙奉仕者。申可參由。欲參間。圖忌日也。上表後參內。可無

便。可忌由。人人云。間光榮朝臣處。可重忌由。仍以三位少將。奏此由。被免了。召右府。云依深更不參。云云。

廿九日。戊辰。依僧正云。書大品般若外題。

十二月

三日。辛未。於山階寺。南京分万僧供。使惟憲朝臣。又於春日御社。以六十口僧。令修大般若讀經。女一宮參廣隆寺給。以慶圓僧都御修善。

九日。癸酉。教通。能信等元服。用酉時。加冠右府。春宮大夫。理髮額定。公信等也。右府從今朝。從春宮給御二疋。塩文帶。平臈長劍等也。(女裝束。織物。掛。打掛。)春宮大夫馬一疋。鷹一班。女裝束。織物。納言女裝束。參議并三位綾掛。袴。額定女裝束。公信綾掛。袴。殿上人各有差。賜教通正五位下。能信賜從五位上。使實成朝臣。召仰右府。右府召內記額任仰之。實成綾掛。袴。額〔通ヲ略ス〕取之。令參二人冠者。參內。被免教通昇殿。東宮同之。

七日。乙亥。參大內。著左仗座。令申糧文。奉仕官奏。去年不堪佃。并諸國文十二枚。奏如常。史博愛仰奏報了。後不申定文。雖未仰不申之。依大辨仰申。有鑿。賜結緒。是前例也。候宿。

八日。丙子。宿所奏報持來。史不書名。返給。不覺也。昨日今日兩度。從內退出。定大鑿事。并法性寺堂供

養事。參廣隆寺。入夜還來。

九日。丁丑。召大外記善言朝臣。可有明日定。仰可申催上達部由。

十日。戊寅。著右丈。諸卿參入。定去年不堪文。并諸國申文三枚。申時有犬產事者。不參左衛門督。大藏卿等。明日神事可著戒仰。

十四日。壬午。參東宮。

十五日。癸未。除書召。仰即參。有從今日造宮。依御讀經。給南殿六十口。清涼殿十口。飛香舍十口。中宮御在所。□□舍。東宮御在所。了。參內。被初除目讀。入夜如常。陣座變并置宮文。事了退出。秋季讀經初。不參以前。

十六日。甲申。參內。著陣座。除目讀如常。事了。有僧綱召。權少僧都明賢。權律師林懷。權少僧都源信。停任。

十七日。乙酉。參內。令申教通。能信等待從慶。著右丈。令申文。次官奏。入夜。是依洗御髮也。右衛門督賜召名。中宮權大夫。宰相中將。立山陵使。造宮事由耳。

十八日。丙戌。行法性寺。入夜歸。讀經結。夜結願。

十九日。丁亥。參慈德寺。御入講初時。雪下。事了。參內御佛名。候宿。

廿日。戊子。御佛名後夜。後退出。

廿二日。庚寅。參慈德寺。故院御願千裂裂。此度繕了由。令申佛。事了。退出間。小雨下。會〔參力〕法興院不斷念佛發願。

廿三日。辛卯。公家荷前。

廿四日。壬辰。參法性寺堂裝束初。早朝參內。

廿五日。癸巳。到法性寺。

廿六日。甲午。法性寺丈六五大堂供養。雜事有定文。貳文等。右大臣。內大臣。前帥等被參。參法□□〔性寺二字略力〕同被來。無來人式部大輔一人耳。賜度者使。藏人頭右近中將實成。仰導師內藏御讀誦使。右近中將公臣。冷泉院使。右兵衛督顯定。皇太后宮使。左京大夫長經。中宮使。左近中將賴親。春宮使。右近少將濟政。(四位)已上使等。合掛。一重袴等。一品宮無使。來上達部等皆有讀誦。事了。各退歸。自留經讀。結願。又大般若不斷經初。僧九口。等身五妹造初。以前大僧正。於堂前修不動法。番僧十五口。宿堂。

廿七日。乙未。出從寺。參內。中宮御佛名。有讀奏。從內參寺。

廿八日。丙申。早朝從寺出。入夜到寺。

廿九日。丁酉。從寺參內。可有造宮叙位者。而先定唯可賜位記者。而被尋前例處者。永觀例如此。此例不宣。以後日。召仰諸司。如節會可被行者。又有仰可申定。權大僧都濟信。申辭東〔注、大賦〕寺別當。替可然人者。諸卿定申云。律師澄心。清秀等間。重被仰云。一人可申者。右大臣。內大臣。尹中納言。右

兵衛督。勘解由長官。左大辨等。舉申清秀。帥。中宮權大夫。權中納言。宰相中將。舉申澄心。余申兩人各給。可然者。人人申以能治可被任者。又以常住人可被任者。尤道理歟。召兩使。而件兩人有奉仕寺。遣使定不後可被任歟。即被仰云。隨申可遣使者。彼等奉仕寺寺。可申注由。仰廣案了。右大辨說孝。經去年十二月。依未得解由。不參內。依須放還。有仰。隨事大辨。一年內不隨事。希有事也。卅日。戊戌。右大辨說孝。賜院學文科。官旨藤原雅任。

寬弘四年

〔注、御堂關白道長公記 于時左大臣〕

正月

一日。己亥。天地四方拜如常。拜禮上達部九人。諸大夫百余人。參內。無御出。小朝拜。右府裏〔注、讓〕內辨。退出。

二日。庚子。上達部來。拜禮如常。事了。參內間。中門下。右大將御前。興光朝臣賜衣。參中宮御方。有數巡。可然上達部有和歌事。退出。參御前。奏可不有奉仕叙位儀申。尙有可候仰。

三日。辛丑。冷泉院有拜禮。可然人人被免昇殿。參內。叙位中加階人事被仰。次仰云。不參可停叙位者。奏云。叙位留事。爲道□無便事侍。依可慎。參不□二字倒置力□停□停力□侍。省定人愁侍歟。返恐可侍。雖不參。必可被行者。若不然。極可無便。奏仍可被行者。退出間。以廣業朝臣。被仰可被件叙位之由。奏云。四日重物忌也。非可參。他人承行。尤可宜。右府被行。右府申云。叙位可被停者也。一人不參時。例奏云云。以此由被仰。即奏云。又又可被尙申所歟。重申隨由。可被仰內府。可被行者。此度申可參由者。女方有惱氣。四日。壬寅。固物忌簡居。女方有惱氣。人人來門外。加階事云。於不參叙位。仍只可奏由。示之。五日。癸卯。物忌固。從昨酉時許。女方重腦〔惱〕。是依產事也。卯時生女子。巳時切臍緒。付乳□□。亥

時許有燒亡。右衛門督家也。(中御門)一物不取出云云。出從叙位。無宿衣。衣。束帶尙有云云。仍宿衣一具。及掛。置絹。拔合袴等也。

六日。甲辰。未時初沐浴。弦打十人立庭前。叙位議云云。右府奉仕云云。右衛門督不合由云云。仍絹三十疋。米百石。及〔以下闕〕

七日。乙巳。有變。產婦前物濟政〔政ノ行〕。

八日。丙午。從能通朝臣許。申云。從右府。家人數多來。濫行者。其後從內。藏人具光。來云。右大臣申。催封物文。能通朝臣家被打。賜使官人。令日記者。早可遣由奏聞云云。

九日。丁未。產婦前物。右中辨道方。上達部五六許被來。早朝能通朝臣申云。夜部左衛門志如春。依官旨。事記了。而只今右大〔一字蝕ス、臣力〕家雜數十人來。切家。爲之如何者。以隨身右近衛正親。令見處。返來申云。能通良〔郎ノ略〕等佐時。家切了。今能通家欲切者。驚奏事由。并遣右衛門尉雅弘。爲時等。仰云。下手人必擲可來由者。左頭中將還來云。遣使官人令擲者。雅弘等還來。進日記。并下手人三人擲來。彼家雜色長二人。出納一人也。令奏此由。下手人賜獄所。彼家家司大藏大輔內成。中務丞信國。大膳進廣遠等。召應可問者。

十一日。己酉。未時著初衣。從中宮賜御使大進泰通。衣宮二合。一合入白織物衣。綾襦袢〔此字半蝕ス〕。一合入綾衣。絹襦袢。絹百。入赤漆唐櫃一合。產婦前物。上達部。殿上人。諸大夫。隨身所變。女方突

重。屯物廿具。不來上達。右大將。民部卿。尹中納言。左衛門督。式部大輔等也。自餘被來。西對面而忽駭座。宰相中將產婦前物。是從本所設也。立明近衛卅八人。賜疋絹。宮御使泰通女裝束。付事采屬四人疋絹。今夜事尤後無便。又從宮有如此事。希有事也。還又面目。未有立家給皇后。爲母有此事。百年以後所不聞事也。所所人是老後立后歟。

十二日。庚戌。門外廣業朝臣來云。仰事。可行女叙位。又補藏人。何日許可奏者。日來依觸繼籠居。今明物忌。明日可參女叙事奉仕。叙位右大臣可奉仕也。藏人事。隨仰可補申者。即被仰云。女叙位。右大臣可奉仕也。而家人依濫行事。可無便。早奉仕者。隨仰。可奉仕由。奏聞了。作中宮御返。付廣業申了。廣業朝臣又來云。明日宜日也。參可奉仕者。可參由奏聞了。

十三日。辛亥。以廣業朝臣。令奏云。女叙位可奉仕事。下臈奉仕叙位道。奉仕女叙位事如何。尙可左右大臣者。仰云。今日可補藏人。女叙位可仰他人者。未時參內。被補藏人右兵衛佐道雅了。雖若年。故關白鐘愛孫也。仍被補也云。兵部丞庶政。惟規等也。衣置所雜色。非藏人等被補。件人事。當時所候藏人年若。又可任非藏人。雜色等年少。仍件兩人。頗年長。藏人宜者也。仍所補致耳。任後。人不知賢愚。

十四日。壬子。物忌重。定可參春日雜事。來三月三日。光榮可勘。召善言朝臣門外。仰可令勘。可初改日之由。內論議。無御出云云。依御物忌。

十五日。癸丑。午小雨。雪下。去夜子時許。播磨守陳政朝臣。辭國申文來。定輔朝臣依病也。善言朝臣可初

改日勘文持來。十九。廿日許。可初十九日由。

十六日。甲寅。參內。御出南。申時引列。自余如常。事了退出。

十七日。乙卯。從夜部、腦〔惱〕咳病。今朝難堪。左頭中將仰云。廿日可有造宮叙位者。

十八日。丙辰。賭弓。依咳病不參。三度云云。一度者〔右力〕勝。二三度左勝云云。不參右大將。

十九日。丁巳。新藏人一人初奏文。召善言。明日仰可有叙位。四造宮賞。道雅申文不奏。文奏可奏。光榮先日所勘。可參春日日不宜。仍令勘改。三月廿日改事初。

廿日。戊午。參大內。著左仗座。有召參上。召硯等。有叙位事。隨仰書了。入宮奏聞。退下奏宣命草。次參入眼。如常。內辨讓內府。候御前間。被仰云。女一宮。依前例。叙一品。并本封之外加千戶。任人賜爵事如何。奏有前例。被行何事奏。仰云。其□□行者。召外記。尋前□〔例力〕。天曆八年見。日記具見。仍申行。勅書大內記宣讓作之。奏草清書等。清書無御廳日。仍返奏。後給中務少輔孝明裝束一具。給則忠四位表衣。宰相中將則忠加車〔單力〕。中宮權大夫可叙二位。而右□〔兵力〕衛督叙三位。爲三人下鷹。爲奇不少。未事了前退出。依不心地宜也。子時。

勅。周天之雲遍覆。何殊穆親。洪水之波遙融。猶憶叙侯〔此二字衍力〕。二品脩子內親王者。朕之長女也。長宮之月早隱。已爲偏雲。中殿之風漸養。自有穠季。天性之器。一時難絕。是以立權制。更覺龍〔二字衍力〕氣。叙一品。准三宮。本封之外。加以千戶文。任人賜爵。皆由先規。布告遐邇。俾知朕意。卽志施行。

寬弘四年正月 御廳 廿日

勅雲文。如此藏。 早仰。

廿一日。己未。光榮朝臣來。先日勘申。可參春日日等不宜。可用他日者。召吉平問。兩人所申。云春間無宜日者。人人未申慶。依忌日。令唯致見參。

廿二日。庚申。左頭中將門外來云。仰女叙位非可參者。若不參。不行如何。奏云。召他上可行也。有否可隨仰。加賀守兼親卒由告來云云。

廿三日。辛酉。帥許示送。今日可奏一品宮御慶由。昨日聞。而今夜夢想不宜。物忌。由又有此事。早參行。可被奏。他人催。自未歟。左頭中將來云。仰云。女叙位品。行除目。何日許可行者。奏云。廿六日宜侍歟。廿七日小裏日也。但有勞所。參事不定也。先日奏此旨了。可被仰次次人者也。

廿四日。壬戌。物忌重。召大外記善言。賜去十二月京官。召公卿給。

廿五日。癸亥。物忌重。人人進申文。

廿六日。甲子。左頭中將仰云。早可參者。有除。非可參由奏。先之而依雲召。非可申左右。然上年。以他可被行。重問。又被仰云。若不參。今日非可行除目。先尙可參者也者。從宿所方。宿大〔注、衣賦〕參入。仰云。不奉仕。可行二月賦。奏今明身指除不侍。雖被改日。今年可被免由奏。重仰云。奏聞雖可然。若不奉仕。極可無便。尙行之者。仰已數度。仍可奉仕由奏聞。下宿所。賴定持直來。可有召位〔注、仰賦〕者。仰

左中辨道方。大外記善言等。參殿上。見參人。氏上達部。殿上人等奏。一品宮內親王奏慶賀由。後著陣。依召參御前。儀如常。參上。即供御殿油。起時事初。申四刻。
廿七日。乙丑。早朝參上。可然事等被仰。申時儀初。酉時分。
廿八日。丙寅。著仗座。依召。仰外記。令候宮。如常。外記參入。取宮。當時陣棟笏清忠冠落地。衆人開口。申時事初。丑時分。賜內記所酒肴。仰清書上。以能通朝臣任藏權頭。
廿九日。丁卯。源中納言來云。按察可兼右大將。大間落。奏聞可被入者也。有掌侍召。以藤香〔或ハ秀カ〕子。可被任者。參東宮。啓權大夫慶由。此日雨下。

二月

二日。己巳。月來有所憚。不立宗形神馬。今日奉之。春宮權大夫。初見官文書。於殿□〔上カ〕見之云云。少將兵衛佐可著陣。令勘日時。來廿六日午日者。
三日。庚午。雨下。左頭中將來云。明日兵衛尉使賴親。申代官者。以右馬助孝義。仰之者。
四日。辛未。雨下。早朝小南立神馬使。入夜還。使信經朝臣。召吉平朝臣。可參春日日令勘。來廿九日者。是停供養經如常。可參也。
五日。壬午。物忌固。雨下。法性寺五大尊法。第五番明教前僧都。結願。

七日。甲戌。參內。候宿。

八日。乙亥。從內退出。到東三條。還來。教通。能信等。舞初。以兼時爲師。給疋見。

九日。丙子。參內。著左仗。十二日圓融院御國忌。而彼日常大原野。令申前例所。大外記善言申云。先年當國闕神祭。無被行共者。以此由旨。奏聞。仰云。彼祭不立使。諸司所奉仕也。大原野祭使立。相並行可無便。上達部定申云。右大將。權中納言。中宮權大夫。勘解由長官。左大辨。左兵衛督。宰相中將等。定申云。先例神事。而國忌相合。內被延祭。常事也。件日雖不被置國忌。御前僧參被行佛事。依例後卯日。被行祭宜敷者。以此旨奏聞。仰云。如定申。以後日可行者。召善言。仰後卯日可行由。官掌仰。左大辨有召。御前參上。所之別當先申。又被補殿上。右中辨經通。左兵衛佐伊成。侍從能信等也。定文等奏聞。返給。隨身出殿上。殿上定文。下藏人頭賴定。所之別當定申文。下右少辨廣業者。陣座定祈年殿。御幣使。奏聞。日時十七日。事了還出。右大將命云。請印香島使官府者。早可行由。不了還出。後能信令參。付內藏頭。
十日。丁丑。省試文奏云云。

十一日。戊寅。大和守賴親。參春日還間。興福□〔寺ヲ略セルカ〕垣邊。以石折〔打カ〕之云云。件事昨日云云。有方忌。不參內。明日御物忌。

十二日。己卯。頭風發。仍不參圓融院。

十三日。庚辰。參大內。還出後。召右兵衛府官人以下。賜饗祿等。是依教通任佐也。官人等有圓頭事。

十四日。辛巳。參入大內。召式部大甫。落第文十三枚。加三枚下給。不通者等文也。津方規十上者。巨勢文任能仰。藤原高延文。殊無瑕瑾。著右仗。定仁王會事。於大極殿百講。

十五日。壬午。物忌固。召宣義朝臣。仰可作奉幣宣命由。祈年殿。入夜渡堂。集讀經僧等。修儀法。袈裟非時料。供僧三十余人。

十六日。癸未。物忌固。宣義朝臣宣命草持來。仰明日可作由。返給。

十七日。甲申。午時三刻參內。奏宣命草。次奏清書文。上達部。左兵衛督。宰相中將等。相無。未三刻著入省院。立使等。宰相中將。松尾。平野相兼。大和三人也。各相兼。申二刻。勘申時刻事。退出。參東宮。即出。亥時許雨下。

十八日。乙酉。雨下。

廿日。丁亥。參內。候宿。

廿一日。戊子。從內還出。到東三條還。入夜與女房又渡。

廿二日。己巳。從東三條還來。

廿三日。參內。定季御讀經事。來月十四日由。所充文。午後雨下。夕晚罷出。參東宮。退出。

廿四日。辛卯。早朝渡小南。未時立大原野神馬使國經。入夜歸來。

廿五日。壬辰。固物忌。

廿六日。癸巳。固物忌。

廿七日。甲午。南風。雨氣甚。亥時許小小下。

廿八日。乙未。雨氣盛。巳時人人來會。出立有遊。求子□。同遊東。上達部。東宮傳。右大將。右衛門督。左衛門督。源中納言。尹中納言。勘解由長官。左大辨。左兵衛□。大藏卿。修理大夫。春宮權大夫。三位中將。源三位。留人。傅。右大將。尹中納言。勘解由長官。々々々々可共來。不合淫云云。就宇智。有變。國司。申時立。木津程雨小少下。不及取笠。亥□〔時力〕就佐保殿。有變。上達部。殿上人就之。其後又雨小下如初。

廿九日。丙申。雨氣晴。返雲時時雨下。辰時許有雷電聲。四五許。雪下。未時參社頭。此間雨小下。或取笠。或不取。社頭就問。天氣晴。日脚晴。就御幣殿。後昇御棚。上達部。殿上人。奉神寶。氏殿上人。四位等。讀祝文。知章朝臣奉幣。返就座。神馬十列廻後。神馬四疋。永以奉獻。其後東遊如常。次神樂。次進膳。人長兼時。人人被物。纏頭。通夜事了。

卅日。丁酉。早朝就馬場殿。饅餛如常。賜祿四位五位。并卅人纏頭。舞童賜祿。殿上人纏頭事。□程馬引出。別當僧□〔都ヲ略セルカ〕二疋。□〔僧ヲ略セルカ〕綱三人。觀昭。林懷。扶公等。各一疋。例被物外。樂人等賜。召上座時算。賜初。事了。就佐保殿。即立。就木津間。小雨下。其後天氣。就有變。舞人。陪從。辨。少納言等。賜祿物。右衛門督。左衛門督。馬二疋引出。源中納言前立入車。入夜就京。

三月

一日。戊戌。小男。無〔右力〕近衛府者等賜被物。
二日。己亥。參內。即退出。
三日。庚子。有曲水會。東渡。〔取板。院東西立草壁。硯臺等。東對。南唐廂。上達部。殿上人座。南於下廊。文人座。辰時許大雨下。水蒙撤座。其後風雨烈。廊下座。雨入。仍對內儲座間。上達部被來。就座。新中納言。式部大輔兩人。出頭詩。式部大輔。出目〔向力〕流。汎〔泛力〕酒用之。申時洋天氣晴。水邊七〔注、立敷〕一座。下上居、羽觸順流移。唐家儀。衆感懷。入夜昇上。右衛門督。左衛門督。源中納言。新中納言。勘解由長官。左大辨。式部大輔。源三位。殿上。地下。文人廿二人。
四日。辛巳。文成。就流邊清書。立流下。立廻草壁。就講詩。池南。廊樂所。數曲有聲。昨日舞人。著重衣。今朝位袍。講書之間被物。納言直。指貫。宰相直。殿上人或絹掛。或白掛。五位單重。殿上六位袴。自餘疋絹。序匡衛朝臣。講師以言。
五日。壬寅。入夜右衛門督來云。故共政後家乍死去。仍明日仁王會事行。不能奉仕者。
六日。癸卯。從昨日惱目。不參仁王會。先日所下給。東大寺別當望申僧等。有所勞不參間。奏可給他上由。進上。

七日。甲辰。試樂。參入。目頗宜。舞人一人不參。陪從所候八人。新一品宮定雜事。
八日。乙巳。女方祓。入夜參內。候宿。
九日。丙午。臨時祭定。依下辨。當國忌也。御物忌也。上達五六人許候宿。使業遠朝臣。令儲食物。召宿所。人人來。御祓已時來。使立末時。如常。見物左衛門督。源中納言同車。子四人爲舞人。近代所不見也。傳聞九條殿六人舞云云。事了。參東宮。
十日。丁未。見物有。左衛門督同車。南院見垣。
十一日。戊申。著右仗。補闕請。子男共共。近衛府者等賜被物。
十二日。己酉。時時小雨下。參東宮。大藏卿。弓負態奉仕。
十四日。辛亥。季御讀經初。物忌不參。右府事行云云。朝宗祭使雜事定。又自可參賀茂事。入夜業遠朝臣來云。東宮仰。以傳令知廳事令旨下者。
十五日。壬子。依立小南屋。渡一條。參內。無候宿、有方忌。出了。女方同之。從一條還來。
十六日。癸丑。南大門扉。加修理。見曆。伏龍在門者。仍召奉平。令解除。
十七日。甲寅。故飯室僧正謚號慶門。從僧綱諸僧等來。其次云。賀表奏儀式如何。示云。參陣外。案上置賀表宮〔宮力〕。〔加花足〕不〔衍力〕裏物來。付近衛佐。奏聞宜敷。一人所所可授也。是不知僧所准上達部賀表也。僧使出後。參內。御讀經結願。一品宮准三宮勅當。未改奏。依無一定也。上達部定云。中務省進太政

官。返勅書。光日諸卿所署。可彼絶〔施力〕所者。彼省付内侍。可復奏。即返給。進太政官。可成官府如令條。御讀經結願了。候前後。令申卷數。候宿。□來僧綱。大僧都覺運。少僧都院源。律師尋光。如源。内供。阿闍梨。有其數。僧綱等合相。几僧尋空。尋圓。道命等。有前來。

十八日。乙卯。從内出。參東宮。

十九日。丙辰。觀音僧正鑑號（智辨）賀門。從僧等來。前大僧正。續僧□〔正ヲ略セルカ〕。稽算大僧都。明瞭小僧都。權律師觀助。有阿闍梨内供其數。几僧。大威儀延源。阿闍梨慶祚等。召前奏賀表。儀式如前。組表宮。青色薄物裏也。爲問。大僧正參行。長谷僧正出來云。奇思不少。命云。雖有惱氣。今日相扶參入。是夜。前帥思有。此度仍所參也。云云。僧等從内出後。僧正致宿房。千源阿闍梨來。八十九云云。問古事。以絹五疋授之。

廿日。丁巳。雨下。從去三日後。不雨下。深雨。東宮先日奉仕弓負態。依雨不弓射。入夜出間。雨甚盛。左衛門督、源中納言。共來作文。題林花落觀丹風。

廿一日。戊午。雨下。巳時講文。勘解由長官。右大辨等來。出文。

廿二日。己未。參内。有作文事。候宿。

廿三日。庚申。有御庚申事。作文。

廿四日。辛酉。從内罷出。亥時許。有未申方火。問案内。東宮傳大炊御門家。心地不宜。内依物忌。不問自。

廿五日。壬戌。傳許。絹五十疋及。又自行一條。夜部不到之事由。

廿八日。乙丑。參内。著右仗。右大臣。東大寺別當。即被任澄心。一宮惱亂。候宿。

廿九日。丙寅。從内出。召文章生。學生等。任屬文者土〔等カ〕。合令作文。上達部故〔皆カ〕絶白〔句カ〕。終日雨下。

四月

二日。戊辰。重物忌。從晦日雨下。夕方有晴。

三日。己巳。物忌重。天晴。山科祭。依當國忌。可用中巳。

四日。庚午。濟信僧都。辭大僧都法務。東寺別當狀持來。

六日。壬申。入夜參内。候宿。有御下痢事。

七日。癸酉。從内罷出。殊事不御座。梅宮奉幣使立。

八日。甲戌。從去晦日。腰依有熱物。不參内。

九日。乙亥。長谷僧正許。送少物。入夜雨。

十日。丙子。明日舍利會。頭等問。

十一日。丁丑。日來雨下。

十二日。戊寅。內裏有犬死觸穢。

十六日。壬午。御饗。依觸穢延。供奉諸司等。皆以乙也。

十七日。癸未。御饗見物。右兵衛佐道雅。著織物袍。如赤袍。衆人頗奇。前驅右衛佐代。內匠頭藤原理邦。次第使。本者申障。代右馬助孝義。右衛門佐。依四位。本人不奉仕。

十八日。甲申。參賀茂。有東遊。神寶等。同道上達部。右衛門督。權中納言。尹中納言。源中納言。新中納言。勘解由長官。左大辨。修理大夫。左兵衛督。大藏卿。宰相中將。春宮權大夫。三位中將。源三位等也。東宮傳被來。被示可同道由。依上臈座留了。還祿等賜上社。

十九日。乙酉。從朝天陰。巳午時許雨下。衆人欲問。未初程。天晴。無雲氣。萬人爲喜。近衛使賴宗。從東對立。事了參內。一宮奉令見物。御向被來。上達皆參。申時。內藏使權頭能通。近衛府使賴宗。中宮使實成。春宮使業遠等也。馬寮使通任。盡善盡美。末如此年。雨晴。事致神感也。上達部十五人被來。

廿日。丙戌。內府與東宮傳等。同道見物。上達部十余人同道。未時還。此間中宮使共志。右近衛正親。內府賜衣。左近府末忠我給。還饗如常。上達部十二人。

廿一日。丁亥。從夜雨。

廿二日。戊子。終日深雨。立吉田使如常。

廿三日。己丑。雨停。參內。被仰。明後日密宴。御前無景物。可然樣可爲云。奏云。只今何事奉仕。付木

草無時。搦〔深力〕流水。又有方忌。令奉仕音樂如何。仰吉事也。仰實成朝臣。令召樂人等。罷出。家樂所樂器等。調具。仰可然者等可奉仕由。

廿四日。庚寅。晚頭參內。候宿。

廿五日。辛卯。御前御裝束。東方御障子一間遺東。畫御東〔注、座敷〕間。立大床子一雙。又立置物机一雙。置御硯宮。從南階間西。又廂鋪疊。親王公卿座。庭中當御座。立文臺。南殿北砌。從文臺西間。鋪二行。鋪文人座。從瀧口前。立大鼓一面。(左衛門府舞臺)瀧口廊內。召人。樂人座。酉時中務卿親王未參前。召御前給。鋪〔衍力〕畫御座西間。西柱許鋪圓□〔座ヲ略セルカ〕一枚。長押上。有誓。退出後。撤御座等。召人。酉時中務親王。前大宰帥親王。余。右大臣。內大臣。東宮傳。右衛門督。左衛門督。權中納言。平中納言。中宮權大夫。新中納言。勘解由長官。左大辨。左兵衛督。式部大輔。宰相中將。春宮權大夫。三位中將。源三。右兵衛著座。下臈上卿。長橋敷圓座候。次召文人。御料紙。賴定朝臣入楊宮。加高坏。經公卿座前入。從西。第二間。立置物御机上。次殿上人所。紙筆給。親王。公卿。內藏官人賜。文人御召。余唯涉〔注、稱敷〕。從座前進。昇長押。候御座。未申前。承仰。仍復座。召權中納言藤原朝臣。仰可獻詩題由。中納言復座。書題目持來。取之。座前入宮。從同道前。奏之。勅許之。又令書。召文人一座爲題。給題。取居本座。給之。其次仰以言。奉仕序由。次王卿屬文者探讀。殿上人。文人。又聞了。參晉聲如〔召力〕文人。從仙華門著座。右兵衛尉多吉茂。一鼓召人等。仰云著座。後上下賜衝重。二獻後。供御膳。

此間奏樂。通夜物音不斷。已曉了。

廿六日。壬辰。辰時獻序。此召人等獻作文。依仰令取文靈宮。右近少將濟政朝臣。以宮置座上。依召參御前。召御圓座。鋪大床子南。御之。可奉仕講師。匡衡朝臣講文。此間。王卿。殿上人近候。召人候砌下。講了復座。賜酒肴。一獻後。右衛門督獻御酒御盃。中務親王代盃飲後。從西階下拜舞。昇從長橋後下巡。召余。絕〔經力〕簀子。候長押下。近召。仍上候。仰云。兩人親王。各可叙一品者。退下。進座上。仰兩親王外〔注、出敷〕。殿上候。令召召人。令召大內記宣義。仰可作位記由。此兩親王。下從長階。拜舞。復本座。此間奏樂。二曲耳。罷出音聲如入儀。召人等留候。御竹下。余獻御笛。中務親王琵琶彈。宰相中將吹笙。令候。召雅風朝臣。孝義。知光。則友。長能。公忠。遠理。致貴。爲時。敦信。通直。宣義。積善。時棟。忠貞。賴國。孝行。惟信等也。文人爲憲。孝通。善言。弘道。以言。業直。輔尹。爲時。敦信。通直。宣義。積善。時棟。忠貞。賴國。義忠。章信等。立座退出。次召人等賜正絹。殿上人。又親王。內大臣。大掛一重。加御下重。納言以下大掛一領。事了退出。兩親王參中宮御方。被啓賀。大夫啓之。恐恐不少。是我君達也。右大臣。內大臣。東宮傳。尹中納言。權中納言。左兵衛督。宰相中將。春宮權大夫。三位中將等。不獻文。或夜部退出。

廿七日。癸巳。女方詣仁和寺。賴宗第女子并男子等著袴。到見之。

廿八日。甲午。有直物事。入夜了。丑時先奉仕官奏。候內。越前國守源孝道。

廿九日。乙未。未時許。右衛門督。左衛門督。源中納言。勘解由長官。文人十余人。來作文。題流水調笙預〔此字恐誤讀草體。而更書後韻字歟〕韻。

五月

一日。丙申。講書。巳時。

二日。丁酉。入夜參內。候宿。女方同。

三日。戊戌。候大內間。從家申送云。文殿下有犬死穢者。

四日。己亥。朝間雨下。從內罷出。左頭中將來。右大將令奏著手結。佐無候。是中將二人。少將三人。家觸穢云。問案內所。昨日賴〔通ヲ略ス〕見物。不知案內。返來著座云云。奏令云。佐皆觸穢。著馬場行之。何有事者。被仰可著由。

八日。癸酉。參內。著右仗座。中宮御讀經結願。共參入。上達部參。初堂間參御前。此間右府參宮御方。御前還參。行香間。右府立行香。中間不立。行香事了著座。三獻後。著陣定臨時不斷經。請僧名廿一口。其後正月除書間。定遣受領功過定。入夜退出。從晝時時雨下。入夜深雨。

九日。甲辰。三十講初。

廿日。乙卯。五卷日俸〔捧〕物前立。樂人著座後。池上舞上〔注、臺、度歟〕供舞。〔以下數日ヲ闕ク〕

卅日。乙丑。明經。明法。算等。道博士。學生等。令論議。堂東寶子數。敷圓座二枚。爲問答座。內渡殿爲博士等座。中島爲學生等〔座略力〕。講說了後。召諸道馬場。賜饗。從中島引參上著。先召大博士廣澄。令講孝經。爲忠問了後。直講豐澄。前得業生問答間。豐澄如狂人。未如此奇事。衆人成恐。若是狂歟。若醉歟。云是本性云云。追立。事了。學生三番問答了。明法三番問答。其論議尤美也。元亮朝臣。允正等候。次算道三番問答。忠臣朝臣。敦等也。禮傳博士等候四座。上達來有數。不來民部卿。式部大輔也。非時大和守賴親朝臣。

閏五月

三日。戊辰。參內。著右仗座。定賑給事。又依仰。定說經。御讀經僧名。廿口。
八日。癸酉。三十講結願。時時雨下。此間度有非時事。諸卿〔頭書二日日ト有リ〕被來。十許人。
十五日。庚辰。御前有作文。題清夜月光多。
十七日。壬午。巳時渡精進所。(室町高雅宅)先出東河解除。簡人人。源中納言。權大夫知章朝臣。能通朝臣。濟政。忠經。廣業。爲義。孝義。齊。爲理。親平。順時。賴行。正正〔重複力〕忠七八人許也。參內。說經。御讀經。朝座講師定置。問者明尊。夕座講師覺運。問者仁善。未時初。戌時了。從申時許小雨下。

六月

八日。壬寅。參笠置寺。此夜流星數多。至曉流云云。
九日。癸卯。從寺歸。山城介眞助朝臣出來。奉仕雜事。笠置津渡間。賜祿物。所著生單衣。雖有儲物。無體持前立。仍所給也。入夜入京。此夜又有大流星云云。
十日。甲辰。天文博士等。勘奏持來。
十二日。丙午。參內候御前。階前流星事有仰。奏聞可被行免物也。解〔注、却歟〕文文〔二字又又力〕可有免物祿〔標力〕見給侍。又仁王會御讀經。奉幣等。內可被行由奏聞。退出。
十四日。戊申。內府參內。仁王會。奉幣事定。
十五日。己酉。內府官奏奉仕。
十六日。庚戌。可有赦由。實成來仰。早可被上卿可被〔可被重複ス〕仰。又來云。右大將參。可有常赦歟。若可行大赦歟。去春大赦是非常也。雖然御慎重。尤吉事。隨御定。承左右。隨仰可被仰〔行力〕。只書狀及給。數度致往還者。仰不違大赦由者。子二點實成來云。只今詔書下了。左右衛門尉爲政仰之者。
十七日。辛亥。參感神院。
廿一日。乙卯。諸社奉幣。右衛門督行之云云。

廿二日。丙辰。參賀茂。

卅日。甲子。解陣〔除力〕河臨。光榮。

寬弘四年

七月小

一日。乙丑。出松前解除。河臨。此有雷大聲。雨下。奉平。

二日。丙寅。忌日齋食。於土御門。以前大僧正并仁携等。爲身代。是依長齋也。

三日。丁卯。解除。

十四日。戊寅。於一條院南殿。被修仁主會。有御出。御障北。敷中央間御座。殿北面懸御簾。敷玉麴座。以寶子。出居座。在東妻云云。〔以下闕〕

八月大

二日。乙未。參金峰山。以丑時出立。立御物忌。出門間。以塩湯灑衆人。從中御門行西。從大宮出南。從一條到朱雀門大路。社橋下解除。出從羅城門。鴨河尻乘舟。時辰。參八幡宮。午時奉幣。誦信布三十端。從出宮。從身重。渡東。宿內記堂上云處。

三日。丙申。宿大安寺。扶公事備依華美。□□其所南中門。宿東殿。御明。誦信布卅端。

四日。丁酉。宿井外堂。雨終日降。御明。諷誦信布十端。
五日。戊戌。終日雨降。宿輕寺。御明。諷誦信布十端。
六日。己亥。天晴。宿靈坂寺。御明。諷誦信布卅端。
七日。庚子。到觀覺寺。沐浴。御明。諷誦信布十端。
八日。辛丑。終日雨下。宿。

九日。壬寅。時時雨下。祇園。寶塔。晝爲飯。兩寺皆修諷誦。奉御燈。
十日。癸卯。時時雨下。著御在所。僧房金照房。午時沐浴。解除。

十一日。甲辰。早日著湯屋。浴水十杓。解立御物前。參上小守三所。獻金銀。五色絹幣。紙。御幣等。紙米等護法。又同詣卅八所。同又供幣等。五師朝仁申之。賜被物。次參御在所。獻綱廿條。絹盃十流。供御明燈。供養經。法華經百部。仁王經。三十八所御爲。井主上。冷泉院。中宮。東〔宮略カ〕等御爲。理趣分八卷。八大龍王爲。心經百十卷。請七僧。供養了。請師咒願綾掛一重。五僧白掛一重。

〔裏〕百僧絹一疋。袈裟一條。未前七僧法服甲袈裟。余宿衣。御燈申上僧單重。七僧布施。百僧布施。米二石。信濃三端。諷誦百端。滿寺僧供料。米百石。又前年奉書金泥法華經一部。此度奉書彌勒經三卷。阿彌陀經。心經等同□〔奉ヲ略スルカ〕。僧以七口申上。請師覺運大僧都。咒願定澄大僧都。讀師扶公法橋。唄懷壽。三禮明尊。散花定基。堂達運長。皆被物。件釋等。寶前立金銅燈樓。其下埋。供常澄

也。從初今日日。修諷誦五師。三綱。給祿。別當金照。朝仁等。白掛一重。自餘單重。

權大夫供養經。七僧。三十僧。七僧疋絹。金照加單重。米三十石。源中納言同之。我經。次女方供經十部。我御明百万燈。皆有所御爲。事了見所。霧下不見如意。還房。金照賜掛。卽下向。入夜宿寺。祇園。
十二日。乙巳。天晴。著寶塔。進膳。又依申金照。著石藏。定金照房。其寺甚美也。進膳。卽立野極。乘馬。從下道。著水邊。賴光。維叙。業遠等來。餘人人依試不來。入夜宿。

十三日。丙午。天晴。從廣大野著。國司儲膳。借屋數屋立。國司給馬。著泉河岸上借屋。大和守所爲。卽乘舟。

十四日。丁未。曉來旋。乘車。著鴨河精進所。以精糶解除。著土御門。卽參大內。并參東宮。退出。〔以下、五日間ノ記ヲ闕ク〕

廿日。癸丑。相撲五番有召事。如前儀。是余不參召合。仍有御意。恐申無極。入夜事了。
廿一日。甲寅。召相撲等。令食。左取手絹二疋。大革廿枚。腋一疋。十五枚。右取手絹二疋。弓一張。餘一疋。十枚。不被召者疋絹。〔以下九日間ノ記ヲ闕ク〕

九月大

〔此月ノ記ニ闕逸多シ〕

九日。壬申。節會如常。從初御製皆四韻。帥一人絕句。

十七日。庚辰。作文。題秋鴈數行書。
廿三日。丙戌。作文。題林亭卽事。
廿七日。庚寅。有京官除目召。仰外記清忠。辨廣業朝臣。申時儀初。亥時了。
廿八日。辛卯。未時儀初。子時了。清書源中納言。
卅日。癸巳。給召名云云。權中納言。

十月大

一日。甲午。於堂供佛法。釋迦。藥師。觀音。大威德。毘沙門。皆等身。觀音。威德。毘沙門。先年願。二尊并大殿若。去年多願。堂北屋佛。東面七僧。南北相分六十僧。堂東南西廂座。上卿。佛先〔前ノ借音字力〕東廂。南上。西面上。下廳南面。講師院源僧都。咒願前大僧正觀修。讀師明藤僧都。三禮覺運大僧都。唄觀助律師。散花扶公法橋。堂達阿闍梨慶命。六十僧。七僧內。巳時以大僧正。佛開眼。申時打鐘。馬場殿僧會集。上達部西對。南唐廂座。殿上人座有末。兩三獻後。入堂。初堂。入夜事了。不來人。兩大臣。民部卿。式部大輔。自余上達部。三位。皆被座。顯文匡衡朝臣。左大辨書之。諷誦信濃布五百端。一條北政所百端。二日。乙未。依可犯土。渡一條。東宮傳被來。帥宮重懷給者。申時許謂而參著。無程禰給。入夜退出。子時。入棺新絹奉。

四日。丁酉。參內并東宮。卽出。

六日。己亥。依物忌輕。外人來。

七日。庚子。帥宮御罪沒雜事。段段奉仕。又奉車。冷泉院御喪日也。而陰陽師勘之。依有憚。改用之。

八日。辛丑。說孝來申。維摩會下由。例文書等給。

九日。壬寅。觀修寺僧正。立堂供養。權大夫向。□□得牛來。

十日。癸卯。到木幡塔所。以明嚴僧都。對方。普門寺塔金物借持來。

十三日。丙午。早朝從山階寺。辨並〔二字衍力〕寺解文持來。講師清春。數日病相扶奉仕間。十一日夕座了

間。從高座下間不覺。爲之如何者。奏事由。卽仰遣。會參僧綱。以扶公可令奉仕者。又夕望申上云。清春奉□

□書。昨日朝夕講師。會參平超。觀召〔照〕等。次第奉仕者。扶公賜講師官旨。外記清忠。臨時書入御讀經初。

廿六日。己未。春日祭使兼綱。申觸穢由。左右中少將。巡遠者。被仰可奉仕由。

廿九日。壬戌。京官召直物。依召參上御前。仰云。無奉仕祭使人。以教通任權少將。可奉仕。依仰任了。

十一月小

一日。甲子。

四日。丁卯。府官人以下。賜藥祿。

五日。戊辰。以教通令迎御馬。從陣申送。加又祭月是欠日。其以前有此事。悅思不少。

八日。辛未。奉幣如常。申時使立。內大臣渡給。是希有事也。從西對立。對西面大臣儲可座處。立舞後。細殿南廂。敷錦端疊一枚。上敷茵等。自余菅圓座。兩三獻後。召番長□□部是國。賜大將盃。後以宰相中將仰給。府生奏由。〔裏〕是國再拜立舞。此間盃酌數巡。悅身餘。泥醉不覺。引出物馬三疋。一七〔疋力〕栗毛。從內給馬。一品宮御著裳日也。一疋枯尾。是家馬第一也。輔公貴〔遺ノ略字力〕一鹿毛。蒔繪野刀。右衛門督取之。出給間。頭中將持御踏來。我所著。解刀受之。中門下。未天〔使ノ略體力〕出。御共驪座。年長繼大夫取高坏者。賴親。公信等中將。〔以下闕ク〕

十日。癸酉。還立如常。梅宮神馬又如常。

十二日。乙亥。源中納言節經營。打掛十重。袴十具及。

十三日。丙子。神馬奏如常。

十七日。庚辰。帥宮御法事。定僧名。□□又渡一條。依犯土。

廿日。癸未。試樂依雨明日者。早朝渡法興院。帥宮御法事雜事行。午時許還。欲參內。雨下。申許廣樂朝〔臣ヲ略ス〕試明日之由仰。

廿一日。甲申。置神馬。參內。試樂。候宿。

廿二日。乙酉。使高雅。舞四人。我子也。是希有事也。昨一舞。賴宗。顯信也。是座次第也。今日以教通。

被仰一舞。依中宮御殿。內府。傳與同車見物。內府孫小童乘車。內府有悅氣。是一日事思也。候御馬樂。丑

四出宿所。高雅物儲。朝夕。

廿三日。丙戌。到木幡。見塔。有感事。

廿六日。己丑。欲行東三條。神樂。觸穢僧平登〔澄力〕來著座。仍延引。

廿七日。庚寅。渡土御門。新造左衛門陣座。上達部初著。本陣備變。

廿八日。辛卯。詣木幡。見造塔。

十二月大

一日。癸巳。詣木幡寺。塔供養雜事行置。

二日。甲午。以寅時。具女方。詣木幡寺。塔會也。從此間。雨下盛也。著寺。午後雨止。入來上達。殿上人。諸僧。悉來待。時吉時。申時事初。其裝束。塔南廂。入來上齋座。南北東納家座。南北立長座。讚以下爲座。〔裏〕依雨。三昧堂南西廂。遷僧座。上達部。殿上人。從廊座。著塔下。打鐘。衆人。從西外。聚會所座著。導師。咒願著高座。餘事如常。具由見貳文。上達部。右府。式部大輔。二人不來。導師雅慶僧正。咒願定澄大僧都。證上觀修僧正。納衆四十人。大僧都穆算。少僧都明壁。明救。院源律師。觀照。澄心。林懷。慶命。清壽。尋光。如源。觀助。法橋慶算。扶公等。

讚衆廿人。梵音衆廿人。錫仗衆廿人。唄明憲。仁拂。散花日助。遍救。引頭定基。尋清。威儀師二人。(圖峰。增羅)渡〔度力〕者給使。左近中將公信。藏寮御諷誦使兼經。冷泉院相尹。皇太后宮明理。中宮高雅。春宮景理等也。前一品宮無使。被來。初內府。一家上達部。諷誦人及出後。舉燭。事了還來。

三日。乙未。以人人。所所昨日令申慶。

五日。丁酉。陣定。去春受領等申請雜事。

九日。辛丑。讀經初。右大將來示。令申定荷前使。依有障所也。

十日。壬寅。早朝左衛門督來。付子童殿上名薄。令廣業令奏。法性寺未懸額。依僧都示。書之及。從本非能書。度度雖示。不堪由云所。依功德故事之。以午時懸之南門。西門左大辨書。內大臣。彼寺立堂供養。爲入禮向。大臣有悅氣。是爲功德。又一家長也。仍所向耳。又教通祭使日參座。如此等事。相重。所詣也。送物和琴。比琵琶。馬四疋。有鞍。權大夫有文帶。自息子四人。劍。御前十六人。四位四人。五位八人。六位四人。有被物。又隨身有被物。四位。五位。六位祿也。

十一日。癸卯。未時許。內府被護。是昨悅也。進酒膳。引出馬一疋。隨身正見。被出後。東宮昨日馬二疋獻。中宮獻。入夜退出。

十二日。甲辰。季讀經結願。

十三日。乙巳。依物忌。以權中納言令申定朝拜。

十四日。丙午。例歲末讀經初。荷前事。公私行之。從今日御佛名初。是貳日依相御國忌。被行耳。

十六日。戊申。御佛名結願如常。

十八日。庚戌。清義。朝源。光慶等。阿闍梨官旨。又又申。大僧都慶圓。無動寺置阿闍梨四人官旨下。

十九日。辛亥。被置仁和寺。觀音院阿闍梨。

廿日。壬子。著右仗。令申文。奉仕官奏。當年不堪佃。加他文十枚。入夜退出。

廿一日。癸丑。戌時小地振。又丑時又振。大也。兩度。

廿二日。甲寅。欲參慈德寺。依物忌不參。天文博〔士略力〕吉昌。奉平。地震奏持來。吉昌奏在月旦。奉平在月角者。各論月度。又吉昌十二月者。奉平正月者。是家家說云云。但召光榮。問月度且者。吉昌所申有理。廿三日。乙卯。中宮御佛名。

廿五日。丁巳。著右仗座。定不堪文。從御前。因幡守行平。右衛門督。尉惟弘等。下賜明法勘文。諸卿申云。有法家勘申事。此外何事申哉。只隨勅定者。左衛門督子元服。即皇太后宮當年未給爵被申。官旨下。致通表衣送。次他裝束相加送之。馬一疋。引物斬又送。入夜來冠者。

廿六日。戊午。東宮女二宮。男四宮。御著袴。風病發動。遲參間。亮通任朝臣來。早可參內示。即參入。兩宮結御袴腰。候殿上。召以傳。退出。傳受祿。賜御馬。從南階下。取綱。一拜退出須。退出而候殿上。上達部等相與數獻後。出女二宮御前物。御裝束等。權大夫奉仕。〔以下闕〕

寬弘五年

正月

一日。□□〔癸亥〕。天地四方拜如常。參入節會。
二日。甲子。右府。內府。帥等被來。自余上達部間座。數獻後。三人引出物。參中宮大變。不立拜禮。右府以下立之。南外辨所。儲饗如常。立藥間。右兵衛尉多吉茂。生年七十五。立舞。人人賜衣。是當時第一者內。依高年耳。
三日。乙丑。依物忌無他行。
四日。丙寅。參東宮。冷泉院。內二候宿。前將軍兼光馬五疋獻。又權大夫教通等各一疋。
五日。丁卯。叙位議如常。
七日。己巳。朝間雪降。終日雨下。午時參入。大內記入眼間。候殿上。未時御出。酉時賜下名雨儀。西廊置宣命版位。立標。自余如常。左馬頭不候。左兵衛佐顯信爲代。又申右頭不候由。依忽不取代。供御膳後御入。即右大將付內辨。退出未前。以廣業。奏冷泉院御給之忠經由。又大內記宣義加階。然申由。兩事被免。即仰入眼。上卿左衛門督。宿所儲食物。子等令清衣。教通。左頭中□〔將略力〕表衣。賴宗。新中將表衣。

八日。庚子。依物忌。不參御齋會。早朝。藏人所小舍人來。教通被免昇殿者。物等給。令參。他不被免云云。賴宗。教通等四位。令申所所慶由。令賴宗。左中辨表衣。教通。右頭中將表衣。

十日。壬申。參內。候宿。

十一日。癸酉。女叙位。并被定藏人。式部水資業。文章生國經等也。雜色右近將監親業。檢非違使左衛門尉保賴。右衛門尉守親。左衛門志惟信。以冷泉院去年御給。右兵衛佐道雅。正下加階。

十四日。丙子。召善言。仰可令勘政初日。有暫申十九日由。參八省。午二點。人人遲參。打鐘。其像〔儀ノ〕〔如常〕。行香。□〔東廊間〕。留立門中。示右大將。次次事可被行由。參內。亥時事了。宿內。此曉參女方。十五日。丁巳。從內罷出。

十六日。戊寅。不參節會。廣業朝臣來。今日無忌日也。帥給□如何。奏云。宜日有何事。只隨仰奏聞。頭右中將實成來云。帥如大臣。□數可給者。二宮依參清水給。入夜參入大內。其次仰經通。□〔依脫力〕宣旨。宮御共。參寺。即退還。女方從宮出。內辨右府奉仕云云。人人來云。內侍給文間。文等取落。內辨拾之。不又獻。三獻。女妓〔嬌力〕出間不取標云云。件兩□〔事脫力〕違例歟。

十七日。己卯。服阿梨勒丸。依惱不他行。駿河守高枝馬二疋獻。又權大夫教通各一疋。
十八日。庚辰。物忌固。籠居。

十九日。辛巳。政初。召大外記善言。仰可有明日定。催申上達部由。廣業朝臣明日定受領功過也。文書催。

令候陣。仰之。

廿日。壬午。參大內。定受領功過。四箇國。入夜罷出。亥二刻。尉〔對力〕儲酒肴。昨日所仰。

廿一日。癸未。忌日齋食。召院源僧都。召令申上例經。布施如常。初大饗裝。

廿二日。甲申。參大內。

廿三日。乙酉。雨終日降。

廿四日。丙戌。雨終日下。

廿五日。丁亥。行大饗。天晴。午時東宮傳被來。未時奉遣請客使。申時初被來。(右府馬頭。內府四位少將) 列立如常。二獻。餛屯。召史生。三獻。勸飯汁物。此間鷹渡。四獻。菲立。五獻。羹燒。六獻。我勸與座。巡下程。在殿上人座。又勸非參議。大辨盃。就座仰錄事。此間巡行。可隨早晚錄使。我仰史生。召尊者。禮座(看物)。召伶人。後數獻。從下被物。辨。少納言下立。此間尊者被物。唐綾掛一重。打紅花綾掛也。足大掛。下品忽所爲耳。

廿六日。戊子。除目儀初。著陣。右少辨廣業。人召。召前。未置宮文。仍仰善言。可置宮文由。聞速入。從西中門召返後。如例令置。其後有召。元〔取力〕莒如常。

廿七日。己丑。議如常。

廿八日。庚寅。鬮子時了。後以右中辨道方朝臣。補藏人頭。以朝時。紺泥法華經手自書初。爲父母御也。

廿九日。辛卯。被仰下名。上卿被加物。右近權中將教通。同少將道雅。左近少將賴宗。左兵衛佐好親。新宰相中宮亮兼。字〔停力〕左衛門尉成順還昇。以橘義通。爲藏人所雜色。新宰相還昇。

二月

一日。壬辰。從內罷出。二宮出從清水。御迎參在大門。依春日祭前也。深更右近將曹公助來。大將消息。中將公信朝臣。春日使從兼有用意。人申觸穢由。道雅申忽由。教通可奉仕獻者。返事云。被公家定仰者。可奉仕者。二日。癸巳。頭中將來云。右大將消息。春日祭使將等申ス。公信朝臣從本有巡人。而申觸穢由。道雅申忽由。足新任者。教通雖任中將。於左。去冬奉仕春日使。隨官官可仰云。我答云。無可奉仕人。有仰。教通可奉仕。以此由。可被奏宣道雅奉仕者。

三日。甲午。右近衛府。召官人以下。賜饗祿。近衛府使申代官。忽無可然人。仍以參會社頭諸大夫。可爲代由。仰外記。

四日。乙未。春日奉幣如常。使菅原爲理。

五日。丙申。雨下。

六日。丁酉。參華山院并二宮。又參大內。候宿。

七日。戊戌。着右仗座。定奉幣使并上達部分配。入夜罷出。奉幣使立。勘申廿一日。廿五日。仰云。彼日可

有行幸。可仰諸司者。仰大外〔記ヲ略ス〕善言。右少辨廣業等。入從城〔注、上殿〕東門。步行云云。八日。己亥。道方朝〔臣ヲ略ス〕初申文。教通齋陣。新宰相等著云□。先著納言座。立座。立陣腋邊。而後又著參議座云。是於一條院。無宜陽殿座。女房參宮。

九日。庚子。舉直申云。此夜半許。花山院崩去。門外廣業朝臣來云。仰華山院崩。此間雜事神事等如何者。申云。依固物忌。不被參入。召他人。被問先例。可被行。陽成院例宜歟。可被加其例用意也。入夜廣業來云。右大臣不參。內大臣參定申。先明日可被停神事。終日雨雪下。

十日。辛巳。以左中辨。左大辨消息云。明日列見有無如何者。以廣業令奏案內。是間中事。而然依非可定心一也。陽成院御時。九月廿日崩。十月一日。旬雖無御出。平座如常。可有定歟。廣業來仰。可列見延由。即仰下。十一日。壬寅。頭辨。今日初著綾衣。依有消息。下重。表袴等及。從花山院春御崩由。內大臣著右丈。行雜事云云。固關使等付國。垂御簾五箇日。

十二日。癸卯。參大內。依御國忌。從內如方相無共。伊祐朝〔臣ヲ略ス〕家遠方。明日欲參法性寺也。

十三日。甲辰。還來。詣雲林院慈雲堂。修燈明諷誦。是依吉方也。還來。入夜詣法性寺。修二月。僧等布施供養。從申時許雨下。以成算。初中宮御修善。

十四日。乙巳。還業〔參カ〕。次參二宮。雨下。參大內。候宿。

十五日。丙午。從內出。參二宮。雨下。於堂。以讀經僧。釋迦念佛。所有僧卅二人也。而二人他行。以卅修

云。有布施。

十六日。丁未。參華山院。會入道中納言。示進參由。參圓融寺。御入講結願。入夜還來。

十七日。戊申。華山院御葬。送大和寺東邊云云。雜事聞□九人。是遺誠也。

十八日。己酉。參大內。罷出。參東宮。從昨日垂御簾。

十九日。庚戌。女方參大內。內府參陣。行解陣等雜事。即停神事等。可被行歟。其由上達部定申云。依先例可被停定申。仍止了。從明日御讀經事。

廿日。辛亥。雨下。丑時許。敦兼朝臣曹司者來申云。只今不覺。賜僧云云。仍遣人人。令案內。申不覺由。以僧令加持。猶不覺云云。寅時許送於家。與妾同車。辰時許申送云。只今死去云云。公家於東對。法華經不斷御讀經。十二口。廿日也。

廿三日。甲寅。列見。著右丈座。召外記櫻鳴雅親。見參上達部。仰可入見參由。候宿。

廿四日。乙卯。從內外〔注、出歟〕。依有方遠。宿小南。

廿五日。丙辰。參大內。候宿。

廿六日。丁巳。著右丈座。奉仕官奏。是初度。

廿七日。戊午。從內罷出。美作守泰通昇殿。從除目間。尾張國郡司百姓。愁國司。而被仰云。早罷下。愁申雜事戒仰。國下遣。尙有愁。可有重申下給。申請郡司等。愁文遣下。一一定行。若後又有愁。可被重申戒

者。

廿八日。己未。著右丈座。定申季御讀經僧名日時。來月九日。十二日也。仰云。可用九日云〔者カ〕。奏聞云。十二日宣侍敷。宸勝會間中。九日初間也。依未依可宜也。仰云。十二日者。卅日。辛酉。渡築遠〔家略カ〕。

三月

一日。壬戌。出東河。解陣〔除ヲ誤ル〕。

三日。甲子。參大內。中宮侍長明範解却。是依庚申夜亂行也。

四日。乙丑。從業遠宅還來。參大內。候宿。

五日。丙寅。著右丈座。定仁王會僧名日時。廿四日奏聞。下之。又補御讀經闕請。入夜罷出。令申文。所充文。他文相加。

六日。丁卯。從曉方雨下終日。

七日。戊辰。參大內。即退出。

八日。己巳。從午時許雨降。

九日。庚午。則理罷申。賜大掛。泰通。爲理又申。給各馬一疋。

十日。辛未。大外記善言申。所充文下給。公卿給。初讀請印下賜。式部丞實業停任。并二合文。

十二日。癸酉。定中宮御出雜事。依物忌。不參內御讀經初。

十三日。甲戌。參大內。候宿。

十四日。乙亥。從內罷出。

十五日。丙子。時時雨下。參御讀經結願。右少辨廣業申。大辨不候。奉仕申文如何。仰云。有以中辨令申例云云。上達云。件例不審。源中納言與我。示有由。以右中辨道方朝臣令奉仕。入夜罷出。此間雨下。

十六日。丁丑。入從土御門。初內藏寮諸司見。上達部七八人許同道。廿司許。出從美福門。至大學。還來。東宮御讀經初。

十七日。戊寅。日晴。參內。入夜罷出。女方同之。中宮御讀經初。

十九日。庚辰。從朝時時雨下。夕方深雨。雷電甚大也。召吉平朝臣賜祿。是繼大夫日來有惱事。今日解除。依得尋常。

廿日。辛巳。季御讀經初。

廿一日。壬午。中宮御修法。御讀經等初。

廿二日。癸未。去夜。藏人文章〔生略カ〕源國經出家。美濃守國盛男。

廿三日。甲申。參大內。候宿。讀經結願。

廿四日。乙酉。從夜終日甚雨下。公家仁王會。於大極殿百講。自餘所所如常。候御前。入夜罷出。
廿七日。戊子。參大內。著右丈座。定諸國申請。此中申。陸奧司申。前前司實方任終年。金交替使。遠望不渡。滿正仍申。從前司任終年。可辨濟由。而定。猶當之可申辨。滿正勘公文。丁〔下力〕給諸司官旨者。實方任終年。金丁使任聞等。辨申歟。女房參內。被補藏人。左兵衛尉藤原惟任。

四月

七日。丁酉。雨下。從去晦日。依有契物。不他行。依內御齒惱給。參入候宿。

八日。戊戌。雨下。溜佛如常。依御物忌輕。人人不候。而忽依憤給。候人四五人許。

九日。己亥。著陣。定觀日前。罷出。雨下。

十日。庚子。雨止。天陰。右衛門督參大內。

十一日。辛丑。天晴。

十三日。癸卯。雨下。辰時晴。中宮御出。從一條院東北門外〔注、出歟〕。從土御門。著土御門宮。候上達部。傳。大夫。權中納言。權大夫。權中納言。勘解由長官。大藏卿。

春宮權大夫。權亮。上達部。諸衛。賜祿如常。內女方候御共十一人。絹給十疋。綾二疋。典侍三人。絹八疋。綾二疋。命婦絹五疋。掌侍絹六疋。

十五日。乙巳。參大內。

十六日。丙午。見觀。上達部多被來。顯信。能信等。奉仕前。家馬十一疋給。人不申馬。人雖他所當。是本我馬也。

十八日。戊申。從小南。詣賀茂。舞入賴宗。教通。(以上四位)兼綱。兼貞。顯信。忠經。能信。資平。(以上五位)惟任。成順。(六位)陪從忠道。長能。公忠。行義。保名。忠隆。賴信。興光。有光。遠理。惟忠等也。上達部十三人被來。右大將。左衛門督。留。權中納言。勘解由長官。大藏卿。三位中將。三位中將權大夫。中宮權大夫等乘馬。殿上人無殊障。兩頭皆來。

十九日。己酉。祭使所舞人。下重。疋絹料等送。午時許。外記成親來云。候齋院間。申云。馬寮使申病由。奏聞事由。爰仰云。付家可仰此由者。奏聞云。只令爲云如何。猶可被仰奉仕相尹由。即參入。仰云。非可事關。可能樣行者。前驅諸大夫中。侍諸司長官等中。以有仰者。可奉仕代官。仰云。以圖書則孝。可奉仕者。仰此由。外記令奉仕。一宮見物。同東度〔渡〕事。戌時。

廿日。庚戌。依物忌。不他行。晚景人人來。依使慶云云。辨來云。仰左馬寮使頭相尹朝臣。昨日。當日。當時。申除由。祭事懈怠。以此由可相問者。

廿一日。辛亥。召大外記善言。仰可問相尹由。定三十講事。

廿二日。壬子。吉田祭。依物忌固籠。陰陽師使等。奉幣神馬在殿。

廿三日。癸巳。初三十講。

廿四日。甲寅。終日雨下。廣業朝臣來。仰云。女二内親王憫給事。得尋常。阿闍梨文慶。數日奉仕修善。取
〔驛〕得也。以茂〔慶ノ衍〕任權律師如何者。奏云。先日奏可被實由。有仰。重只可隨仰者。道方朝臣來云。
以文慶可任權律師者。即仰可造官符由。入夜文慶來云慶由。授大掛。

廿五日。乙卯。朝間雨下。參内并東宮。二宮等。還來行講。〔以下數日ヲ闕ク〕

五月

一日。庚申。内藏頭爲非時。守庚申。有作文。夏夜他〔池ノ衍〕臺即事。

二日。辛酉。〔時許行講。未講時〕〔二字倒置カ〕文。其後參大内。定卅口御讀經僧名。罷出。

三日。壬戌。高雅朝臣爲非時。

四日。癸亥。國平朝臣爲指料非時。

五日。甲子。講行二座。是今日爲俸〔捧〕物也。上達部多成〔來カ〕。不來人。右府。内府。民部卿。尹中
納言。新中納言等也。自餘初帥皆來。廻池頭立。加人。僧百四十三人。講初間。有御使。定輔。俸〔捧〕物
後。賜御返事。有祿。堂東賢子數。女方給之。

六日。乙丑。雨下。

七日。丙寅。雨下。參御讀經初。候宿。

八日。丁卯。出從大内。參東宮。二宮。還來行講。

十一日。庚午。生昌朝臣爲非時。參大内。候宿。

十二日。辛未。政職朝臣爲精〔指カ〕料非時。從大内出。讀玄讚。源中納言同讀。定澄僧都爲師。

十三日。壬申。正方朝臣爲非時。

十五日。甲戌。明順朝臣爲非時。

十六日。乙亥。著右丈座。奏位祿勘文。又定賑給。又陸奥金。并重忠後家〔注、申歟〕爲雅我〔職カ〕被致
重忠事等。候宿。

十七日。丙子。從内罷出。

十八日。丁丑。知章朝臣爲非時。

廿二日。辛巳。玄贊一卷點了。僧都引出馬。卅講結願如常。此間日日上達部被座。少時六七人。多時十三四
人。自例年今年陪〔倍〕。二宮依重惱。入夜參入。

廿三日。壬午。中宮修善。明救僧都奉仕。又初仁王經。不斷御讀經。最勝講。〔以下闕ク〕

六月

〔一日ヨリ十二日マデヲ闕ク〕

十三日。壬寅。從大裏。爲中宮。以勝算。於大裏御修善。番僧廿口來。有惱事。久不他行。而長谷僧正重惱者。卽馳向。其惱事。從去年七月也。而未平復。從四月惱。仍極無力。非「悲ノ略」思千廻千廻。入夜還來。十四日。癸卯。中宮參大內御。御奉自車如常。御上。御出所。宮修善明致僧都奉仕。三七日結願。十五日。甲辰。候御前。前大僧正申。可置長谷阿闍梨由。事奏聞。天氣宜。仍示其由。夕方定基來云。被申悅事無量者。奏狀案持。所所可直者。

十六日。乙巳。從長谷。可置阿闍梨與阿闍梨解文送。出「書ノ衍」狀云。可置阿闍梨。承宣旨。阿闍梨官府「符」。參家讀經後可給者。件事返返見悅不少。現世後生願滿足也。卽以左中辨奏之。又勝算申。闍梨事已久。今被下之。此不下。必人有恨賊。仍再奏。同給宣旨。解脫寺五人。修學院四人。

十八日。丁未。參大內。候宿。

十九日。戊申。從內罷出。

廿日。己酉。參內。候宿。勝算奉仕中宮御修善。七日被延。

廿一日。庚戌。著右丈座。定備後國交替使。罷出。

廿三日。壬子。參大內。候宿。

廿四日。癸巳。從內罷出。「以下闕ク」

寬弘五年

七月大

〔闕條多シ〕

九日。丁卯。中宮欲出從內給。大將軍遊行方。而陰陽師等召問。所所申。不分明。仍及御出時。留給。

十六日。甲戌。中宮從內出給。

十七日。乙亥。有勅使。賜祿。兵部丞惟規。

廿日。戊寅。權僧正勝算。奉仕中宮御修善。

廿四日。壬午。以白檀。奉令造樂師佛。前僧都明致。阿闍梨尋譽等。奉仕宮御修善。

廿八日。丙戌。直物。正月除目也。有事障。于今延引。

八月小

〔闕條多シ〕

二日。庚寅。佛師康淨。藥「師ヲ略ス」佛奉渡。給祿。僧正雅慶。奉仕中宮御修善。參大內。宿候。

三日。辛卯。定臨時奉幣使。可立十二日。宮宮出明順朝臣宅。是明依神事。

四日。壬辰。立生丹。「二字顛倒カ」貴船使。留雨祈。是從去六月朔。日日雨下。爲農尤作慶。今月猶下。

依可有損也。

六日。甲午。參大裏。即退出。雨下。

七日。乙未。雨下。

十一日。己亥。考定延引。依前齋左大辨服身也。右大辨有勞所。

十二日。庚子。午二點參大內。奏宣命草清書等。著八省。立使等。微雨下。申二點。

十六日。甲辰。被修大般若不斷御讀經。廿一口。依觸穢不參。

九月大

〔闕條多シ〕

十日。丁卯。子時許。從宮御方。如方來云。有惱御氣者。參入。有御氣色。仍東宮傳。大夫。權大夫。遺消息云參來。他人人多參。終日惱暗給。

十一日。戊辰。午時。平安男子產給。候僧。陰陽師等。賜祿各有差。同時御乳付。切躰結。造御湯殿具初。

酉時右小辨廣業讀書。教經朝夕〔臣カ〕同。從內賜御劍。左中將賴定賜祿。依觸穢人也。

十三日。庚午。廳官奉仕。御產養大夫。御前物。除〔沈ノ借字陣ノ衍〕顯大般若六脚。箭馬頭。并自余器皆銀。

廿二日。己卯。參大內。候宿。

廿三日。庚辰。參御前。從昨日。依御物忌也。御讀經初也。然未前罷出。右府行幸事。申時入夜初事云云。

廿五日。壬午。參大內。參宮給間日給。奏云。十一月十七日。仰云。可參入日遠。可有行幸者。

廿六日。癸未。左中辨來云。行幸事。昨日仰可然日。先向陰陽師可申云。

廿七日。甲申。參大內。候宿。

廿八日。乙酉。召光榮。吉平等。間行幸日。來月十三。十六。十七日等。申吉日由。以左中辨奏此由。十三日可有行幸一定。又召所陰陽師等。可令申勘者。定彼間雜事。初季讀經。〔以下闕ク〕

十月大

〔闕條多シ〕

四日。辛卯。著右仗座。令申文。次官奏。還著後。大辨遲著〔説教〔孝カ〕〕間。史博愛早出。進文。待大辨。著。取文。此度申吉書三枚。可有來十六日幸行。召仰。中宮權大夫承之。召匡衡朝臣。令勘申若宮御名字給。

五日。壬辰。弓場初如常。權中納言能射一人也。中兄矢。

七日。甲午。參太內。候宿。

八日。乙未。定臨時四十口御讀經僧名。勘解由長官書。

十六日。癸卯。早且御裝束了。參太內。巳二點御出東門。午一點幸著。御入。御齋出。上卿著西對南廂座。

殿上人同西廂著座。此間船樂。從出南山間。數廻御前。上卿座定後。返入。參御前。奉見若宮給。余奉抱。上文奉抱給。其後著上卿座。盃酌數獻。此間脫御裝束給如朝。午飯奉供御膳。陪膳三位德子。

〔裏〕候宿。上女方等供御膳。而召道方朝臣。被仰。可爲親王官旨。卽仰道方。公卿別當。右衛門督。次氏公卿。大夫等。奏慶賀由。南庭北上。東面拜舞。後各著座。次右衛門督又奏慶由。中門內。次召人。上御。立御椅子。〔傍書、儲候也〕中央間。寶子敷圓座。先召余一人。宮官等被仰可賞給由。承了著座。次召諸卿。此間船樂參入。池北頭。松樹下留船。奏樂各二曲。其又二雙。龍頭一。鷄頭一。舞臺一。召人候室形一。是樂室船也。此間王卿給御重。供御膳。如腋御膳。是儲候也。陪膳東宮傳。上達部取御羹。同人供御酒。船樂還出後。召樂者。階下敷曲。後內大臣供御夾頭花。諸卿同來。長慶子間。余舞。給上卿祿。御送物三種。笙。笛。高麗笛。大夫。權大夫。亮等供之。奏名。還入。御入。上卿著對座。道方朝臣召右大臣。候御前。書叙位。以道方被仰云。可賜一階如何。奏聞云。官位共高仕。公間非無其恐。不賜爲慶。又仰云。可然家司一人賜賞。可奏其人者。以季隨奏之。叙位了。著右座。正二位藤原朝□□□三字空白、臣道長ヲ略セリ。從二位源朝臣俊賢。藤原朝臣賴通。從四位下教通。從四位下季隨。以道方奏云。實成朝臣。上達部。亮。彼給一階如何。仰云。書落也。早可入者。右大臣承之。從三位實成書加。源倫從一位。慶賀人人。奏聞其由。余并內府同奏。是依子慶也。其還御如常。

十七日。甲辰。慶賀人人來。戌時若宮所定職事。先啓中宮。次以賴定朝臣奏聞。內下始〔給カ〕後。下右衛門督。右衛門督書。別別家司賜賴定朝臣。藏人所賜道方朝臣。任人等申慶由。

左近衛中將源朝臣賴定。中宮亮兼近江守源朝臣高雅。右近衛權少將源朝臣濟政。右近衛少將源朝臣雅通。內藏權頭藤原朝臣能通。散位藤原朝臣惟風。甲斐守藤原朝臣惟憲。散位藤原朝臣濟家。東宮大進藤原朝臣知光。美作守藤原朝臣泰通。筑後權守大江朝臣舉周。右可爲件等人別當。雅樂亮源登平〔右衛門督申〕。織正藤原親光。右可爲件等人御監。〔頭書二年號下。右衛門督奉。ト有リ〕宮內卿兼左中辨源朝臣通方。右近衛權中將藤原朝臣教通。左近衛少將藤原朝臣兼綱。右可爲件等人藏人所別當。主殿亮藤原朝臣定輔。玄蕃亮源爲善。少內記藤原朝臣隆佐〔中宮權大夫申〕。左兵衛少尉藤原國經〔東宮權大夫申〕。右可爲件等人侍者。文章生源賴國。文章生藤原章位。藤子橋義通。藤孫源行任。右可爲件等人藏人也。

十一月小

一日。戊午。御立十日。若〔宮略カ〕御前物。新宰相。并殿上四六。取之授女方。大納言陪膳。宮御前。取殿上授女方。戌二點。余供餅。其後又就座。數獻後ニ。籥物五奉。折櫃五十合奉御前。召公卿御前。女方近。女方簾下。數巡後。上人御遊敷曲。後賜祿。大臣女裝束。加織物掛。大納言織物掛。袴。中納言綾掛。袴。宰相綾掛。殿上人疋見。立明主殿寮者疋見。事了。大臣二人引出馬。右府。內府。留有和歌事。十日。丁卯。若宮政所。藏所等。上達部。殿上人多參著。藏所余又著門。〔門字半蝕ス、問カ〕十二日。己巳。作文。題佳不如詩境。丑時了。

十五日。壬申。雨下。立奉幣使。并十列。
十七日。甲戌。參中宮太內給。御輦。若宮金造御車。別當以下。四位五四舉燭。奉抱候御車。母々〔二字ヲ
ははト訓ミ、道長ノ妻ヲ云フ〕。并御乳母。下從車。著內。事如常。殿南廂上達座。三獻後。給祿。罷出。
依仰。若宮參御前給。余奉抱。一兩女方候御劍等。即還下給。宮參上給。欲參給間。奉御櫛篋一雙。手宮一
雙。各人物。供奉諸司。諸衛。賜屯物祿等如常。
十八日。乙亥。從太內罷出。

十二月大

廿日。丙午。若宮御百日。御前物。右衛門督。中宮御前物權大夫。籠物可然上達部十人。各十捧。金銀。珍
寶。爲物形。折櫃百合。宮家司。侍別當等中。又百合。其折櫃又微妙事。非可盡書。御在所居南庇。并〔板
敷等。〕面。上達部。殿上人設饗。御渡御戌時。供宮御前物。余調餅端。奉抱宮候。
〔裏〕御陪隨橋三位〔德子〕。其後南廂。上御簾。召上達部。此以前。籠物。折櫃等。遷置御座。上卿給御車。
一兩巡後。供御前物。余之奉仕也。銀懸監。折敷張羅〔羅〕。置銀洲濱。龜形盛御飯。種種具。水鳥石等。盛
御采〔菜〕御臺。鷺足机。瑠璃酒盞。同瓶子。供御膳後。數獻後。上達部和歌奉仕。左衛門督進盃。左大辨取
筆。而帥取筆書題。人人相奇〔寄〕。七八人奉仕間。召御盃。右大臣獻之。召余給御盃。被仰云。〔以下闕ク〕

寬弘六年

正月

〔朔日ヨリ廿三日マデヲ闕ク〕

廿四日。庚辰。召仰。〔以下闕ク〕

廿五日。辛巳。大饗。右府。內府被著。

廿七日。癸未。初除書讀。〔以下三月三日ニ至ルマデヲ闕ク〕

三月

四日。己未。有除書。公卿召。〔以下八日マデヲ闕ク〕

九日。甲子。定季御讀經事。〔以下十三日マデヲ闕ク〕

十四日。己巳。新任公卿著陣座。大中納言四人。有申文事。皆下宣旨。左衛門督又著本陣。左右大辨。右位
階上薦也。結政如常。立座時。右大辨先立出。立所立東如常。次左大辨立。立西又如常。左大辨前行。陣殿
床子例著。右大辨座定。本座不違也。行歩□□。座所可尙〔衍カ〕位。位階自余如常。是依氣色所定也。
十五日。庚午。臨時祭如常。使權左中辨經通。新任上達部皆參。

十六日。辛未。祭使未時還。無召御前間。雨下。仍不召。上達部。可然殿上人。陪從等。召御前。有御樂事。賜祿。公卿御衣。自余疋絹。陪從有座。長橋內。〔以下三日間ヲ闕ク〕
廿日。乙亥。直物。〔以下二日ヲ闕ク〕
廿三日。戊寅。季御讀經初。候御前。〔以下二日ヲ闕ク〕
廿六日。辛巳。結願。不參。中宮。東宮。御讀經初。
廿七日。壬午。近衛御門女子。著裳。橋典侍上髮。女裝束。加織物掛。入衣宮。絹十五疋。故〔古カ〕女方等五六許來。授絹。上達部十余人被來。殿上人廿余人來。有被物。從白〔内ノ衍〕。唐衣。裳。裝束給。御體具加。從土御門。有裝束使等。授被物。〔以下數日ヲ闕ク〕

四月

二日。丁亥。參右仗座。定位祿國充。奏下。維摩會講師官旨。下義慶。興福寺件僧。雖淺禱。當時所有僧等中。才學頗勝也。皆上薦次第。賜此官旨以無才學。仍今日。參入氏上達部相定。奏下。非一人心。無後難獻。
五日。庚寅。伊賀國關。被任爲憲。
六日。辛卯。一條院東町。木守男。午時許死。件町候内障所也。祭料人人。假馬雜物等。他處出置。
九日。甲午。土御門。北垣修理初。〔以下三日間ヲ闕ク〕

十三日。戊戌。有御前作文事。
十五日。庚子。土御門。立北東廊等。
十七日。壬寅。從東三條。渡賴光朝臣宅。〔以下二日間ヲ闕ク〕
廿日。乙巳。雨下。
廿一日。丙午。雨下。御讀如常。渡給間。雨止。見物。
廿三日。戊申。雨下。依穢不參賀茂。
廿四日。己酉。天晴。祭事如常。見物。大裏穢。不立中宮使。近衛府使代官右兵衛佐孝明。他男女使等如常。
廿五日。庚戌。爲見物。内府同車。近衛代官稱病不渡。
廿六日。辛亥。早朝。渡土御門。初卅講。中宮御修善、〔奉ノ略カ〕仕濟信。東對〔以下五月十六日マデヲ闕ク〕

五月

十七日。辛未。丑時登山。入顯路。渡東塔。供養舍利會。巳時初事。有音樂。門樓座母屋。從東北間。西面僧綱座。其後三僧綱座。母屋從西北間。折東。爲上達部座。其後殿上人座。餘如常。件座有酒。〔此字半蝕セリ、饌カ〕又餘僧綱有非時。二百僧有俸物。座主絹十疋。紙百帖。僧都絹六疋。紙七十帖。律師絹四疋。紙六十帖。前僧等紙四十帖。法僧紙三十帖。絹各一疋。僧綱有別被物。座主綾掛一重。袴。法僧綱掛一重。